

2024年度

大学院要覧

理工学研究科



青山学院大学

青山学院教育方針

THE EDUCATIONAL POLICY OF AOYAMA GAKUIN

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

Aoyama Gakuin has as its aim
education based upon the Christian faith
and as its purpose the building up of persons
who live in sincerity before God,
who seek for truth with humility,
and who actively take responsibility for all people
and for society in a spirit of love and service.

青山学院大学の理念

THE MISSION OF AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、
神と人ともに仕え社会に貢献する「地の塩、世の光」
としての教育研究共同体である。

本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識を
もって自ら問題を発見し解決する知恵と力をもつ人
材を育成する。

それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研
究を通してなされる。

本学のすべての教員、職員、学生は、相互の人格
を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、おのおの
の立場において、時代の要請に応えうる大学の創出
に努める。

Aoyama Gakuin University is an educational and
research institution based on the Educational Policy
of Aoyama Gakuin which is to serve God and
persons, contributing to society as the Salt of the
Earth and Light of the World.

Our institution nurtures persons who, with a sound
understanding based on global perspectives,
possess the wisdom and strength with which to
discover and solve issues personally. This is
achieved through a wide range of barrier free
academic research that pursues service and
commitment to humanity.

With respect for one another and the traditions of
our institution, all faculty members, personnel and
students are making an effort towards the creation
of a university that is able to respond to the needs of
its era.

目 次

教育研究上の目的	1
大学院の組織・役職員	3
教 員 組 織	5
1. 博 士 前 期 課 程	7
2. 博 士 後 期 課 程	12
博 士 前 期 課 程	17
1. 学業に関する諸注意（博士前期課程）	19
修了に関する諸注意	23
2. 授 業 科 目 配 置 表	24
3. 履 修 モ デ ル の 一 例	30
4. 学位申請までの研究指導プロセス	34
5. 学位論文審査基準	34
6. 修 了 要 件	35
博 士 後 期 課 程	37
1. 学業に関する諸注意（博士後期課程）	39
修了に関する諸注意	43
2. 授 業 科 目 配 置 表	44
3. 研 究 指 導 計 画	46
4. 博士の学位申請に際しての諸注意事項	46
5. 理工学研究科における博士論文審査および学位授与要項	47
6. 博士論文審査手続一覧	50
7. 学位論文審査基準	51
教職課程の履修について	61
学生生活上の諸注意	69
大学建物配置図（相模原キャンパス）	79
カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー	101

教育研究上の目的

人材養成上の目的

人類世界の存続と、更なる発展を可能とするために、豊かな自然環境の保全と平和で活力ある社会環境の創生が求められている。これらの理想を実現するためには理学と工学に基礎を置いた“科学・技術”の革新と展開が不可欠である。このような社会的要請に応えうる人材は、関連する専門分野における確たる基礎力の上に築かれた深い洞察力と高い実行力を有するだけでなく、その周辺の学問分野も含めて広く人類社会を俯瞰する視野と自然環境に対する謙虚な姿勢を堅持している必要がある。

理工学研究科（以下「本研究科」という。）では、キリスト教の精神に基づいた本学の行う教育基盤に立って人格を陶冶し、専門の学術の教授・訓練を通して精深な学識と研究能力を養うとともに、堅実な社会人として国際的にリーダーシップを発揮し、「地の塩、世の光」として文化の発展・創生に寄与し得る人物の養成を目的とする。

博士前期課程では、学部教育における人間形成のための幅広い教養並びに専門的教養基盤に立って、専攻分野における基礎力・応用力の充実はもちろんのこと、研究分野に関わる精深な学識と研究への真摯な姿勢と能力を養う。

博士後期課程では、前期課程での教育成果の上に、独創的研究を通して従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の発展・創生に寄与するとともに、専門分野におけるこれからの研究を先導し得る能力を養う。

学生に修得させるべき能力等の教育目標

博士前期課程では、質の高い専門科目及び社会への視野を広めるための専門科目に加えて実践的英語教育科目をバランスよく配置することにより、専門分野における深い知識と応用力ばかりでなく、国際的な場で研究を発表し討論する語学力と社会及び環境に対する広い視野や高い倫理観に基づく判断力とを同時に養成する。また、修士論文の研究指導を通して問題解決能力と問題発見能力を身につけさせることを目標とする。

博士後期課程では、指導教員の指導の下で自発的に研究を計画・遂行し、研究室学生リーダーとして修士研究や卒業研究を行う学生のよき模範となることに加えて、自らの研究成果を公表・刊行することを旨とし、対外的な活動を通して自立した研究者に成長するための素養を修得させる。内外の大学・大学院や研究機関等において、自ら科学・技術の最先端を切り開いてゆくことのできる研究者の養成を目指す。

体系的な教育の課程

これからの科学技術の発展を担う人材は、各分野における深い専門知識と他の専門分野の素養を併せ持ち、幅広い視野に立って研究を遂行し、応用力を発揮できる人物でなければならない。本研究科では、そのような特性を持った人材を育成すべく、従来の学問分野の壁を取り去り、1専攻8専修コースの構成にしている。授業科目においても、専攻共通科目として、科学技術英語、科学技術倫理、環境、福祉などの、視野の拡大と優れた人格形成に有用な科目を配置している。1専攻8専修コースの構成により、

- (1) 大学における卒業学科に関わらず、興味を持つコースに進学できる。
- (2) 理工学専攻の共通科目と専修コース科目及び他コース科目をバランスよく履修できる。
- (3) 従来の学問分野の壁を越えた協力体制のもとで最先端の研究を遂行できる。
- (4) 学際領域や新しい学問領域を研究対象にすることができる。

などの特色を持たせている。

教育研究環境の整備について

- (1) 現状の恵まれた施設・設備環境の活用に加え、学部附置機関である「機器分析センター」「先端技術研究開発センター」「先端情報技術研究センター」、大学附置機関である「総合研究所」「情報メディアセンター」との緊密な連携を図る。
- (2) 文部科学省等の省庁および公的機関が公募する、教育・研究プロジェクト採択に向けて学部・研究科全体として取り組む。
- (3) 研究領域の拡大と大学院教育の多様化を目的とした制度として、独立行政法人・私立等の研究所と協定に基づき連携して研究教育を行う連携大学院方式を整備している。北里大学医学部とは独自に研究協力協定を結んでいる。これら他研究機関との人的・物的交流について、その成果を総括するとともに、さらなる連携について検討し、幅広い研究・教育システムを確立していく。
- (4) 教員個々の研究活動の充実を図るべく、自己点検・評価活動を充実させ、研究活動の公開と学部・専攻内の連携をさらに強化する。

※青山学院大学大学院学則 別記研究科又は専攻の教育研究上の目的（第5条の2関係）

教育の特徴

(1) コース制度

理工学研究科は全体を1つの専攻（理工学専攻）とし、その中に8専修コースを設けています。専修コースの内容は以下のとおりです。

① 基礎科学コース

自然科学の基礎である数理科学、理論物理学（物性、固体、宇宙など）、実験物理学（原子・分子、凝縮系、宇宙など）を中心とし、さらに数理生物学、複雑系、地震やレオロジー、量子多体系、量子制御、スピントロニクスなど新分野へも視野を広げています。これら専門分野の研究に携わることは自然科学の神髄に迫る醍醐味を味わうことでもあり、同時に、山積する多種多様で千姿万態な問題の中から本質的な課題を見つけ出し、モデルを構築してそれを解決する能力を養うことにも通じます。深い教養に裏打つけられた知性に富む、自律的、能動的、かつ直感性に優れた人才を涵養します。

② 化学コース

物理化学、有機化学、無機化学の3分野で構成されています。分子および分子集合体を対象にして、化学本来の視点から研究を遂行し、幅広く深い化学的素養を身につけた人材を育成します。

③ 機能物質創成コース

新機能を持つ物質の創成を中心に、物質設計やデバイス作製等の応用も視野に入れた総合的な研究を行うことを目的としています。物性物理学、固体化学、物質科学、薄膜工学、電気物性工学、表面科学等のいずれかを基礎におきつつ、分野を横断し幅広い知識に精通した、最先端の物質科学を行う人材を育成します。

④ 生命科学コース

生命科学の急速な進歩は、新たな学問領域や産業領域を切り拓き、社会に対しても大きな影響を与えつつあります。生命科学コースでは、この広い領域の共通基盤となる知識を身に付け、生命現象を担う分子の構造、機能、およびその調節機構の研究を通して、自ら研究を進める能力の育成を目指しています。また、理工学専攻中の生命科学という特色を生かし、医薬品、食品などの既存分野だけでなく、生命科学領域をフロンティアとする新しい技術の開発にも貢献できる人材を育てたいと考えています。

⑤ 電気電子工学コース

回路系から情報通信系、材料・物性系まで広い研究分野の研究室がそれぞれ大学院生を受け入れています。技術者、研究者を目指す者として、現代社会の基盤を支えるエネルギー分野、計測・制御分野、情報・通信分野、電子デバイス分野、材料・物性分野、またそれらの関連分野を対象に学習、研究を進めています。研究指導を重視し、それらを通して自ら考える能力、発見能力、問題解決能力の育成に努めます。技術者、研究者を目指す者として大学院で何を追究したいのか、目的意識をはっきりと持って進学してもらいたいと思います。

⑥ 機械創造コース

本コースは、人類の持続的発展に役立ち、優れた機能を持つ機器やシステムを創造する研究者と技術者を養成します。すなわち、エネルギー・環境・安全・倫理に対する広い視野に立って、ものの形や機構と力学的作用を深く理解させる教育・研究を行います。さらに、機械に代表されるハードと知能に代表されるソフトとの融合を図り、進んだ情報処理能力、高度な計測技術と解析技術を修得させ、研究指導を通じて総合力を養い、自ら問題発掘と解決のできる学生を育てます。

⑦ 知能情報コース

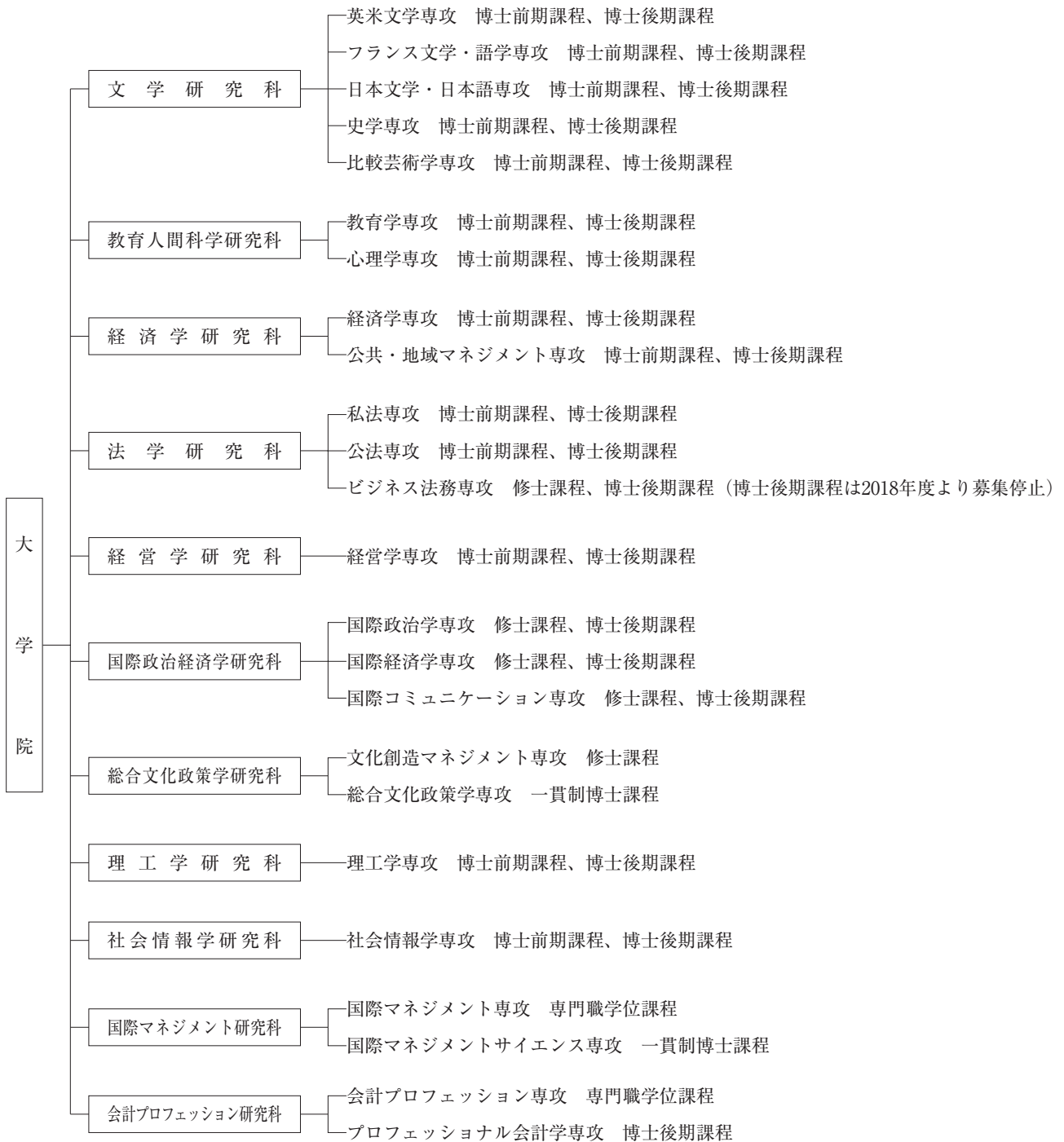
知能情報コースの教育と研究はデータサイエンス、知能工学と自然言語処理、コンピュータ・ビジョン、ロボティクス、コンピュータグラフィックス、コンピュータヒューマンインタラクション、ウェアラブルコンピューティング、ネットワーク技術とウェブ技術を含む計算機や情報に関連する幅広い分野を網羅している。新しい技術の創造と習得、ならびに人間社会内のその技術の役割の理解がコースの目的です。

⑧ マネジメントテクノロジーコース

製品ライフサイクル、生産システム、サプライチェーン、経営技術、環境経営、品質経営などの現代社会が抱える問題領域について、データサイエンス（分析技術）、システムデザイン（モデル化技術）、ソリューションデザイン（最適化技術）の観点に立ったそれらのマネジメントに必要な概念・方法論・システムの構築とその運用を学び、研究します。経営システム工学科のみならず他学科、他学部の卒業生の受け入れを歓迎する方針です。

大学院の組織・役職員

1. 大学院の組織



2. 役職員

院	長	山本与志春
学	長	稲積宏誠
副学	長	杉本卓
副学	長	中里宗敬
副学	長	内田達也
文学研究科	長	小林和幸
教育人間科学研究科	長	野末俊比古
経済学研究科	長	井上孝良
法学研究科	長	細川良彦
経営学研究科	長	久保田進彦
国際政治経済学研究科	長	内山義英
総合文化政策学研究科	長	竹内孝宏
理工学研究科	長	黄晋二
社会情報学研究科	長	宮川裕之
国際マネジメント研究科	長	細田高道
会計プロフェッション研究科	長	山口直也

<理工学研究科>

理工学専攻教務主任	鷺見和彦
教務主任（基礎科学コース）	西山亨
教務主任（化学コース）	鈴木正
教務主任（機能物質創成コース）	下山淳一
教務主任（生命科学コース）	田邊一仁
教務主任（電気電子工学コース）	石河泰明
教務主任（機械創造コース）	麓耕二
教務主任（知能情報コース）	山口博明
教務主任（マネジメントテクノロジーコース）	水山元

教 員 組 織

1. 博士前期課程

理工学専攻

基礎科学コース

研究指導教員		専門分野
教 授	市原直幸	確率論、偏微分方程式論
	坂上貴洋	ソフトマター物理学
	坂本貴紀	重力波源の電磁波対応天体の探査
	谷口健二	表現論、球関数
	津田照久	複素領域の微分方程式、特殊函数
	中山裕道	位相幾何学、力学系、微分位相幾何学
	西山 享	表現論、調和解析、離散数学
	前田はるか	原子物理学実験、量子制御、極低温リユードベリ原子・プラズマ
	増田 哲	非線形可積分系
	松川 宏	摩擦の物理
	松本裕行	確率論、微分方程式論
	山崎 了	宇宙物理学、高エネルギー天文学
吉田篤正	宇宙物理学、トランジェント天体	
准教授	中田行彦	遅延微分方程式、数理生物学
	松田能文	位相幾何学、幾何学的群論
	山中 卓	数理ファイナンス
客員教授 (連携大学院方式)	吉田哲也	気球工学、宇宙粒子物理学、素粒子物理学実験 (大学担当教員は坂本 貴紀教授)
客員准教授 (連携大学院方式)	山口弘悦	宇宙物理学、X線天文学 (大学担当教員は山崎 了教授)
コース兼任教授	富重道雄	生物物理学、一分子計測、生体分子機械
	古川信夫	物性理論、新規機能性物質の材料設計

化学コース

研究指導教員		専門分野
教 授	阿部二郎	量子化学、物性化学、機能物質化学
	坂本章	物理化学、分子分光学、構造化学
	杉村秀幸	天然物合成化学、生体機能分子の設計と合成
	鈴木 正	物理化学、レーザー光化学
	武内 亮	有機化学、有機合成化学、有機金属化学
	長谷川美貴	錯体化学、ランタニド錯体の光化学
准教授	中田恭子	理論化学、固体物性理論、ナノ炭素材料

機能物質創成コース

研究指導教員		専門分野
教 授	北野 晴久	物性物理学、超伝導と電荷秩序、マイクロ波物性
	重里 有三	固体化学、高度な機能を有する無機薄膜材料の創成
	下山 淳一	固体欠陥化学、新機能材料創成、新超伝導物質開発
	春山 純志	メゾスコピック系の物理学、量子ナノデバイスの開発
	古川 信夫	物性理論、新規機能性物質の材料設計
	三井 敏之	表面科学、生物物理学
客員教授 (連携大学院方式)	竹歳 尚之	ナノ薄膜・界面の熱物性、薄膜・微小領域熱物性計測技術の開発 (大学担当教員は重里 有三教授)
	八木 貴志	固体物理学、熱物性解析 (大学担当教員は重里 有三教授)
	山下 雄一郎	材料科学、固体物理学、材料データベース (大学担当教員は重里 有三教授)
コース兼任教授	黄 晋二	電子デバイス工学、結晶成長、電子材料工学

生命科学コース

研究指導教員		専門分野
教 授	阿部 文快	分子生物学、生化学、生物物理学、圧力生理学、分子遺伝学
	木谷 茂	応用微生物学、天然物化学、生化学、分子生物学
	諏訪 牧子	バイオインフォマティクス、計算生物学、生物物理学、ゲノム情報学、生命情報に基づくタンパク質の構造・機能予測
	田邊 一仁	生体分析化学、分子イメージング、生物有機化学、核酸化学
	富重 道雄	生物物理学、一分子計測、生体分子機械
	平田 普三	生化学、分子生物学、細胞生物学、発生生物学、生理学、脳科学、疾患、老化
コース兼任教授	三井 敏之	表面科学、生物物理学

電気電子工学コース

研究指導教員		専門分野
教 授	石河 泰明	電子物性工学、薄膜デバイス
	黄 晋二	電子デバイス工学、結晶成長、電子材料工学
	外林 秀之	光ネットワーク、光センシング
	地主 創	情報・通信理論
	野澤 昭雄	生体計測工学
	松本 洋和	パワーエレクトロニクス
	米山 淳	制御工学、システム理論
准 教授	須賀 良介	マイクロ波工学、環境電磁工学
	全 俊豪	高電圧、大電流、大気圧プラズマ
	横式 康史	アナログ・デジタル回路、CMOS集積回路

機械創造コース

研究指導教員		専門分野
教 授	熊野 寛之	熱・環境工学、伝熱工学、蓄熱技術
	菅原 佳城	機械力学、制御工学、航空宇宙工学、ロボット工学
	長 秀雄	材料科学、超音波計測、非破壊評価
	麓 耕二	熱流体工学、エネルギー変換工学、生体熱工学
	横田 和彦	航空宇宙工学、航空宇宙エンジン工学、流体力学、流体振動学、ターボ機械学
	米山 聡	材料力学、実験力学
	渡邊 昌宏	流体関連振動、流体構造連成力学、振動工学
准 教授	田崎 良佑	生産加工、人間ロボット共生、システム制御工学
	蓮沼 将太	材料強度学、金属疲労、マルチスケール解析
客員教授 (連携大学院方式)	徳川 直子	流体力学 (大学担当教員は横田 和彦教授)
	後藤 健	宇宙構造、材料工学、複合材料工学 (大学担当教員は米山 聡教授)
	森 治	宇宙機システム、宇宙機の動力学・制御 (大学担当教員は菅原 佳城教授)
客員准教授 (連携大学院方式)	熊澤 寿	構造力学、材料力学、航空宇宙工学 (大学担当教員は蓮沼 将太准教授)

知能情報コース

研究指導教員		専門分野
教 授	Dürst, Martin J.	ワールドワイドウェブ、ソフトウェアの国際化、ソフトウェア科学
	Lopez, Guillaume F.	ウェアラブルコンピューティング、人間情報学
	伊藤 雄一	ヒューマンコンピュータインタラクション、無意識コンピューティング、バーチャルリアリティ
	大原 剛三	発見科学、データマイニング、機械学習、社会ネットワーク分析
	楽 詠瀬	コンピュータグラフィックス、レンダリング、アニメーション、デジタルファブリケーション、物理シミュレーション、計算統計
	鷺見 和彦	パターン認識 (画像認識・画像理解・コンピュータビジョン)、セキュリティ (映像セキュリティ・生体個人認証)
	戸辺 義人	情報通信工学、実世界コンピューティング
	中園 嘉巳	生体情報学、神経生理学
	森田 武史	知識工学、オントロジー工学、セマンティックウェブ、ウェブインテリジェンス、知能ソフトウェア工学
	山口 博明	ロボット工学、制御工学、メカトロニクス

マネジメントテクノロジーコース

研究指導教員		専門分野
教授	大内紀知	イノベーション・マネジメント、技術経営学、データ分析
	小野田 崇	機械学習、設備診断・サイバーセキュリティ、人工知能、ビッグデータ解析
	熊谷 敏	経営工学、経営管理システム
	栗原陽介	システム工学、情報工学、計測工学、信号処理
	宋 少秋	組合せ最適化、ゲーム理論、オペレーションズ・リサーチ
	松本俊之	インダストリアル・エンジニアリング、改善技術、生産情報システム
	水山 元	生産システム工学、生産管理、集合知
准教授	小林和博	数理工学、数理最適化、サイバーフィジカルシステム
	齊藤史哲	品質情報システム、評価構造、品質管理技術、経営品質評価、品質管理教育

担当教員	
兼任教授	REEDY, David W.
兼任准教授	ROBERTSON, Charles E.

(1) コース兼任担当制度について

本学大学院理工学研究科の教員である者のうち、以下の①②の両方に該当する者は、コース兼任担当（コース兼任）の資格者です。本研究科教員は、入学試験合格者の希望に基づき、本研究科での資格審査で承認された場合、コース兼任担当者となることができます。入学を希望する専修コースと、希望する研究指導教員の所属専修コースが異なる場合は、出願時に希望する研究指導教員に必ず申し出てください。

- ① 専門とする研究が、他コースの研究分野を跨ぐ、境界領域に発展している教員。
- ② 分野を跨ぐ境界領域での研究を主題とする学生が、研究指導を希望している教員。

(2) 連携大学院方式について

連携大学院方式とは、青山学院大学大学院理工学研究科（以下「大学院」という。）が国立・私立等の研究所等（以下「研究所」という。）と協定に基づき連携をして、研究所の研究者を本学の客員教授または客員准教授（以下「客員教員」という。）として委嘱し、大学院理工学研究科の学生（以下「大学院学生」という。）は最新の設備と機能を有する研究所において、それらの客員教員から修士論文及び博士論文の研究指導等を受け、大学院の研究領域の拡大はもとより新たな学問の領域の確立を図り、大学院教育を多様化することを目的とした制度である。

客員教員

本学大学院において必要と認められる研究分野について、研究所の研究員を客員教員として委嘱する。

大学担当教員

本大学院の専任教員がこれにあたり、客員教員に協力して、大学院学生の研究指導等について補完的役割を担う。

大学院学生

本学大学院に在籍し、課程修了に必要な単位は本学で修得する。研究指導は原則として研究所において客員教員から受けることとなる。履修登録方法などは、年度初頭のオリエンテーションで確認すること。

2. 博士後期課程

理工学専攻

基礎科学コース

研究指導教員		専門分野
教授	市原直幸	確率論、偏微分方程式論
	坂上貴洋	ソフトマター物理学
	坂本貴紀	重力波源の電磁波対応天体の探査
	谷口健二	表現論、球関数
	津田照久	複素領域の微分方程式、特殊函数
	中山裕道	位相幾何学、力学系、微分位相幾何学
	西山 享	表現論、調和解析、離散数学
	前田はるか	原子物理学実験、量子制御、極低温リユードベリ原子・プラズマ
	増田 哲	非線形可積分系
	松川 宏	摩擦の物理
	松本裕行	確率論、微分方程式論
	山崎 了	宇宙物理学、高エネルギー天文学
	吉田篤正	宇宙物理学、トランジェント天体
准教授	山中 卓	数理ファイナンス
コース兼任教授	富重道雄	生物物理学、一分子計測、生体分子機械
	古川信夫	物性理論、新規機能性物質の材料設計
客員教授 (連携大学院方式)	吉田哲也	気球工学、宇宙粒子物理学、素粒子物理学実験 (大学担当教員は坂本 貴紀教授)

化学コース

研究指導教員		専門分野
教授	阿部二郎	量子化学、物性化学、機能物質化学
	坂本章	物理化学、分子分光、構造化学
	杉村秀幸	天然物合成化学、生体機能分子の設計と合成
	鈴木正	物理化学、レーザー光化学
	武内亮	有機化学、有機合成化学、有機金属化学
	長谷川美貴	錯体化学、ランタニド錯体の光化学

機能物質創成コース

研究指導教員		専門分野
教 授	北 野 晴 久	物性物理学、超伝導と電荷秩序、マイクロ波物性
	重 里 有 三	固体化学、高度な機能を有する無機薄膜材料の創成
	下 山 淳 一	固体欠陥化学、新機能材料創成、新超伝導物質開発
	春 山 純 志	メゾスコピック系の物理学、量子ナノデバイスの開発
	古 川 信 夫	物性理論、新規機能性物質の材料設計
	三 井 敏 之	表面科学、生物物理学
客員教授 (連携大学院方式)	竹 歳 尚 之	ナノ薄膜・界面の熱物性、薄膜・微小領域熱物性計測技術の開発 (大学担当教員は重里 有三教授)
	八 木 貴 志	固体物理学、熱物性解析 (大学担当教員は重里 有三教授)
	山 下 雄 一 郎	材料科学、固体物性理論、ナノ炭素材料 (大学担当教員は重里 有三教授)
コース兼任教授	黄 晋 二	電子デバイス工学、結晶成長、電子材料工学

生命科学コース

研究指導教員		専門分野
教 授	阿 部 文 快	分子生物学、生化学、生物物理学、圧力生理学、分子遺伝学
	木 谷 茂	応用微生物学、天然物化学、生化学、分子生物学
	諏 訪 牧 子	バイオインフォマティクス、計算生物学、生物物理学、ゲノム情報学、生命情報に基づくタンパク質の構造・機能予測
	田 邊 一 仁	生体分析化学、分子イメージング、生物有機化学、核酸化学
	富 重 道 雄	生物物理学、一分子計測、生体分子機械
	平 田 普 三	生化学、分子生物学、細胞生物学、発生生物学、生理学、脳科学、疾患、老化
コース兼任教授	三 井 敏 之	表面科学、生物物理学

電気電子工学コース

研究指導教員		専門分野
教 授	石 河 泰 明	電子物性工学、薄膜デバイス
	黄 晋 二	電子デバイス工学、結晶成長、電子材料工学
	外 林 秀 之	光ネットワーク、光センシング
	野 澤 昭 雄	生体計測工学
	松 本 洋 和	パワーエレクトロニクス
	米 山 淳	制御工学、システム理論
准 教 授	須 賀 良 介	マイクロ波、環境電磁工学

機械創造コース

研究指導教員		専門分野
教 授	熊 野 寛 之	熱・環境工学、伝熱工学、蓄熱技術
	菅 原 佳 城	機械力学、制御工学、航空宇宙工学、ロボット工学
	長 秀 雄	材料科学、超音波計測、非破壊評価
	麓 耕 二	熱流体工学、エネルギー変換工学、生体熱工学
	横 田 和 彦	航空宇宙工学、航空宇宙エンジン工学、流体力学、流体振動学、ターボ機械学
	米 山 聡	材料力学、実験力学
	渡 邊 昌 宏	流体関連振動、流体構造連成力学、振動工学
客員教授 (連携大学院方式)	徳 川 直 子	流体力学 (大学担当教員は横田 和彦教授)
	後 藤 健	宇宙構造、材料工学、複合材料工学 (大学担当教員は米山 聡教授)
	森 治	宇宙機システム、宇宙機の動力学・制御 (大学担当教員は菅原 佳城教授)
客員准教授 (連携大学院方式)	熊 澤 寿	構造力学、材料力学、航空宇宙工学 (大学担当教員は蓮沼 将太准教授)

知能情報コース

研究指導教員		専門分野
教 授	Dürst, Martin J.	ワールドワイドウェブ、ソフトウェアの国際化、ソフトウェア科学
	Lopez, Guillaume F.	ウェアラブルコンピューティング、人間情報学
	伊 藤 雄 一	ヒューマンコンピュータインタラクション、無意識コンピューティング、バーチャルリアリティ
	大 原 剛 三	発見科学、データマイニング、機械学習、社会ネットワーク分析
	楽 詠 瀬	コンピュータグラフィックス、レンダリング、アニメーション、デジタルファブリケーション、物理シミュレーション、計算統計
	鷺 見 和 彦	パターン認識 (画像認識・画像理解・コンピュータビジョン)、セキュリティ (映像セキュリティ・生体個人認証)
	戸 辺 義 人	情報通信工学、実世界コンピューティング
	森 田 武 史	知識工学、オントロジー工学、セマンティックウェブ、ウェブインテリジェンス、知能ソフトウェア工学
	山 口 博 明	ロボット工学、制御工学、メカトロニクス

マネジメントテクノロジーコース

研究指導教員		専門分野
教 授	大 内 紀 知	イノベーション・マネジメント、技術経営学、データ分析
	小野田 崇	機械学習、設備診断・サイバーセキュリティ、人工知能、ビッグデータ解析
	熊 谷 敏	経営工学、経営管理システム
	栗 原 陽 介	システム工学、情報工学、計測工学、信号処理
	宋 少 秋	組合せ最適化、ゲーム理論、オペレーションズ・リサーチ
	松 本 俊 之	インダストリアル・エンジニアリング、改善技術、生産情報システム
	水 山 元	生産システム工学、生産管理、集合知

(1) コース兼任担当制度について

本学大学院理工学研究科の教員である者のうち、以下の①②の両方に該当する者は、コース兼任担当（コース兼任）の資格者です。本研究科教員は、入学試験合格者の希望に基づき、本研究科での資格審査で承認された場合、コース兼任担当者となることができます。入学を希望する専修コースと、希望する研究指導教員の所属専修コースが異なる場合は、出願時に希望する研究指導教員に必ず申し出てください。

- ① 専門とする研究が、他コースの研究分野を跨ぐ、境界領域に発展している教員。
- ② 分野を跨ぐ境界領域での研究を主題とする学生が、研究指導を希望している教員。

(2) 連携大学院方式について

連携大学院方式とは、青山学院大学大学院理工学研究科（以下「大学院」という。）が国立・私立等の研究所等（以下「研究所」という。）と協定に基づき連携をして、研究所の研究者を本学の客員教授または客員准教授（以下「客員教員」という。）として委嘱し、大学院理工学研究科の学生（以下「大学院学生」という。）は最新の設備と機能を有する研究所において、それらの客員教員から修士論文及び博士論文の研究指導等を受け、大学院の研究領域の拡大はもとより新たな学問の領域の確立を図り、大学院教育を多様化することを目的とした制度である。

客員教員

本学大学院において必要と認められる研究分野について、研究所の研究員を客員教員として委嘱する。

大学担当教員

本大学院の専任教員がこれにあたり、客員教員に協力して、大学院学生の研究指導等について補完的役割を担う。

大学院学生

本学大学院に在籍し、課程修了に必要な単位は本学で修得する。研究指導は原則として研究所において客員教員から受けることとなる。履修登録方法などは、年度初頭のオリエンテーションで確認すること。

博士前期課程

1. 学業に関する諸注意（博士前期課程）

I. 学籍について

1. 修業年限（在学期間）

博士前期課程の標準修業年限は2年である。なお、4年を超えて在学することはできない。

2. 休学・復学・退学・再入学

1) 休学願

病気その他やむを得ない事情で、学業を一時中断しなければならない場合は、事由発生後おそくとも1カ月以内に所定の「休学願」（保証人の連署が必要）を学務担当窓口へ提出のこと。病気による休学の場合は診断書を必ず添付すること。

(イ) 休学期間

- ・休学期間は、1年または1学期ごとに更新し、連続2年までとする。ただし、特にやむを得ない場合に限り連続3年まで認めることがある。
- ・休学期間は通算して3年を超えることはできない。
- ・休学期間は在学期間に算入しない。

(ロ) 休学願提出期限

- ・休学願提出期限は次のとおりとする。

通年または前期のみの休学願……………6月末日まで

後期のみの休学願……………12月末日まで

- ・提出期限を過ぎてからの休学願は、原則として受付けない。
- ・所定の期間内の休学願の取消しは審査のうえ認める場合もある。

(ハ) 休学費

休学中である者の学費等は、次のとおりとする。

- ・通年休学の場合……………在籍基本料の前期分および後期分
 - ・前期のみ休学の場合……………在籍基本料の前期分
 - ・後期のみ休学の場合……………在籍基本料の後期分
- なお、休学中である者は、諸会費の納入を要しない。

2) 復学願

休学期間終了後復学し、再び学業を継続する場合は、所定の「復学願」（保証人の連署が必要）を、おそくとも下記の期日までに学務担当窓口へ提出すること。病気による休学であった場合は、必ず診断書も添付すること。

 前期のみ休学した場合……………8月下旬

 後期のみ休学した場合 } ……2月下旬

 通年休学した場合 }

3) 退学願

病気その他やむを得ない事情で、退学しなければならない場合は、所定の「退学願」（保証人の連署が必要）に**学生証を添えて**、学務担当窓口へ提出すること。この場合、退学期日を含む学期までの学費を完納しておかなければならない。在学期間満了による退学の場合も必ず上記の「退学願」を提出すること。

4) 再入学

再入学の願い出ができる期間は、原則として退学した日から2年以内とし、再入学できる時期は学年の初めとする。また、再入学願の提出期限は、前年度の1月末日とする。

なお、在学できる年限は、博士前期課程入学時（再入学時ではない）より休学期間および再入学までの離籍期間を除き4年以内となる。再入学を希望する場合は、事前に学務担当窓口へ申し出て相談のこと。

3. 除籍

休学あるいは退学等の願出を行わないまま履修の未登録、学費の未納、滞納等の事実がある場合は、学業継続の意志なき者とみなし「除籍」の処置がとられ、本大学院学生の身分を失うこととなる。

除籍者には、除籍の証明を除き証明書の発行が停止される。

II. 授業科目の履修について

1. 履修登録

- 1) 履修する授業科目については、必ず所定の期限までに登録の手続を行うこと。原則として前期の科目は前期に、後期の科目は後期に登録を行う。一部例外として、前期に後期の科目に登録する場合がある。

履修登録をしていない授業科目は試験等を受けても単位および成績は無効となる。

また期日までに登録をしない場合は、修学の意志なきものとみなす処置がとられる。

前期履修登録期間、後期履修登録期間については学生ポータルで必ず確認し、時間厳守のこと。

2) 履修登録方法について

- (a) Web で登録する科目と、一部例外として、固有の登録方法を案内する科目がある。

(b) 登録時にエラーチェックや内容の有効性を判定するので、各自登録内容をその場でチェックし、履修登録締切日までに、各自の責任において、履修の誤りのない状態にしておくこと。

- (c) 履修登録締切日以降の修正は認めない。

3) 履修登録に際しての注意について

- (a) 登録した科目以外のものを受講することはできない。

(b) 同一時間に2科目以上を重複登録することは一切許されない。また、大学院要覧上特に許可された科目を除き、既に単位を取得した科目を再度履修登録はできず、前段階の課程で取得した科目（異名称同一科目を含む）も登録することはできない。

- (c) 履修登録後、登録に不備や間違いがあったときは当該科目の登録を無効とする。

- (d) 履修登録する科目は、登録前に指導教員と相談し許可を得ること。

特に、理工学研究科及び理工学部以外の科目を履修登録する場合は所定用紙に該当科目を記入し、授業担当者の確認を得てから登録すること。

- (e) 授業科目は、名称変更した科目（授業科目配置表に旧名称が付されている科目）がある。それらの科目を旧名称で単位を取得した者は、新名称の科目を履修することはできない。

(f) 曜日時限の確定している科目と、集中科目等の日程が一時限でも重複する場合は、原則履修することができない。しかし中には例外の科目がある場合があり、この際は別途案内を行う。

- (g) 履修登録の学期と、成績が付く学期が異なる科目があるので、十分に注意をすること。

（例えば、「夏期集中科目」で8月中旬に講義を行う場合、登録は前期だが成績の開示は後期となる。）

- (h) 学務課から開示されている科目の曜日・時限・日程以外にも、各授業担当者の主催する輪講などが別途設定されている場合があるので、授業担当者へよく確認をすること。

- (i) 理工学研究科は、年度毎の最高履修制限単位数に原則上限はない。

4) 履修登録結果の確認について

履修登録結果は、履修登録期間に各自学生ポータルから履修登録リストを出力して必ず確認すること。確認を怠ったために生じた問題について大学側は一切責任を負わない。

5) 履修取消制度について

授業の内容が研究したいことと異なっていた場合、各期の履修登録（変更）期間終了後の一定期間内であれば履修を取りやめることができる。

・対象者：全入学年度の在籍生

・履修取消科目の成績評価の表示：成績通知書 「W」

成績証明書 表示しない

履修取消の申請は、期間内に学務課窓口で本人からの申請のみ受け付ける。申請後の取り下げは一切認めない。期間は、別途学生ポータルにて指示する。

※なお、理工学研究科在籍者は、必ず研究指導教員の許可を必要とする。

2. 授業期間および授業時間について

大学院においては定期試験期間はとくに定めず、学期終了（補講日を除く）まで授業を行う。

講義または演習は下記の時間割によって行われる。

研究指導は曜日・時限をとくに定めないので研究指導教員と学生の協議により時間を取り決めて行うこととする。

時 限	第1時限	礼 拜	第2時限	昼休み	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限	第7時限
時 間	9 : 00	10 : 30	11 : 00	12 : 30	13 : 20	15 : 05	16 : 50	18 : 30	20 : 10
	10 : 30	11 : 00	12 : 30	13 : 20	14 : 50	16 : 35	18 : 20	20 : 00	21 : 40

3. 補講について

休講となった授業に対し、補講を行う場合がある。補講期間については学事暦を参照のこと。ただし補講期間外に補講を行う場合もある。詳細は担当者が授業時に発表するか、学生ポータルで発表するので随時確認すること。

4. 単位制について

1) 授業科目の履修には単位制が採用されている。

単位制とは、入学年度の履修規定に定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、授業参加度、レポート、発表等によって、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。

2) 単位計算の基準は、次のとおりである。科目ごとの単位は、授業科目配置表を参照のこと。

区 分	単位	単 位 計 算 の 基 準
講 義	1	毎週1時間15週の授業
演 習	1	毎週2時間15週の授業、または毎週1時間15週の授業
実験・実習	1	毎週3時間15週の授業

大学院設置基準では、“1単位の標準=45時間の学修が必要な内容”と規定されているため、15時間の講義科目（1単位）を例にとると、授業時間外に30時間の自習が前提となっている。

なお、ここでいう“1時間”とは、授業時間45分を表す。本学での1時限の授業は90分で行われているので、単位計算上は、1時限=2時間分の授業となる。

半期の講義科目では、2時間×15週=30時間分=2単位となる。

5. 成績評価について

1) 成績は授業科目ごとに評価される。

2) 成績は100点法によって評価され、60点以上を合格とし、所定の単位が与えられる。

3) 成績証明書および成績通知書にはAA、A、B、Cの評記が用いられる。

実数点範囲	学生への成績通知	成績証明書の記載
100~90	AA	AA
89~80	A	A
79~70	B	B
69~60	C	C
59点以下または不合格	XX	表示せず
欠席等評価不能※	X	表示せず
合格	合格	RR
入学前既修得単位認定	++	++
外国留学単位認定	**	**

※試験未受験、レポート未提出、出席不良等で評価不能であることを表す。

GPAについて（成績通知書に表示）

GPA（Grade Point Average）とは、学生の履修登録科目の1単位あたりの評点平均値を指す。

履修した科目には、A、B、C、XXなどの成績が与えられる。これらの評価を数値化して1単位ごとの平均を算出したものがGPAである。本学でGPA算出対象とする評価および、各評価に与えられる評点は次のとおりである。

本学評価	評点
AA	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
XX（不合格）	0.0
X（欠席等評価不能）	0.0

上記の評点を次の計算式に当てはめてGPAを算出する（「認定」・「合格」の科目は、GPA算出の対象外）。

$$GPA = \frac{(AAの単位数 \times 4) + (Aの単位数 \times 3) + (Bの単位数 \times 2) + (Cの単位数 \times 1)}{(AAの単位数 + Aの単位数 + Bの単位数 + Cの単位数 + XXの単位数 + Xの単位数)}$$

- 4) 履修科目の合・否および評価は、各学期末（9月・3月）に学生ポータルメニュー「成績通知書」により通知する。学外のパソコンから閲覧する場合は、あらかじめ学内で Secure Matrix パスワードの登録を済ませておく必要がある（詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照すること）。**成績通知書は各自で印刷し、修得した科目とその評価を確認すること。**
- 5) 成績評価に疑問がある場合は、「成績調査」を申請することができる。これは、科目担当者に対して、安易に再考・変更を求めるものではない。
成績に疑問を持つ**明確な根拠がある場合にのみ**大学が指定する調査期間中に、成績通知書持参のうえ申請者本人が学務課へ申し出ること。調査期間は、「学生ポータル」で通知する。
原則電話での問い合わせ、期間外・申請者本人以外の申し出には一切応じない。

6. 他研究科科目および学部科目についての取扱い

1) 他研究科の授業科目

研究指導教員が必要と認めた場合他研究科科目あるいは学部科目を指定して、履修させることができる。この場合の他研究科科目の単位は10単位を限度に所定の単位に充当することができる。履修希望者は、履修登録期間内に学務課窓口にて所定の手続きを行うこと。

2) 学部設置科目

研究指導教員・授業担当者の承認サインを受けたうえで、履修登録期間内に学務担当窓口で申し込みすることによって履修登録とする。なお、科目により履修制限があるので当該学部学務担当窓口で確認すること。学部設置科目の履修は、特に研究上の必要がある場合に限るものとし、1年間に10単位を限度とする（修了要件には含まない）。

7. 単位互換の協定による委託特別聴講生について

委託特別聴講生とは、本大学院学則の定めるところにより、学生が研究上の必要から、本大学院と聴講生に関する単位互換の協定を締結した他大学院の授業科目を聴講しようとする場合、協定校に委託される聴講生のことである。

- 1) 聴講を希望する学生は、指導教員を通じて学務課へ相談・申請すること。
- 2) 申請の時期は概ね履修登録期間に近いが、大学により時期が異なるので早目に相談すること。
- 3) 聴講は無料。
- 4) 修得した成績・単位は15単位を上限に所定の単位に充当することができる。（「5.」の他研究科・学部科目で修得した単位との合算）どの系列の単位とするかは所属コース、研究科教授会が決定する。

【協定大学院】

青山学院大学、麻布大学、神奈川大学、神奈川工科大学、神奈川歯科大学、鎌倉女子大学、関東学院大学、北里大学、相模原女子大学、松陰大学、湘南工科大学、昭和大学、情報セキュリティ大学院大学、女子美術大学、聖マリアンナ医科大学、専修大学、総合研究大学院大学、鶴見大学、田園調布学園大学、桐蔭横浜大学、東海大学、東京工業大学、東京工芸大学、東京都市大学、日本大学、フェリス女学院大学、文教大学、明治大学、横浜国立大学、横浜市立大学、横浜創英大学

※年度によって協定大学は変更される可能性があります。

修了に関する諸注意

1. 学 位

本大学院博士前期課程において、所属するコースを選択した上で2年（4学期）以上在学し、正規の研究を行い、所定の30単位以上を修得しかつ学位論文を提出し、その審査に合格し外国語認定を受けた者に修士の学位を授与する。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者については、1年（2学期）以上在学すれば足りるものとする。

理工学専攻 修士（理学）又は修士（工学）

2. 研究指導教員、コース

入学時に研究指導教員、コースを決定する。

ただし、研究科教授会の議を経て、研究指導教員、コースを変更することができる。

3. 外国語認定

理工学専攻必修科目「科学技術英語Ⅰ」の単位修得をもって行なう。

4. 学位論文

- 1) 博士前期課程の2年次に在学する者は、専攻の指示により、論文題目届を当該部署に提出するものとする。ただし、優れた研究業績を挙げた者については、この限りではない。
- 2) 論文提出の時期と部数については専攻の指示に従うものとする。
- 3) 論文には和文と欧文の題目および抄録を付すものとする。
- 4) 論文審査はその研究指導教員を主査とし、関連分野の研究指導教員を含む3名をもってこれを行う。
- 5) 論文は研究指導教員が保存し、その題目及び抄録を万代記念図書館にて保存するものとする。

5. 研究倫理教育（公正研究推進協会 APRIN eラーニングプログラム）の受講

本大学院に所属する学生には、研究倫理教育の受講を義務とする。各自で公正研究推進協会（APRIN）が提供（無料）する研究倫理 eラーニングコースを受講、修了し、定められた期間内に各研究科の事務窓口にて修了証を提出すること。修了証は入学年度以降に取得したものが課程修了まで有効となる。提出期限等の詳細については、年度初頭のガイダンスなどで告知する。修了証が未提出であると、論文（特定の課題についての研究の成果含む）の受理をしないことや、学位記を交付しない等の措置が行われる場合があるので注意すること。

本学博士前期課程から、本学博士後期課程へ進学した者は、博士後期課程での受講時に、博士前期課程での修了証提出を以って、再受講を免除する。

なお、研究倫理教育（eAPRIN）の受講に関する詳細は一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）のホームページにて確認すること。

2. 理工学専攻授業科目配置表

修了要件単位：30単位

カテゴリー	記号	必要な単位
1. 専攻必修科目	●	10単位
2. 専攻選択必修科目	△	2単位
3. コース基幹選択必修科目	○	8単位
4. 自由選択科目	※記号に関係なく	10単位

※1～3の必要な単位を越えて修得した単位 + 記号のない単位

[備考に関する補足]

- (英語講義) 履修者に関わらず、英語で授業を行う。
- (秋入学外国人留学生対応科目) 履修者に秋入学外国人留学生がいる場合、英語にて講義を行う。
- (博士後期課程科目) 博士後期課程でも開講している科目
- (DSプログラム科目) データサイエンティスト育成プログラム関連科目

系 列	授 業 科 目	単 位	週時間数		コ ー ス								備 考			
			前 期	後 期	基 礎 科 学	化 学	機 能 物 質 創 成	生 命 科 学	電 気 電 子 工 学	機 械 創 造	知 能 情 報	マ テ ク ノ ロ ジ ー				
専 攻 共 通 科 目	科学技術英語 I	2	2	2					●							
	科学技術英語 I (海外研修)	2	不定													
	科学技術英語 II	2		2					△							
	科学・技術と社会	2		2					△						(博士後期課程科目)	
	科学技術倫理	2	2						△						集中講義 (博士後期課程科目)	
	環境科学	1	2						△						集中講義 (博士後期課程科目)	
	リスクベース安全工学	1		2					△						集中講義 (博士後期課程科目)	
	福祉工学	2		2					△						(博士後期課程科目) (偶数年度開講)	
	知的財産	1	2						△						集中講義 前期の1/2 (博士後期課程科目)	
	製品安全と社会制度	2	2						△						集中講義 (博士後期課程科目)	
	インターンシップ	1	不定						△						(博士後期課程科目) 履修希望者は科目担当者 (専攻教務主任) に事前に相談すること	
	海外インターンシップ	1	不定						△							
	専 攻 門 科 目	理工学特別実験・演習 A	2	6						●						標準は1年次履修
		理工学特別実験・演習 B	2		6					●						
理工学特別実験・演習 C		2	6						●						標準は2年次履修	
理工学特別実験・演習 D		2		6					●							
理工学特別実験・演習 海外 I		2	6						●						コースの許可がある場合のみ履修可	
量子力学特論		2	2		○		○									
場の理論 A		2	2		○		○								(偶数年度開講)	
場の理論 B		2	2		○		○								(奇数年度開講)	
統計物理学特論 A		2		2	○		○								(偶数年度開講)	
統計物理学特論 B		2		2	○		○								(奇数年度開講)	
宇宙放射線特論		2	2		○										(偶数年度開講)	
宇宙物理特論 C		2	2		○										(奇数年度開講)	
データ解析特論		2		2	○										(偶数年度開講)	
宇宙物理特論 A		2		2	○										(奇数年度開講)	
一般相対論	2	2		○										(偶数年度開講)		
宇宙物理特論 B	2	2		○										(奇数年度開講)		

系 列	授 業 科 目	単 位	週時間数		コ ー ス							備 考	
			前 期	後 期	基 礎 科 学	化 学	機 能 物 質 創 成	生 命 科 学	電 気 電 子 工 学	機 械 創 造	知 能 情 報		マ ネ ジ ン グ メ ン ト
専 攻 専 門 科 目	最先端生命科学入門	2	2				○						本学化学・生命科学科出身者は履修不可 (偶数年度開講)
	生化学・分子生物学概論	2	2										集中講義
	細胞生物学	2	2				○						
	微生物化学特論	2	2				○						タンパク質科学特論(旧名称) (2021年度以前入学者用)
	生体分子イメージング	2	2				○						
	生体分子機械論	2	2										集中講義 (奇数年度開講)
	生体機能分析	2	2		○		○						(偶数年度開講)
	生命機能化学	2	2		○		○						
	ゲノム情報科学	2	2				○						(奇数年度開講)
	バイオテクノロジー特論	2	2				○						集中講義
	生命科学研究法A	2	2				○						科目中の課題選択に関しては事前に指導教員とよく相談すること。生命科学コースのみ履修可 集中講義
	生命科学研究法B	2	2				○						
	生命科学特論A	1	2										集中講義
	生命科学特論B	1	2										集中講義
	微生物分子生物学	2	2				○						
	神経科学	2	2				○						
	応用微生物学	2	2				○						構造生化学(旧名称) (2021年度以前入学者用) (偶数年度開講)
	バイオインフォマティクス特論	2	2				○						
	電子物性・材料特論I	2	2				○		○				(秋入学外国人留学生対応科目) (偶数年度開講)
	半導体工学特論	2	2				○		○				(秋入学外国人留学生対応科目) (奇数年度開講)
	電子物性・材料特論II	2	2				○		○				(秋入学外国人留学生対応科目) 集中講義 (偶数年度開講)
	電子物性工学特論	2	2				○		○				(秋入学外国人留学生対応科目) 集中講義 (奇数年度開講)
	電気電子工学特論I	2	2										集中講義
	電気電子工学特論II	2	2										集中講義
	生体電子工学特論	2	2						○				(秋入学外国人留学生対応科目) (奇数年度開講)
	マイクロ波・ミリ波計測特論	2	2						○				(秋入学外国人留学生対応科目) (偶数年度開講)
	環境電磁工学特論	2	2						○				(秋入学外国人留学生対応科目) (奇数年度開講)
	デジタル回路特論	2	2						○				電子回路特論(旧名称) (2023年度以前入学者用) (秋入学外国人留学生対応科目) (偶数年度開講)
	プラズマ工学	2	2				○		○				(秋入学外国人留学生対応科目) (偶数年度開講)
	アナログデジタル回路特論	2	2						○				(秋入学外国人留学生対応科目) (奇数年度開講)
	情報工学特論	2	2						○				(秋入学外国人留学生対応科目) (奇数年度開講)
	電子通信特論	2	2						○				(秋入学外国人留学生対応科目) (偶数年度開講)
信号処理特論	2	2						○				(秋入学外国人留学生対応科目) (偶数年度開講)	
スイッチング回路特論	2	2						○				(秋入学外国人留学生対応科目) 集中講義 (奇数年度開講)	
電子制御特論	2	2						○				(秋入学外国人留学生対応科目) (偶数年度開講)	
インテリジェント制御システム	2	2						○				(秋入学外国人留学生対応科目) (奇数年度開講)	
パワーエレクトロニクス特論	2	2						○				(秋入学外国人留学生対応科目) (奇数年度開講)	

系 列	授 業 科 目	単 位	週時間数		コ ー ス								備 考
			前 期	後 期	基 礎 科 学	化 学	機 能 物 質 創 成	生 命 科 学	電 気 電 子 工 学	機 械 創 造	知 能 情 報	マ ネ ジ ン グ メ ン ト	
専 攻 専 門 科 目	モータードライブ特論	2	2						○				(秋入学外国人留学生対応科目) (偶数年度開講)
	材料力学特論	2	2						○				
	超音波・レーザ計測特論	2	2						○				
	材料工学特論	2	2						○				
	伝熱工学特論	2	2						○				
	輸送現象特論	2	2						○				
	流体力学特論	2	2						○				
	機械制御特論	2	2						○				
	機械力学特論	2	2						○				
	生産加工特論	2	2						○				
	トライボロジーと先端設計技術	1	2										後期の1/2
	宇宙構造材料工学特論	1	2										後期の1/2
	航空宇宙工学特論	1	2										後期の1/2
	エネルギーシステム特論	1	2										集中講義
	ヒューマンインタフェース特論	2	2							○			(偶数年度開講) ※履修者に英語講義希望者がいる場合、英語にて講義を行なう。
	バーチャルリアリティ特論	2	2							○			(奇数年度開講) ※履修者に英語講義希望者がいる場合、英語にて講義を行なう。
	インターネット特論	2	2							○			(英語講義) (偶数年度開講)
	無線通信システム特論	2	2							○			(英語講義) (奇数年度開講)
	先端コンピューティング特論	2	2							○			(偶数年度開講)
	情報セキュリティ特論	2	2							○			(奇数年度開講)
	データサイエンス特論	2	2							○			(DSプログラム科目)
	コンピューテーショナルデザイン特論	2	2							○			(偶数年度開講) ※履修者に英語講義希望者がいる場合、英語にて講義を行なう。
	コンピュータアニメーション特論	2	2							○			(奇数年度開講) ※履修者に英語講義希望者がいる場合、英語にて講義を行なう。
	非線形制御	2	2							○			(偶数年度開講)
	ロボット工学特論	2	2							○			(奇数年度開講)
	生体運動学	2	2							○			(偶数年度開講)
	身体性能論	2	2							○			(奇数年度開講)
	ワールドワイドウェブ特論	2	2							○			(偶数年度開講) ※履修者に英語講義希望者がいる場合、英語にて講義を行なう。
	ソフトウェア科学特論	2	2							○			(奇数年度開講) ※履修者に英語講義希望者がいる場合、英語にて講義を行なう。
	人工知能特論	2	2							○			(DSプログラム科目) (偶数年度開講)
	知能ソフトウェア科学特論	2	2							○			(DSプログラム科目) (奇数年度開講)
	ウェアラブルメディア特論	2	2							○			(偶数年度開講) ※履修者に英語講義希望者がいる場合、英語にて講義を行なう。
スマートメディア特論	2	2							○			(奇数年度開講) ※履修者に英語講義希望者がいる場合、英語にて講義を行なう。	
システム工学特論 (2023年度以降入学者用)	2	2										集中講義 実用CAEアプリケーション特論(旧名称) (2022年度以前入学者用)	
画像処理特論	2	2										集中講義	
音声処理特論 (2023年度以降入学者用)	2	2										集中講義 マルチメディア工学特論(旧名称) (2022年度以前入学者用)	

系 列	授 業 科 目	単 位	週時間数		コ ー ス								備 考		
			前 期	後 期	基 礎 科 学	化 学	機 能 物 質 創 成	生 命 科 学	電 気 電 子 工 学	機 械 創 造	知 能 情 報	マ テ ク ソ ロ ジ ー			
専 攻 専 門 科 目	統計的機械学習特論Ⅰ	2		2									○	(秋入学外国人留学生対応科目) (DSプログラム科目) (偶数年度開講)	
	統計的機械学習特論Ⅱ	2		2									○	(DSプログラム科目) (奇数年度開講)	
	品質情報システム特論Ⅰ	2	2										○	(秋入学外国人留学生対応科目) (偶数年度開講)	
	品質情報システム特論Ⅱ	2	2										○	(奇数年度開講)	
	意思決定特論Ⅱ	2	2										○	(偶数年度開講)	
	意思決定特論Ⅰ	2	2										○	(秋入学外国人留学生対応科目) (奇数年度開講)	
	経営管理システム特論Ⅰ	2		2									○	(秋入学外国人留学生対応科目) (偶数年度開講)	
	経営管理システム特論Ⅱ	2		2									○	(奇数年度開講)	
	カイゼンマネジメント特論Ⅱ	2		2									○	(偶数年度開講)	
	カイゼンマネジメント特論Ⅰ	2		2									○	(秋入学外国人留学生対応科目) (奇数年度開講)	
	システム工学特論Ⅱ	2	2										○	(偶数年度開講)	
	システム工学特論Ⅰ	2	2										○	(秋入学外国人留学生対応科目) (奇数年度開講)	
	組合せ最適化特論Ⅰ	2	2										○	(秋入学外国人留学生対応科目) (偶数年度開講) 数理計画特論Ⅰ (旧名称) (2019年度以前入学者用)	
	組合せ最適化特論Ⅱ	2	2										○	数理計画特論Ⅱ (旧名称) (2019年度以前入学者用) (奇数年度開講)	
	協働システム特論Ⅰ	2	2										○	(秋入学外国人留学生対応科目) (偶数年度開講)	
	協働システム特論Ⅱ	2	2										○	(奇数年度開講)	
	数理最適化特論Ⅱ	2		2									○	(偶数年度開講)	
	数理最適化特論Ⅰ	2		2									○	(秋入学外国人留学生対応科目) (奇数年度開講)	
	経営工学特論	2	2										○	集中講義	
	物理学特別輪講A	1	2												研究指導教員以外の担当者のものは履修を認めない。それぞれ、 「～特別輪講A」「～特別輪講B」 は1年次履修、 「～特別輪講C」「～特別輪講D」 は2年次履修
	物理学特別輪講B	1	2												
	物理学特別輪講C	1	2												
	物理学特別輪講D	1	2												
	数理学特別輪講A	1	2												
	数理学特別輪講B	1	2												
	数理学特別輪講C	1	2												
	数理学特別輪講D	1	2												
	化学特別輪講A	1	2												
化学特別輪講B	1	2													
化学特別輪講C	1	2													
化学特別輪講D	1	2													
物質科学特別輪講A	1	2													
物質科学特別輪講B	1	2													
物質科学特別輪講C	1	2													
物質科学特別輪講D	1	2													
物質工学特別輪講A	1	2													
物質工学特別輪講B	1	2													
物質工学特別輪講C	1	2													
物質工学特別輪講D	1	2													
生命科学特別輪講A	1	2													
生命科学特別輪講B	1	2													

系 列	授 業 科 目	単 位	週時間数		コ ー ス								備 考		
			前 期	後 期	基 礎 科 学	化 学	機 能 物 質 創 成	生 命 科 学	電 気 電 子 工 学	機 械 創 造	知 能 情 報	マ ネ ジ メ ン ト			
専 攻 専 門 科 目	生命科学特別輪講C	1	2												研究指導教員以外の担当者のものは履修を認めない。それぞれ、「～特別輪講A」「～特別輪講B」は1年次履修、「～特別輪講C」「～特別輪講D」は2年次履修
	生命科学特別輪講D	1		2											
	電気電子工学特別輪講A	1	2												
	電気電子工学特別輪講B	1		2											
	電気電子工学特別輪講C	1	2												
	電気電子工学特別輪講D	1		2											
	機械創造特別輪講A	1	2												
	機械創造特別輪講B	1		2											
	機械創造特別輪講C	1	2												
	機械創造特別輪講D	1		2											
	知能情報特別輪講A	1	2												
	知能情報特別輪講B	1		2											
	知能情報特別輪講C	1	2												
	知能情報特別輪講D	1		2											
	マネジメントテクノロジー特別輪講A	1	2												
	マネジメントテクノロジー特別輪講B	1		2											
	マネジメントテクノロジー特別輪講C	1	2												
マネジメントテクノロジー特別輪講D	1		2												
理工学特別輪講 海外 I	1		2											コースの許可がある場合のみ履修可	
先端データ分析特論	2	2												集中講義 (DSプログラム科目)	
統計的データ分析基礎演習	2	2												(DSプログラム科目)	
機械学習アルゴリズム応用演習	2	2												集中講義 (DSプログラム科目)	
課題解決型演習	2		2											集中講義 (DSプログラム科目)	
自由 選択 科目	センシングベンチャービジネス	2	2												
	グローバルエコノミー	2	2												
	ハイテクビジネス特論	2	2												

(注) 授業科目の履修にあたっては、講義内容を確認し、研究指導教員と相談のうえ履修登録すること。

3. 履修モデルの一例

※太字は必修科目

※この表はあくまでも一例であり、学生は各研究指導教員の指導に従って、履修計画を立てること。

基礎科学コース

	1 年次		2 年次	
	前 期	後 期	前 期	後 期
実験・演習、輪講 ※理工学特別実験・演習 A～D (計 8 単位) は必修	理工学特別実験・演習 A 物理学特別輪講 A 数理科学特別輪講 A	理工学特別実験・演習 B 物理学特別輪講 B 数理科学特別輪講 B	理工学特別実験・演習 C 物理学特別輪講 C 数理科学特別輪講 C	理工学特別実験・演習 D 物理学特別輪講 D 数理科学特別輪講 D
専攻共通科目 ※科学技術英語 I (2 単位) は必修。 それ以外に 2 単位以上選択必修 不定：インターンシップ 海外インターンシップ	科学技術英語 I	科学技術英語 II		
	科学技術倫理 環境科学	リスクベース安全工学 福祉工学	知的財産 製品安全と社会制度	科学・技術と社会
コース基幹選択必修科目 (毎年開講) ※隔年開講と合わせて 8 単位以上選択必修	量子力学特論			
コース基幹選択必修科目 (隔年開講) ※毎年開講と合わせて 8 単位以上選択必修	場の理論 A 一般相対論 離散数学 位相幾何学 物理化学特論 I 数理科学特論 I	統計物理学特論 A 宇宙放射線特論 データ解析特論 非線形数理 リー群論 組合せ論 確率過程論	場の理論 B 応用数学特論 関数方程式論 宇宙物理特論 B 計算数学特論 物理学特論 II 数理科学特論 II	統計物理学特論 B 宇宙物理特論 A 宇宙物理特論 C 表現論 力学系 スペクトル理論

化学コース

	1 年次		2 年次	
	前 期	後 期	前 期	後 期
実験・演習、輪講 ※理工学特別実験・演習 A～D (計 8 単位) は必修	理工学特別実験・演習 A 化学特別輪講 A	理工学特別実験・演習 B 化学特別輪講 B	理工学特別実験・演習 C 化学特別輪講 C	理工学特別実験・演習 D 化学特別輪講 D
専攻共通科目 ※科学技術英語 I (2 単位) は必修。 それ以外に 2 単位以上選択必修 不定：インターンシップ 海外インターンシップ	科学技術英語 I	科学技術英語 II		
	科学技術倫理 環境科学	リスクベース安全工学 福祉工学	知的財産 製品安全と社会制度	科学・技術と社会 福祉工学
コース基幹選択必修科目 (毎年開講) ※ 8 単位以上選択必修	構造化学特論 天然物化学特論 量子化学特論 光化学特論 有機化学特論 錯体の材料科学特論	ナノ炭素材料の理論 無機化学特論	総合化学特論 I	総合化学特論 II

機能物質創成コース

	1年次		2年次	
	前期	後期	前期	後期
実験・演習、輪講 ※理工学特別実験・演習 A～D（計8単位）は必修	理工学特別実験・演習 A 物質科学特別輪講 A 物質工学特別輪講 A	理工学特別実験・演習 B 物質科学特別輪講 B 物質工学特別輪講 B	理工学特別実験・演習 C 物質科学特別輪講 C 物質工学特別輪講 C	理工学特別実験・演習 D 物質科学特別輪講 D 物質工学特別輪講 D
専攻共通科目 ※科学技術英語 I（2単位）は必修。それ以外に2単位以上選択必修 不定：インターンシップ 海外インターンシップ	科学技術英語 I	科学技術英語 II		
	科学技術倫理 環境科学	リスクベース安全工学 福祉工学	知的財産 製品安全と社会制度	科学・技術と社会
コース基幹選択必修科目（毎年開講） ※隔年開講と合わせて8単位以上選択必修	機能性物質の基礎と応用 結晶化学特論	フォトニック・デバイス特論 ナノサイエンス特論 物質科学特論	表面と表面計測	無機薄膜工学特論
コース基幹選択必修科目（隔年開講） ※毎年開講と合わせて8単位以上選択必修	基礎固体電子特論 I 固体物理学特論 I 無機材料特論		基礎固体電子特論 II 電子物性特論	固体物理学特論 II

生命科学コース

	1年次		2年次	
	前期	後期	前期	後期
実験・演習、輪講 ※理工学特別実験・演習 A～D（計8単位）は必修	理工学特別実験・演習 A 生命科学特別輪講 A	理工学特別実験・演習 B 生命科学特別輪講 B	理工学特別実験・演習 C 生命科学特別輪講 C	理工学特別実験・演習 D 生命科学特別輪講 D
専攻共通科目 ※科学技術英語 I（2単位）は必修。それ以外に2単位以上選択必修 不定：インターンシップ 海外インターンシップ	科学技術英語 I	科学技術英語 II		
	科学技術倫理 環境科学	リスクベース安全工学 福祉工学	知的財産 製品安全と社会制度	科学・技術と社会
コース基幹選択必修科目（毎年開講） ※隔年開講と合わせて8単位以上選択必修	細胞生物学 微生物化学特論 生体分子イメージング 生命科学研究法 A	バイオテクノロジー特論 生命科学研究法 B バイオインフォマティクス特論	生命機能化学 神経科学	微生物分子生物学
コース基幹選択必修科目（隔年開講） ※毎年開講と合わせて8単位以上選択必修	最先端生命科学入門	生体機能分析 応用微生物学	ゲノム情報科学	生体分子機械論

電気電子工学コース

	1年次		2年次	
	前期	後期	前期	後期
実験・演習・輪講 ※理工学特別実験・演習 A～D（計8単位）は必修	理工学特別実験・演習 A 電気電子工学特別輪講 A	理工学特別実験・演習 B 電気電子工学特別輪講 B	理工学特別実験・演習 C 電気電子工学特別輪講 C	理工学特別実験・演習 D 電気電子工学特別輪講 D
専攻共通科目 ※科学技術英語 I（2単位）は必修。それ以外に2単位以上選択必修不定：インターンシップ 海外インターンシップ	科学技術英語 I	科学技術英語 II		
	科学技術倫理 環境科学	リスクベース安全工学 福祉工学	知的財産 製品安全と社会制度	科学・技術と社会
コース基幹選択必修科目 （隔年開講） ※8単位以上選択必修	電子物性・材料特論 I マイクロ波・ミリ波計測特論 デジタル回路特論 モータードライブ特論	電子物性・材料特論 II 電子通信特論 信号処理特論 電子制御特論	半導体工学特論 生体電子工学特論 環境電磁工学特論 アナログデジタル回路特論 パワーエレクトロニクス特論	電子物性工学特論 情報工学特論 スイッチング回路特論 インテリジェント制御システム

機械創造コース

	1年次		2年次	
	前期	後期	前期	後期
実験・演習・輪講 ※理工学特別実験・演習 A～D（計8単位）は必修	理工学特別実験・演習 A 機械創造特別輪講 A	理工学特別実験・演習 B 機械創造特別輪講 B	理工学特別実験・演習 C 機械創造特別輪講 C	理工学特別実験・演習 D 機械創造特別輪講 D
専攻共通科目 ※科学技術英語 I（2単位）は必修。それ以外に2単位以上選択必修不定：インターンシップ 海外インターンシップ	科学技術英語 I	科学技術英語 II		
	環境科学	福祉工学	知的財産 科学技術倫理 製品安全と社会制度	科学・技術と社会 リスクベース安全工学
コース基幹選択必修科目 （毎年開講） ※8単位以上選択必修	材料力学特論 超音波・レーザー計測特論 輸送現象特論 流体力学特論 機械力学特論	材料工学特論 伝熱工学特論 機械制御特論 生産加工特論		

知能情報コース

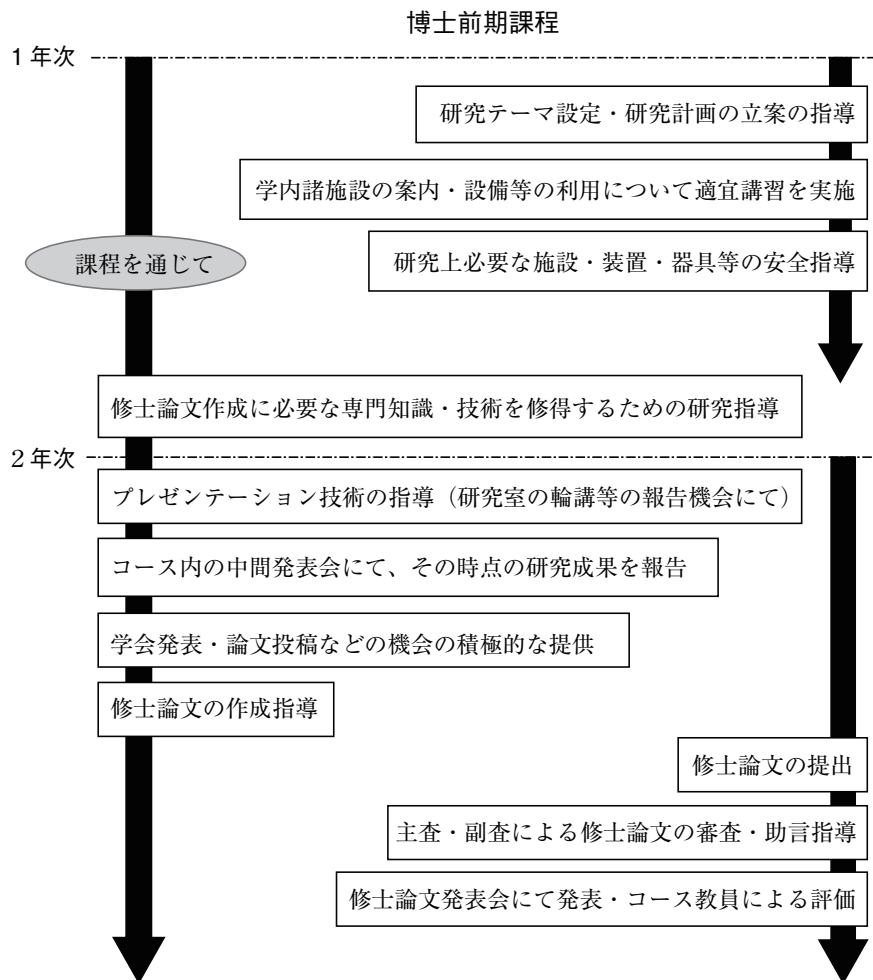
	1年次		2年次	
	前期	後期	前期	後期
実験・演習、輪講 ※理工学特別実験・演習 A～D（計8単位）は必修	理工学特別実験・演習 A 知能情報特別輪講 A	理工学特別実験・演習 B 知能情報特別輪講 B	理工学特別実験・演習 C 知能情報特別輪講 C	理工学特別実験・演習 D 知能情報特別輪講 D
専攻共通科目 ※科学技術英語 I（2単位）は必修。それ以外に2単位以上選択必修 不定：インターンシップ 海外インターンシップ	科学技術英語 I 知的財産	科学技術英語 II 科学・技術と社会 福祉工学	科学技術倫理 環境科学 製品安全と社会制度	リスクベース安全工学
コース基幹選択必修科目 （隔年開講） ※8単位以上選択必修	ヒューマンインタフェース特論 データサイエンス特論 コンピューターション ナルデザイン特論 ワールドワイドウェブ特論 人工知能特論	インターネット特論 先端コンピューティング特論 非線形制御 生体運動学 ウェアラブルメディア特論	バーチャルリアリティ特論 コンピュータアニメーション特論 ソフトウェア科学特論 知能ソフトウェア科学特論	無線通信システム特論 情報セキュリティ特論 ロボット工学特論 身体性知能論 スマートメディア特論

マネジメントテクノロジーコース

	1年次		2年次	
	前期	後期	前期	後期
実験・演習、輪講 ※理工学特別実験・演習 A～D（計8単位）は必修	理工学特別実験・演習 A マネジメントテクノロジー特別輪講 A	理工学特別実験・演習 B マネジメントテクノロジー特別輪講 B	理工学特別実験・演習 C マネジメントテクノロジー特別輪講 C	理工学特別実験・演習 D マネジメントテクノロジー特別輪講 D
専攻共通科目 ※科学技術英語 I（2単位）は必修。それ以外に2単位以上選択必修 不定：インターンシップ 海外インターンシップ	科学技術英語 I 科学技術倫理 環境科学	科学技術英語 II リスクベース安全工学 福祉工学	知的財産 製品安全と社会制度	科学・技術と社会
コース基幹選択必修科目 （毎年開講） ※隔年開講と合わせて8単位以上選択必修	経営工学特論			
コース基幹選択必修科目 （隔年開講） ※毎年開講と合わせて8単位以上選択必修	品質情報システム特論 I 意思決定特論 II システム工学特論 II 組合せ最適化特論 I 協働システム特論 I	統計的機械学習特論 I 経営管理システム特論 I カイゼンマネジメント特論 II 数理最適化特論 II	品質情報システム特論 II 意思決定特論 I システム工学特論 I 組合せ最適化特論 II 協働システム特論 II	統計的機械学習特論 II 経営管理システム特論 II カイゼンマネジメント特論 I 数理最適化特論 I

4. 学位申請までの研究指導プロセス

- 指導教員は、各コースの実情に応じつつ、以下フローの通り研究指導を行う。



5. 学位論文（修士）審査基準

修士論文に関しては、学位申請者が提出した修士論文を、主査1名、副査2～3名が審査することによって合否を決定する。連携大学院方式による指導を受けている場合、客員教員が審査することも可能とする。また、学位論文の研究テーマにふさわしい学外の有識者を審査員とすることも可能とする。

修士の学位授与における審査基準は以下のとおりである。

[審査基準]

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. 情報収集の度合い：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行なわれていること。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ、資料などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行なわれていること。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対する明確かつ論理的な結論が提示されていること。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、用紙・目次・章立て・引用・注・図版等に関する体裁が整っていること。

6. 博士前期課程修了要件

理工学専攻

学生は、所属するコースに2年（4学期）以上在学し、正規の研究を行い、所定の30単位以上を修得し、かつ、学位論文を提出してその審査に合格し、外国語認定を受けなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者については、1年（2学期）以上在学すれば足りるものとする。

所定の単位とは、専攻共通科目の「科学技術英語Ⅰ」（2単位）ならびに専攻専門科目の「理工学特別実験・演習 A、B、C、D」（各2単位、合計8単位）を必修科目と定め、専攻共通科目の選択必修科目の中から2単位以上選択、所属するコースで決められた専攻専門科目の各コース基幹科目の中から8単位以上選択し、その他の選択科目と合わせて合計30単位以上の単位修得をいう。

また、外国語認定は必修科目の「科学技術英語Ⅰ」の単位修得をもってこれを行なう。

博士後期課程

1. 学業に関する諸注意（博士後期課程）

I. 学籍について

1. 修業年限（在学期間）

博士後期課程の標準修業年限は3年である。なお、6年を超えて在学することはできない。

2. 休学・復学・退学・再入学

1) 休学願

病気その他やむを得ない事情で、学業を一時中断しなければならない場合は、事由発生後おそくとも1カ月以内に所定の「休学願」（保証人の連署が必要）を学務担当窓口へ提出のこと。病気による休学の場合は診断書を必ず添付すること。

(イ) 休学期間

- ・休学期間は、1年または1学期ごとに更新し、連続2年までとする。ただし、特にやむを得ない場合に限り連続3年まで認めることがある。
- ・休学期間は、通算して3年を超えることはできない。
- ・休学期間は在学期間に算入しない。

(ロ) 休学願提出期限

- ・休学願提出期限は次のとおりとする。

通年または前期のみの休学願……………6月末日まで

後期のみの休学願……………12月末日まで

- ・提出期限を過ぎてからの休学願は、原則として受け付けない。
- ・所定の期間内の休学願の取消しは審査のうえ認める場合もある。

(ハ) 休学費

休学中である者の学費等は、次のとおりとする。

- ・通年休学の場合……………在籍基本料の前期分および後期分
 - ・前期のみ休学の場合……………在籍基本料の前期分
 - ・後期のみ休学の場合……………在籍基本料の後期分
- なお、休学中である者は、諸会費の納入を要しない。

2) 復学願

休学期間終了後復学し、再び学業を継続する場合は、所定の「復学願」（保証人の連署が必要）を、おそくとも下記の期日までに学務担当窓口へ提出すること。

前期のみ休学した場合……………8月下旬

後期のみの休学した場合 } ……2月下旬

通年休学した場合 } ……2月下旬

病気による休学であった場合は、必ず診断書も添付すること。

3) 退学願

病気その他やむを得ない事情で、退学しなければならない場合は、所定の「退学願」（保証人の連署が必要）に、**学生証を添えて**、学務担当窓口へ提出すること。この場合、退学期日を含む学期までの学費を完納しておかなければならない。

在学期間満了（6年間）による退学の場合も必ず上記の「退学願」を提出すること。

- 博士後期課程の標準修業年限（在籍3年目）を終えた時点で、まだ課程修了が出来ないために、一旦退学する者は必ず所定の「退学願」を提出すること。

4) 再入学願

再入学の願い出ができる期間は、原則として退学した日から2年以内（ただし、特別の事由がある場合のみ、各研究科において最長5年以内とする）、再入学できる時期は学年の初めとする。また、再入学願の提出期限は、前年度の1月末日とする。

なお、在学できる年限は、博士後期課程入学時（再入学時ではない）より休学期間および再入学までの離籍期間を除き6年以内となる。

再入学を希望する場合は、事前に学務担当窓口へ申し出て相談のこと。

3. 除籍

休学あるいは退学等の願出を行わないまま、研究主題または研究指導教員の未登録、学費の未納、滞納などの事実がある場合は、学業継続の意志なき者とみなし「除籍」の処置がとられ、本大学院学生の身分を失うこととなる。

除籍者には、除籍の証明を除き証明書の発行が停止される。

II. 授業科目の履修について

1. 履修登録

- 1) 履修する授業科目については、必ず所定の期限までに登録の手続を行うこと。原則として前期の科目は前期に、後期の科目は後期に登録を行う。一部例外として、前期に後期の科目に登録する場合がある。

履修登録をしていない授業科目は試験等を受けても単位および成績は無効となる。

また期日までに登録をしない場合は、修学の意志なきものとみなす処理がとられる。

前期履修登録期間、後期履修登録期間については学生ポータルで必ず確認し、時間厳守のこと。

2) 履修登録方法について

- (a) Web で登録する科目と、一部例外として、固有の登録方法を案内する科目がある。
(b) 登録時にエラーチェックや内容の有効性を判定するので、各自登録内容をその場でチェックし、履修登録締切日までに、各自の責任において、履修の誤りのない状態にしておくこと。
(c) 履修登録締切日以降の修正は認めない。

3) 履修登録に際しての注意について

- (a) 登録した科目以外のものを受講することはできない。
(b) 同一時間に2科目以上を重複登録することは一切許されない。また、大学院要覧上特に許可された科目を除き、既に単位を取得した科目を再度履修登録はできず、前段階の課程で取得した科目（異名称同一科目を含む）も登録することはできない。
(c) 履修登録後、登録に不備や間違いがあったときは当該科目の登録を無効とする。
(d) 履修登録する科目は、登録前に指導教員と相談し許可を得ること。
特に、理工学研究科及び理工学部以外の科目を履修登録する場合は所定用紙に該当科目を記入し、授業担当者の確認を得てから登録すること。
(e) 授業科目は、名称変更した科目（授業科目配置表に旧名称が付されている科目）がある。それらの科目を旧名称で単位を取得した者は、新名称の科目を履修することはできない。
(f) 曜日時限の確定している科目と、集中科目等の日程が一時限でも重複する場合は、原則履修することができない。しかし中には例外の科目がある場合があり、この際は別途案内を行う。
(g) 履修登録の学期と、成績が付く学期が異なる科目があるので、十分に注意をすること。
(例えば、「夏期集中科目」で8月中旬に講義を行う場合、登録は前期だが成績の開示は後期となる。)
(h) 学務課から開示されている科目の曜日・時限・日程以外にも、各授業担当者の主催する輪講などが別途設定されている場合があるので、授業担当者へよく確認をすること。
(i) 理工学研究科は、年度毎の最高履修制限単位数に原則上限はない。

4) 履修登録結果の確認について

履修登録結果は、履修登録期間に各自学生ポータルから履修登録リストを出力して必ず確認すること。確認を怠ったために生じた問題について大学側は一切責任を負わない。

5) 履修取消制度について

授業の内容が研究したいことと異なっていた場合、各期の履修登録（変更）期間終了後の一定期間内であれば履修を取りやめることができる。

・対象者：全入学年度の在籍生

・履修取消科目の成績評価の表示：成績通知書 「W」

成績証明書 表示しない

履修取消の申請は、期間内に学務課窓口で本人からの申請のみ受け付ける。申請後の取り下げは一切認めない。期間は、別途学生ポータルにて指示する。

※なお、理工学研究科在籍者は、必ず研究指導教員の許可を必要とする。

2. 授業期間および授業時間について

大学院においては定期試験期間はとくに定めず、学期終了（補講日を除く）まで授業を行う。

講義または演習は下記の時間割によって行われる。

研究指導は曜日・時限をとくに定めないので研究指導教員と学生の協議により時間を取り決めて行うこととする。

時 限	第1時限	礼 拜	第2時限	昼休み	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限	第7時限
時 間	9 : 00	10 : 30	11 : 00	12 : 30	13 : 20	15 : 05	16 : 50	18 : 30	20 : 10
	10 : 30	11 : 00	12 : 30	13 : 20	14 : 50	16 : 35	18 : 20	20 : 00	21 : 40

3. 補講について

休講となった授業に対し、補講を行う場合がある。補講期間については学事暦を参照のこと。ただし補講期間外に補講を行う場合もある。詳細は担当者が授業時に発表するか、学生ポータルで発表するので随時確認すること。

4. 単位制について

1) 授業科目の履修には単位制が採用されている。

単位制とは、入学年度の履修規定に定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、授業参加度、レポート、発表等によって、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。

2) 単位計算の基準は、次のとおりである。科目ごとの単位は、授業科目配置表を参照のこと。

区 分	単位	単 位 計 算 の 基 準
講 義	1	毎週1時間15週の授業
演 習	1	毎週2時間15週の授業、または毎週1時間15週の授業
実験・実習	1	毎週3時間15週の授業

大学院設置基準では、“1単位の標準=45時間の学修が必要な内容”と規定されているため、15時間の講義科目（1単位）を例にとると、授業時間外に30時間の自習が前提となっている。

なお、ここでいう“1時間”とは、授業時間45分を表す。本学での1時限の授業は90分で行われているので、単位計算上は、1時限=2時間分の授業となる。

半期の講義科目では、2時間×15週=30時間分=2単位となる。

5. 成績評価について

1) 成績は授業科目ごとに評価される。

2) 成績は100点法によって評価され、60点以上を合格とし、所定の単位が与えられる。

3) 成績証明書および成績通知書にはAA、A、B、Cの評記が用いられる。

実数点範囲	学生への成績通知	成績証明書の記載
100~90	AA	AA
89~80	A	A
79~70	B	B
69~60	C	C
59点以下または不合格	XX	表示せず
欠席等評価不能※	X	表示せず
合格	合格	RR
入学前既修得単位認定	++	++
外国留学単位認定	**	**

※試験未受験、レポート未提出、出席不良等で評価不能であることを表す。

GPA について（成績通知書に表示）

GPA (Grade Point Average) とは、学生の履修登録科目の1単位あたりの評点平均値を指す。

履修した科目には、A、B、C、XX などの成績が与えられる。これらの評価を数値化して1単位ごとの平均を算出したものが GPA である。本学で GPA 算出対象とする評価および、各評価に与えられる評点は次のとおりである。

本学評価	評点
AA	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
XX (不合格)	0.0
X (欠席等評価不能)	0.0

上記の評点を次の計算式に当てはめて GPA を算出する（「認定」・「合格」の科目は、GPA 算出の対象外）。

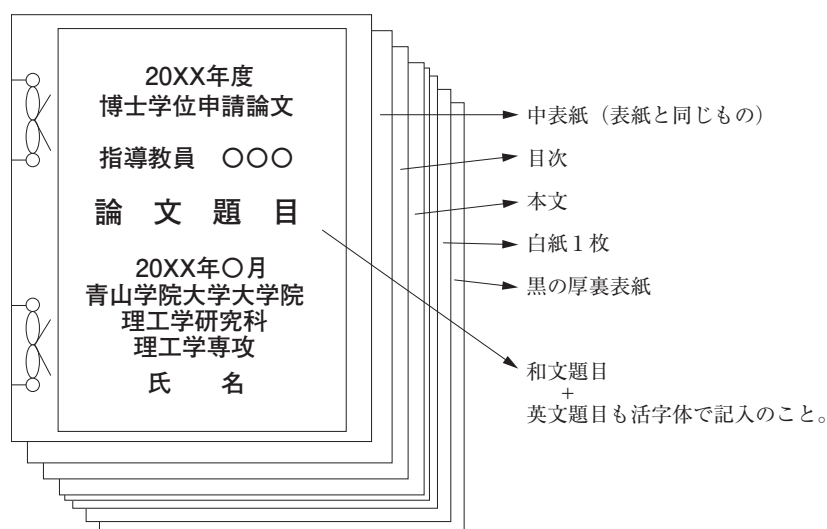
$$GPA = \frac{(AA \text{ の単位数} \times 4) + (A \text{ の単位数} \times 3) + (B \text{ の単位数} \times 2) + (C \text{ の単位数} \times 1)}{(AA \text{ の単位数} + A \text{ の単位数} + B \text{ の単位数} + C \text{ の単位数} + XX \text{ の単位数} + X \text{ の単位数})}$$

- 4) 履修科目の合・否および評価は、各学期末（9月・3月）に学生ポータルメニュー「成績通知書」により通知する。学外のパソコンから閲覧する場合は、あらかじめ学内で Secure Matrix パスワードの登録を済ませておく必要がある（詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照すること）。**成績通知書は各自で印刷し、修得した科目とその評価を確認すること。**
- 5) 成績評価に疑問がある場合は、「成績調査」を申請することができる。これは、科目担当者に対して、安易に再考・変更を求めるものではない。
- 5) 成績に疑問を持つ**明確な根拠がある場合にのみ**大学が指定する調査期間中に、成績通知書持参のうえ申請者本人が学務課へ申し出ること。調査期間は、「学生ポータル」で通知する。
- 5) **原則電話での問い合わせ、期間外・申請者本人以外の申し出には一切応じない。**

Ⅲ. 博士学位申請論文について

1. 博士学位申請論文について

- 1) 博士学位申請論文については、学位規則にある博士学位申請論文に関する条文（第7条以降）を熟読すること。
- 2) 博士学位申請論文表紙の様式
表紙は黒の厚表紙（コクヨ綴込表紙A、ツ-7 A4S 等）に以下の内容を記載した表紙を貼付しひもでとじて提出のこと。



修了に関する諸注意

1. 学 位

本研究科に3年（6学期）以上在学し、正規の研究を行ない、所定の6単位以上修得し、かつ学位論文を提出し、その審査及び最終試験と外国語認定試験に合格した者に博士の学位を授与する。

ただし、在学期間に関して、優れた研究業績を挙げた者については、2年（4学期）以上在学すれば足りるものとする。

理工学専攻 博士（理学）又は博士（工学）
（青山学院大学）

2. 在 学 年 限

博士後期課程にあつては、在学期間は6年（12学期）を超えることができない。

3. 研究指導教員

入学時に研究指導教員を決定する。

ただし、研究科教授会の議を経て、研究指導教員を変更することができる。

4. 外国語認定試験

イ. 博士後期課程においては、専攻で行われる1外国語（英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語のうちより）の認定試験に合格しなければならない。

ただし、外国人留学生は、上記外国語の他に日本語を加えることができる。

ロ. 博士前期課程において認定を受けた1外国語を前項に充当することができる。

5. 学位申請論文の審査

学位申請論文の審査を希望する者は、研究指導教員及び所属コースの承認を得ると共に、別に定める要項等に従い学位論文を提出し、その審査を受けるものとする。

6. 研究倫理教育（公正研究推進協会 APRIN e ラーニングプログラム）の受講

本学大学院に所属する学生には、研究倫理教育の受講を義務とする。各自で公正研究推進協会（APRIN）が提供（無料）する研究倫理 e ラーニングコースを受講、修了し、定められた期間内に各研究科の事務窓口にて修了証を提出すること。修了証は入学年度以降に取得したものが課程修了まで有効となる。提出期限等の詳細については、年度初頭のガイダンスなどで告知する。修了証が未提出であると、論文（特定の課題についての研究の成果含む）の受理をしないことや、学位記を交付しない等の措置が行われる場合があるので注意すること。

本学博士前期課程から、本学博士後期課程へ進学した者は、博士後期課程での受講時に、博士前期課程での修了証提出を以って、再受講を免除する。

なお、研究倫理教育（e APRIN）の受講に関する詳細は一般財団法人公正研究推進協会（APRIN）のホームページにて確認すること。

2. 理工学専攻授業科目配置表

修了要件：6単位

※理工学研究科博士前期課程で修得済の科目は、履修不可。

系 列	授 業 科 目	単 位	週時間数		コ ー ス								備 考	
			前 期	後 期	基 礎 科 学	化 学	機 能 物 質 創 成	生 命 科 学	電 気 電 子 工 学	機 械 創 造	知 能 情 報	マ テ ク ノ ジ エ ン ジ ニ ア		
専 攻 共 通 科 目	科学・技術と社会	2		2										
	科学技術倫理	2	2											集中講義
	環境科学	1	2											集中講義
	リスクベース安全工学	1		2										集中講義
	福祉工学	2		2										(偶数年度開講)
	知的財産	1	2											集中講義 前期の1/2
	製品安全と社会制度	2	2											集中講義
	インターンシップ	1	不定											履修希望者は科目担当者（専攻教務主任）に事前に相談すること。
	海外インターンシップ	1	不定											
	ジョブ型研究インターンシップ	1	不定											前期・後期それぞれで開講。 履修希望者は科目担当者（研究科長）に事前に相談すること。
専 攻 門 科 目	物理学特別輪講 E	1	2											研究指導教員以外の担当者のものは履修を認めない。それぞれ、 「～特別輪講 E」「～特別輪講 F」は1年次履修、 「～特別輪講 G」「～特別輪講 H」は2年次履修、 「～特別輪講 I」「～特別輪講 J」は3年次履修
	物理学特別輪講 F	1		2										
	物理学特別輪講 G	1	2											
	物理学特別輪講 H	1		2										
	物理学特別輪講 I	1	2											
	物理学特別輪講 J	1		2										
	数理学特別輪講 E	1	2											
	数理学特別輪講 F	1		2										
	数理学特別輪講 G	1	2											
	数理学特別輪講 H	1		2										
	数理学特別輪講 I	1	2											
	数理学特別輪講 J	1		2										
	化学特別輪講 E	1	2											
	化学特別輪講 F	1		2										
化学特別輪講 G	1	2												
化学特別輪講 H	1		2											
化学特別輪講 I	1	2												
化学特別輪講 J	1		2											

系 列	授 業 科 目	単 位	週時間数		コ ー ス								備 考	
			前 期	後 期	基 礎 科 学	化 学	機 能 物 質 創 成	生 命 科 学	電 気 電 子 工 学	機 械 創 造	知 能 情 報	マ ネ ジ メ ン ト		
専 攻 専 門 科 目	物質科学特別輪講 E	1	2											研究指導教員以外の担当者のものは履修を認めない。それぞれ、 「～特別輪講 E」「～特別輪講 F」は1年次履修、 「～特別輪講 G」「～特別輪講 H」は2年次履修、 「～特別輪講 I」「～特別輪講 J」は3年次履修
	物質科学特別輪講 F	1	2											
	物質科学特別輪講 G	1	2											
	物質科学特別輪講 H	1	2											
	物質科学特別輪講 I	1	2											
	物質科学特別輪講 J	1	2											
	物質工学特別輪講 E	1	2											
	物質工学特別輪講 F	1	2											
	物質工学特別輪講 G	1	2											
	物質工学特別輪講 H	1	2											
	物質工学特別輪講 I	1	2											
	物質工学特別輪講 J	1	2											
	生命科学特別輪講 E	1	2											
	生命科学特別輪講 F	1	2											
	生命科学特別輪講 G	1	2											
	生命科学特別輪講 H	1	2											
	生命科学特別輪講 I	1	2											
	生命科学特別輪講 J	1	2											
	電気電子工学特別輪講 E	1	2											
	電気電子工学特別輪講 F	1	2											
	電気電子工学特別輪講 G	1	2											
	電気電子工学特別輪講 H	1	2											
	電気電子工学特別輪講 I	1	2											
	電気電子工学特別輪講 J	1	2											
	機械創造特別輪講 E	1	2											
	機械創造特別輪講 F	1	2											
	機械創造特別輪講 G	1	2											
	機械創造特別輪講 H	1	2											
	機械創造特別輪講 I	1	2											
	機械創造特別輪講 J	1	2											
	知能情報特別輪講 E	1	2											
	知能情報特別輪講 F	1	2											
	知能情報特別輪講 G	1	2											
知能情報特別輪講 H	1	2												
知能情報特別輪講 I	1	2												
知能情報特別輪講 J	1	2												
マネジメントテクノロジー特別輪講 E	1	2												
マネジメントテクノロジー特別輪講 F	1	2												
マネジメントテクノロジー特別輪講 G	1	2												
マネジメントテクノロジー特別輪講 H	1	2												
マネジメントテクノロジー特別輪講 I	1	2												
マネジメントテクノロジー特別輪講 J	1	2												
理工学特別輪講 海外Ⅱ	1	2											コースの許可がある場合のみ履修可	
理工学特別輪講 海外Ⅲ	1	2											コースの許可がある場合のみ履修可	

(注) 授業科目の履修にあたっては、講義内容を確認し、研究指導教員と相談のうえ履修登録すること。

3. 研究指導計画

指導教員は、適宜コースの実情に応じつつ、以下の項目について研究指導を行なう。

- 研究主題の設定および研究計画の立案に対して適切な指導を行なう。
- 学内の諸施設案内・設備等の利用等について適宜の講習を実施する。
- 研究を遂行するに当たり、必要な施設、装置あるいは器具等の安全指導を必要に応じて行なう。
- 博士論文作成に必要な専門知識や技術を習得するための研究指導を行なう。
- 研究室内外における報告機会（国内外学会、学内セミナー等）を提供し、プレゼンテーション技術の指導を行なう。
- 学術雑誌への論文投稿（査読付き）の機会を提供し、受理までの指導を行なう。
- 博士論文作成を指導し、各コースで設けた博士論文審査プロセスに定められた時期に博士論文を提出させる。
- 各コースにおいて設けた博士論文審査プロセスに従い、主査と副査により審査、助言指導を行なう。

4. 博士の学位申請に際しての諸注意事項

理工学研究科で博士の学位を申請する場合は、次の各事項を参照すること。

1. 論文発表について

- (1) 学位申請に先立ってあらかじめ、論文発表会を開催し、研究論文を発表すること。その際、課程博士の場合には研究指導教員、論文博士の学位申請の場合にはその紹介者が、予備審査会を必要回数行って十分に実質的審査をし、学位に値すると判断されたうえで論文発表会の開催を決定する。もし、学位に値しないと判断された場合は却下する。
予備審査会は、博士後期課程研究指導教員によって構成され、構成員の所属するコースは問わない。
- (2) 予備審査に当って、申請者は予備審査のために論文のコピーを必要部数提出する。
この段階では論文は製本しなくてよい。
- (3) 予備審査会で論文発表会開催を決定した場合、発表会開催日の2週間前に所属コースの大学院教務主任の承認を得たうえで、論文発表会申込書に略歴および要旨を添えて学務課へ申込みこと。なお、課程博士の場合にはその研究指導教員を、論文博士の場合には、予備審査会構成員のうちから1名を互選し司会者とする。
- (4) 会場準備等学務課と打合わせて行う。申請者は、司会者と相談し、発表に必要な器具、方法等について十分な準備をすることが必要である。
- (5) 論文発表会において、申請者は論文の内容について講演し、出席者との間に質疑応答を行う。
- (6) 司会者は論文発表会終了後、論文の可否について、出席の博士後期課程研究指導教員の意見を聞き、論文審査の申請の手続きを進める。
この際、司会者は論文審査および学位授与要項第8、9項にもとづき、主査、副査の候補者を決定する。予備審査会が審査に適任と認めた場合、他の大学院又は研究所等の教員等を、副査の候補者に指名することができる。
- (7) 博士後期課程委員会において、司会者は予備審査、発表会の結果等について報告する。
委員会は、審査の後、論文受理の可否を決定する。
- (8) 論文が受理されたら、司会者は(6)で決定した主査、副査の候補者を委員会に諮り、審査委員会を決定する。
- (9) 課程博士の学位について、3月、9月に課程修了となるためには原則として、それより3カ月以前、すなわち、おそくとも12月中旬、5月中旬には発表会が行われなければならない。

2. 学位申請について

- (1) 学位申請は、論文発表会終了後、申請書類を提出すること。なお、提出した書類はいかなる理由があっても返還しない。課程博士による学位申請期限は、入学して6年以内（休学期間除く）である。
- (2) 博士後期課程に3年以上在学し修了要件のうち博士学位申請論文の提出を残すのみとなった場合、一旦退学願を提出して標準修業年限満了退学（注1）をすることができる。また、退学前に研究科・専攻に定めるプロセスを経ているれば、博士後期課程入学時より起算して6年以内（注2）に再入学願（通常の再入学とは異なる）とともに博士学位申請論文を提出し、課程博士の学位を取得することができる。
なお、この期限を過ぎて博士学位申請論文を提出する場合は、学位規則第7条第2号により取り扱われる（論文博士）。
（注1） 単位制の専攻は博士後期課程単位取得済退学
（注2） 休学期間および退学後経過した期間も含む。遅くとも入学後6年目の10月上旬までに。
- (3) 博士後期課程に3年以上在学し研究科・専攻の定めるプロセスを経ずに退学し、再入学を希望する場合、通常の再入学の扱いとなる（大学院学則に定められている学費等の納付が必要）。

再入学の願い出ができる期間は、原則として退学した日から2年以内（ただし、特別の事由がある場合のみ、各研究科において最長5年以内とする）、再入学できる時期は学年の初めとする。また、再入学願の提出期限は、前年度の1月末日までとする。

なお、在学できる年限は、博士後期課程入学時（再入学時ではない）より休学期間および再入学までの離籍期間を除き6年以内となる。

3. 学位授与について

学位授与が決定したときは、学務課から本人に通知する。

4. その他

学位論文審査のために必要があるときは、参考資料を提出させることがある。

学位論文審査にあたり、主査および副査、ならびに予備審査会を含む審査に関する者は、学位申請者との間で金銭の授受があってはならない。

5. 理工学研究科における博士論文審査および学位授与要項

本研究科の博士論文審査については、2004年度の研究科改編に伴い、それまでの要項内容に新たなコース制による運営の記述を加え2003年11月26日の研究科教授会で承認した。本要項は、学位規則第7条第1号に該当する課程博士の審査に、学位規則第7条第2号に該当する論文博士の審査をも包含してまとめたものである。

〔論文発表会〕

1. 学位論文の審査を申請しようとする者は、申請に先立って、研究科博士後期課程研究指導教員の1名（学位規則第7条第1号による者は原則として研究指導教員）に論文を提出する。なお、申請者は論文の提出とともに希望する学位の種類を申し出る。

2. 論文の提出を受けた教員は、論文の内容を判断したうえ、論文発表会を開催し、その司会者となる。

3. 論文発表会開催の公示および通知は、論文発表会の2週間前を原則とする。

論文発表会の開催日時は、論文の提出を受けた教員の所属するコースで定める。大学院教務主任（当該コース）は、研究科長に論文発表会開催を申し込み、申請者の「略歴および論文の要旨」必要部数を提出する。

研究科長は、公示および通知する。

4. 司会者は、論文発表会終了後、論文の可否について、出席の博士後期課程研究指導教員の意見を聞き、論文審査の申請の手続きを進める。

(1) この場合、学位規則第7条第1号に該当する申請者については、司会者は、当該コースの承認を得たうえ、申請者が既に退学している場合は再入学願とともに、申請者に論文審査の申請をさせる。

(2) 学位規則第7条第2号に該当する申請者については、司会者は、所属するコースの大学院教務主任の承認を得たうえ、申請者に所定の手続きとともに学位申請書を学長に提出させる。〔学位規則第9条〕

〔受理〕

5. 学位規則第7条第1号に該当する申請者については、当該大学院教務主任が研究科長に論文受理の手続きを申し出る。研究科長は、論文受理の可否を博士後期課程委員会に諮る。〔学位規則第10条〕

(1) 受理の議決は、出席者の2/3以上の賛成を必要とする。

(2) 議決の方法は、無記名投票によるものとする。

(3) 既に退学している申請者に対しては、再入学願を承認する。

6. 学位規則第7条第2号に該当する申請については、研究科長は5. に準ずる手続きにより、博士後期課程委員会に諮り、その結果を学長に報告し、学長はこれを決定する。〔学位規則第11条〕

〔審査委員会〕

7. 論文の審査にあたっては、博士後期課程委員会は、審査委員会を設けなければならない。〔学位規則第13条〕

8. 学位規則第7条第1号に該当する申請者に対しては、

(1) 審査委員主査は、原則として当該研究指導教員があたる。

(2) 副査は当該専攻所属の教員2名以上を含むものとする。

9. 学位規則第7条第2号に該当する申請者に対しては、審査委員主査1名、同副査2名以上とする。〔学位規則第13条〕

〔審査の期間〕

10. 学位規則第7条第1号に該当する申請者の論文の審査は、論文受理の日から1年以内に終了しなければならない。
11. 学位規則第7条第2号に該当する申請者の論文の審査は、論文を受理した日から、原則として1年以内に終了するものとする。ただし、博士後期課程委員会の決議により、その期間を延長することができる。〔学位規則第18条〕

〔最終試験〕

12. 審査委員会は、論文の審査を終えたときは、最終試験による学力の確認を行う。
- 試験は、
- (1) 学位規則第7条第1号に該当する申請者に対しては、口頭試問によるが、筆答試問をあわせて行うことができる。〔学位規則第15条〕
- (2) 学位規則第7条第2号に該当する申請者に対しては、口頭試問および筆答試問による。〔学位規則第16条〕

〔外国語学力認定試験〕

13. 学位規則第7条第2号に該当する申請者に対しては、申請者の選定した2外国語もしくは1外国語について試験を行う。
- ただし、審査委員会が申請者の経歴および研究業績により、外国語試験を行う必要がないと認めるときは、博士後期課程委員会の承認を得て、その経歴および業績の審査をもってこれに代えることができる。〔学位規則第17条〕

〔審査の結果の報告〕

14. 審査委員主査は、論文の審査および最終試験等による学力の確認を終了したときは、ただちに審査報告書、最終試験の結果の要旨、学位を授与できるか否かの意見に添え、研究科長に文書で報告する。〔学位規則第19条〕

〔課程修了の議決〕

15. 学位規則第7条第1号による者の、博士後期課程委員会における課程修了の議決に関しては、
- (1) 審査委員主査は、審査結果の報告を行う。
- (2) 課程修了の可否の議決は、委員会構成員総数の2/3以上の出席を必要とし、出席者の2/3以上の賛成がなければならない。
- (3) 議決の方法は、無記名投票による。
- (4) 審査の結果、審査委員会が博士の学位の授与を否とする認定をした場合には議決を要しない。〔学位規則第20条〕
16. 学位規則第7条第2号による論文の合否については、15. を準用する。〔学位規則第21条〕

〔学長への報告〕

17. 博士後期課程委員会が15. または16. の議決をしたときは、研究科長は、論文とともにその要旨、審査の結果の要旨に添え、議決の結果を文書で学長に報告する。〔学位規則第22条〕

〔大学院委員会の審議〕

18. 研究科長は、あらかじめ学位授与候補者の学歴、研究歴、職歴および審査報告書を各委員に配付しておき、研究科博士後期課程委員会における論文審査および議決に関する手続きが適正であることの確認を得るために報告を行う。大学院委員会には、審査委員主査又は大学院教務主任は陪席することができる。
- (1) 議決は、出席委員の2/3以上の賛成がなければならない。
- (2) 議決の方法は、無記名投票による。

〔学位規則第23条〕

〔学位記の授与〕

19. (1) 学長は、大学院委員会の審査経過及びその結果を文書で青山学院長に報告し、承認を求める。
- (2) 学長は、学位を授与すべき者には所定の学位記を授与し、学位を授与できない者にはその旨を通知する。
- (3) 学位規則第7条第1号による学位の授与は、3月及び9月とする。
- (4) 学位規則第7条第2号による学位の授与は、随時とし、学位記の日付は、当該学位の授与に関する議決が行われた日とする。

〔学位規則第24条〕

〔博士学位論文の公表〕

20. (1) 博士の学位を授与したときは、本学は当該博士の学位を授与した日から3カ月以内に当該博士の学位の授与に係わる論文の内容の要旨、及び論文審査の結果の要旨を公表する。
- (2) 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に「青山学院大学審査学位論文」と明記して、当該論文を公表しなければならない。
- ただし、学位の授与を受ける前にすでに公表したときはこの限りではない。
- (3) 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本学の承認を受けて、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。
- (4) 前項の規定により公表する場合は「青山学院大学審査学位論文の要約」と明記しなければならない。

〔学位規則第25、26条〕

〔学位の名称の使用〕

21. 学位を授与された者は、学位の名称を用いるときは、当該学位を授与した本学名を次のとおり付記するものとする。
- 博士（専攻分野）（青山学院大学）

〔学位規則第28条〕

〔学位記の様式〕

22. 学位記及び学位申請関係書類の様式は、別表に掲げるとおりとする。

〔学位規則第32条〕

〔文部科学大臣への報告〕

23. 博士の学位を授与したときは、学長は当該博士の学位を授与した日から3カ月以内に別記様式による学位授与報告書を文部科学大臣に提出するものとする。

〔学位規則第29条〕

〔学位簿登録〕

24. 博士の学位を授与したときは、学長は学位簿に登録する。

〔学位規則第30条〕

〔学位授与の取消し〕

25. 博士の学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき、または不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、博士後期課程委員会の議を経て、その学位を取消し、学位記を返還させ、かつその旨公表する。

- (1) 議決は、15. を準用する。

〔学位規則第31条〕

令和3年5月19日研究科教授会承認

6. 博士論文審査手続一覧

手続事項 (学位規則)	提出書類	書式	提出部数	提出経路	備考	事務所管
論文発表会	論文発表会申込書 略歴及び論文の要旨	所定用紙 学務課に あり A4	1部 必要部数	大学院教務主任 (当該コース) ↓ 研究科長		申請者 ↓ 司会者 ↓ 相模原事務部学務課
学位申請② (8、9条)	博士論文① 要旨 論文目録 学位申請書 履歴書 審査手数料③ (論文博士申請者のみ)	様式(3) 様式(1)(2) 様式(4)	3部 3部 3部 3部 1部 3通	申請者 ↓ 大学長	①論文は新たに書き下ろされたものであることが望ましい。しかし内容によっては外国語で書かれたもの、既に公表されたものでもよい場合がある。 ②学位申請の際の提出書類はタイプ印書とする。 ③論文が受理されなかった場合は返還する。	申請者 ↓ (研究指導教員) ↓ 相模原事務部学務課
論文受理の可否 (10条、11条)				大学院教務主任 (当該コース) ↓ 研究科長 ↓ 大学長	博士後期課程委員会 ↓ 大学長 (論文博士申請者)	相模原事務部学務課
論文審査委員の決定 (13条)					博士後期課程委員会	相模原事務部学務課
論文審査及び最終試験 (14、15、16条)					審査委員会 受理の日から1年以内に終了。ただし論文博士の場合は延長可。口頭試問及び筆答試問。	相模原事務部学務課
審査結果報告 (19条)	論文審査結果要旨 最終試験結果要旨 学力の確認結果要旨 (学位授与可否の意見書)	A4 1つに まとめ てA4	1部 1部	審査委員会 ↓ 研究科長		審査委員主査 ↓ 相模原事務部学務課
論文の合否判定 (20、21条)					博士後期課程委員会 2/3以上の出席、2/3以上の賛成、無記名投票。	相模原事務部学務課
大学長への報告 (22条)	博士論文 要旨 論文審査結果要旨	既出のもの	1部 1部 1部	研究科長 ↓ 大学長		相模原事務部学務課 ↓ 大学庶務部 学務部教務課
学位授与に関する決議 (23条)	学歴 研究歴 } 履歴書 職歴 } 審査報告書 研究科における審査経過	既出のもの 学務課で作成	構成員に1ずつ		大学院委員会 2/3以上の出席、2/3以上の賛成、無記名投票。 主査又は大学院教務主任は陪席することができる。	学務部教務課 相模原事務部学務課
院長への報告 (24条)	大学院委員会の審議経過及びその結果	A4	1部	大学長 ↓ 大学院		大学庶務部 学務部教務課
学位記の授与 (24条)				大学申請者	学位授与の可否にかかわらずその旨通知する。	
学位論文の公表 (25、26条)	①論文の内容の要旨及び論文審査結果の要旨 ②青山学院大学審査学位論文				①3カ月以内に公表。 ②1年以内に公表。 [ただし、既に公表済の場合は不要。]	学務部教務課 相模原事務部学務課
文部科学大臣への報告 (29条)	博士論文 報告書類			大学長 ↓ 文部科学大臣	3カ月以内 博士論文は国立国会図書館へ。	大学庶務部 学務部教務課 相模原事務部学務課

7. 学位論文（博士）審査基準

博士の学位の授与に関しては、学位申請者が提出した博士論文を、主査と2名以上の副査を加えた審査委員が、当該論文に関する最終試験（口頭試問）により審査し、「審査報告書」を理工学研究科博士後期課程委員会に提出、それに基づき同委員会が学位授与の可否を投票によって決定するというプロセスをとる。

博士の学位授与における審査基準は以下のとおりである。

[審査基準]

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. 情報収集の度合い：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行なわれていること。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ、資料などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行なわれていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨の進め方が一貫しており、当初設定した課題に対する明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
5. 論文作成能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、用紙・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。
6. 上記の基準を満たしたうえで、当該学問分野における研究を発展させるに足る知見（学術的価値）が見出せること。また、その点に基づいて博士学位申請者が近い将来、自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められること。

次頁より、各コースの具体的な課程博士・論文博士 博士審査プロセスを記す。

課程博士・論文博士 博士審査プロセス（9月授与・3月授与）

（2005年10月19日理工学研究科教授会承認）

コース名 ： 基礎科学コース

コース会議に予備審査を行うことのできる時期：
予備審査予定時期の1週間程度前までに

博士論文発表会前の予備審査

- 回数： 1回
- 時期： 発表会の1週間程度前までに
- 審査方法： 発表者の発表および論文により審査員が審査する
- 審査員： 課程博士の場合、指導教員、論文博士の場合、紹介者を主たる審査員として、これに適切な審査をできる専門分野の近い複数名の研究者を加える。

博士論文発表会開催を申し込むことを承認するコース会議の時期：
予備審査終了後、できるだけ早く。

博士論文発表会の開催を可とする基準：
予備審査において審査員が可と認め、コース会議において了承されること。

審査委員（副査）候補者の人選：

- 時期： 予備審査後、適当な時期
- 人選方法： 課程博士の場合、指導教員、論文博士の場合、紹介者が候補者を提案し、コース会議において了承する。

以上

課程博士・論文博士 博士審査プロセス（9月授与・3月授与）

（2005年10月19日理工学研究科教授会承認）

（2017年11月8日理工学研究科教授会承認）

コース名 : 化学コース

コース会議に予備審査を行うことのできる時期:

3月授与: 11月上旬から中旬

9月授与: 5月下旬

博士論文発表会前の予備審査

回数: 1回

時期: 博士論文発表日の3週間前

審査方法: 博士後期課程研究指導資格を有する審査員全員で判断

審査員: 主査予定者（化学コース専任教員）、副査予定者（3人以上、他コース、他大学の有資格者および同等の資格を有する者も含む）

博士論文発表会開催を申し込むことを承認するコース会議の時期:

予備審査後1週間以内

博士論文発表会の開催を可とする基準

課程博士: 予備審査了承会議時に第1著者論文が欧文国際雑誌に1篇アクセプトされていること、ただし、当該論文は学位申請者が本学大学院博士後期課程入学後に投稿してアクセプトされた論文に限る。

論文博士: 第1著者論文が欧文国際雑誌に3篇、その他、欧文国際雑誌に2篇アクセプトされていること。

審査委員（副査）候補者の人選

時期: 予備審査を承認したコース会議で人選する

人選方法: 主査予定者が決める

以上

課程博士・論文博士 博士審査プロセス（9月授与・3月授与）

（2008年5月14日理工学研究科教授会承認）

（2017年11月8日理工学研究科教授会承認）

コース名 : 機能物質創成コース

コース会議に予備審査を行うことのできる時期:

9月～10月初旬

博士論文発表会前の予備審査

回数: 1回

時期: 博士論文発表会（予定日）の数週間前まで。

審査方法: 1時間程度の発表とその後の1時間程度の質疑応答の後に、審査委員全員で議論し博士論文発表会を開催しても良いかどうかの審査を行う。

審査員: 主査予定者、副査予定者の全員

博士論文発表会開催を申し込むことを承認するコース会議の時期:

9月～10月初旬（3月授与の場合）

2月～3月（9月授与の場合）

博士論文発表会の開催を可とする基準

※ 課程博士の場合

（必要条件） オアソライズされた専門誌（査読付き）へ、ファーストオーサーで1篇以上の論文が受理されていること。

（十分条件） 主査予定者、副査予定者が予備審査を経て博士論文発表会開催が可であると判断する。

※ 論文博士の場合

（必要条件） オアソライズされた専門誌（査読付き）へ、5篇以上の論文が受理されていること。それらの中の3篇以上がファーストオーサーであること。

（十分条件） 主査予定者、副査予定者が予備審査を経て博士論文発表会開催が可であると判断する。

審査委員（副査）候補者の人選

時期: 予備審査会（予聴会）には原則として副査予定者は全員参加するので、その前まで。

人選方法: 主査予定者が人選を行う。

以上

課程博士・論文博士 博士審査プロセス（9月授与・3月授与）

（2005年10月19日理工学研究科教授会承認）

（2017年11月8日理工学研究科教授会承認）

コース名 : 生命科学コース

コース会議に予備審査を行うことのできる時期：

3月授与： 10月末まで。少なくとも論文1編が国際学術誌（基準欄に説明）に掲載されているか、投稿済みで修正により採択が約束されていることが必要。

9月授与： 2月末まで。同上。

博士論文発表会前の予備審査

回数： 少なくとも1回

時期： 3月授与-11月末まで、 9月授与-3月末まで

審査方法： 予聴会を開き、審査員の協議により審査する。

審査員： 主査予定者（指導教員）、副査予定者（少なくとも二人の理工学専攻有資格教員）、外部審査員

博士論文発表会開催を申し込むことを承認するコース会議の時期：

3月授与： 11月末まで

9月授与： 4月中旬まで

博士論文発表会の開催を可とする基準

課程博士

* 学位研究を構成する主論文として、欧文の国際学術誌（国際学術文献データベースに登録されたサイテーション可能な学術誌）に審査を経て掲載された原著論文で、その主著者（筆頭著者）となっているものが少なくとも一篇あること。

* 学位研究を構成する副論文として、欧文の国際学術誌（同上）に審査を経て掲載された原著論文が若干数あること。

論文博士

* 学位研究を構成する主論文として、欧文の国際学術誌（国際学術文献データベースに登録されたサイテーション可能な学術誌）に審査を経て掲載された原著論文で、その主著者（筆頭著者）となっているものが原則として三篇あること。

* 学位研究を構成する副論文として、欧文の国際学術誌（同上）に審査を経て掲載された原著論文が若干数あること。

審査委員（副査）候補者の人選

時期： 3月授与-10月末、 9月授与-2月末

人選方法： コース会議による

以上

課程博士・論文博士 博士審査プロセス（9月授与・3月授与）

（2005年10月19日理工学研究科教授会承認）

（2017年11月8日理工学研究科教授会承認）

コース名 : 電気電子工学コース

コース会議に予備審査を行うことのできる時期:

9月授与: 2月～3月

3月授与: 4月～10月の間

博士論文発表会前の予備審査

回数: 通常1回、場合により複数回となることもある。

時期: 9月授与は3月～4月、3月授与は4月～10月の間

審査方法: 学位論文内容のプレゼンテーション、質疑応答
(プレゼン1時間、質疑1時間 計2時間程度)

審査員: 博士後期課程研究指導教員

博士論文発表会開催を申し込むことを承認するコース会議の時期:

9月授与: 4月

3月授与: 10月～11月

博士論文発表会の開催を可とする基準

- 1) 学位論文の内容が博士の学位に値すること。
- 2) 質疑における回答の内容が博士の学位に値すること。
- 3) 研究業績が博士の学位の授与に値すること。
- 4) 博士の学位の授与に値する人物であること。

上記の条件を満たした場合、可とする。

審査委員(副査)候補者の人選

時期: 9月授与は5月、3月授与は10月～12月の間

人選方法: コース会議で指導教員(又は主査予定者)の案を基に検討の上、決定。

以上

課程博士・論文博士 博士審査プロセス（3月授与・9月授与）

（2005年10月19日理工学研究科教授会承認）

（2017年11月8日理工学研究科教授会承認）

コース名 ： 機械創造コース

コース会議に予備審査を行うことのできる時期：

9月末下旬－10月初旬 開催のコース会議

論文主旨説明と同時に主査予定者および副査予定者の概略説明

（論文ドラフトを副査予定者に送付、査読依頼）

博士論文発表会前の予備審査

回 数： 2回

時 期： 第1回 10月中

第2回 11月中

審査方法： 第1回： 著者による論文内容説明と質疑応答

第2回： 前回質疑に対する改善箇所・内容の説明と質疑応答、
審査継続の可否判断

審 査 員： 主査予定者・副査予定者全員

博士論文発表会開催を申し込むことを承認するコース会議の時期：

11月下旬－12月初旬

博士論文発表会の開催を可とする基準

審査委員会（主査予定者・副査予定者全員）の合意およびコース会議の承認

審査委員（副査）候補者の人選

時 期： 遅くとも8月中

人選方法： 主査予定者による人選と学内副査予定者の合意

以上

なお、9月授与の場合は半年ずらして対応する。また、論文博士の審査も上記に准ずる。

課程博士・論文博士 博士審査プロセス（9月授与・3月授与）

（2008年4月23日理工学研究科教授会承認）

（2017年11月8日理工学研究科教授会承認）

（2019年11月13日理工学研究科教授会承認）

（2023年12月13日理工学研究科教授会承認）

コース名 : 知能情報コース

コース会議に予備審査を行うことのできる時期:

授与6カ月前まで※

博士論文発表会前の予備審査

回数: 1回以上

時期: 授与5カ月前まで※

審査方法: 学位論文(草稿)、口頭発表

審査員: 知能情報コース博士後期課程研究指導教員6名以上

博士論文発表会開催を申し込むことを承認するコース会議の時期:

授与4カ月前まで※

博士論文発表会の開催を可とする基準

- (1) 学位論文の内容が博士の学位に値すること。
- (2) 質疑における回答の内容が博士の学位に値すること。
- (3) 研究業績が博士の学位の授与に値すること。
- (4) 予備審査において審査員が可と認め、コース会議において了承されること。

上記の条件を満たす場合に可とする。

審査委員(副査)候補者の人選

時期: 授与4カ月前まで※

人選方法: コース会議承認

※ただし、知能情報コース博士後期課程研究指導教員全員の合意があれば、一定の期限の延長が可能。

以上

課程博士・論文博士 博士審査プロセス（9月授与・3月授与）

（2008年4月23日理工学研究科教授会承認）

（2017年11月8日理工学研究科教授会承認）

コース名 : マネジメントテクノロジー コース

コース会議に予備審査を行うことのできる時期：

9月授与： 2月から3月

3月授与： 4月から10月の間

博士論文発表会前の予備審査

回数： 複数回

時期： 9月授与は3月から4月、3月授与は4月から10月

審査方法： マネジメントテクノロジーコース内発表会にて学位論文内容の
プレゼンテーションと質疑応答

（この発表会は当マネジメントテクノロジーコースおよび経営システム工学
科関係者に公開し、当該論文に対する意見を聴取する。）

審査員： マネジメントテクノロジーコース博士後期課程研究指導教員

博士論文発表会開催を申し込むことを承認するコース会議の時期：

9月授与： 4月頃、

3月授与： 10月から11月

博士論文発表会の開催を可とする基準

(1) 学位論文の内容が博士の学位に値すること

(2) マネジメントテクノロジーコース内発表会における質疑応答の内容が博士の学位に
値すること

(3) 研究業績が博士の学位授与に値すること

上記の条件を満たしている場合に、可とする。

審査委員（副査）候補者の人選

時期： 9月授与は5月頃

3月授与は10月から12月

人選方法： コース会議で指導教員（または紹介者）の案を尊重しながら検討を行う。

以上

教職課程の履修について

教職課程の履修について

1. 教育職員専修免許状の取得について

中学校及び高等学校教諭1種の教育職員免許状取得済みの者で、大学院博士前期課程において、それぞれの専修免許状へ上進しようとする者は以下の要領に従うこと。

2. 教職課程オリエンテーションへの出席

教育職員専修免許状を大学院にて取得希望する者は、年度初頭オリエンテーションに出席すること。

3. 大学院教員専修免許状の種類

研究科	専攻	課程認定を得ている専修免許状の教科	課程認定を得ている専修免許状の校種
理工学研究科	理工学専攻	理科	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状
		数学	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状
		工業	高等学校教諭専修免許状
		情報	高等学校教諭専修免許状

注] 在籍する研究科・専攻に課程認定のない「校種」及び「教科」の専修免許状は取得できない。

4. 専修免許状の要件単位修得について

専修免許状へ上進させるためには、大学院博士前期課程において在籍する研究科の専攻課程に配置された専門科目を24単位以上修得すること。

なお、研究科あるいは専攻によっては、他大学との単位互換によって修得した単位や本学大学院の他研究科・他専攻において修得した単位を修了要件単位に含めることを認めている場合があるが、これらの単位および外国留学による認定単位は専修免許状取得の要件単位に含めることはできない。

5. 専修免許状の授与申請の方法について

①大学一括授与申請

本学大学院博士前期課程入学までに1種免許状を取得済で、神奈川県教育委員会への大学一括授与申請により、博士前期課程修了時に専修免許状の取得を希望する者は、博士前期課程修了見込年度の前期履修登録期間内までに、「**教育職員免許状・各種資格取得希望申請データシート**」及び「**1種免許状のコピー**」を提出し、以下の期間に学務課教職課程担当窓口（相模原キャンパス）で申請手続を行うこと。但し、教育委員会への申請手数料とは別に、大学に**教職課程料**を納付する必要がある（「7」参照）。

大学一括授与申請手続期間：年度初頭オリエンテーションにて周知する。

※詳細は教職課程掲示板（相模原キャンパス B棟1階学生センター内）で確認すること。

専修免許状の交付：学位授与式当日

②個人申請

大学一括授与申請を希望しない者は、居住地の教育委員会に個人申請をすることによって、専修免許状の交付を受けることができる。また、教員としての採用が内定している場合は、勤務地の都道府県教育委員会にも申請することができる。

6. 1種免許状及び各種資格取得要件単位の修得について

1種免許状及び各種資格取得要件単位の修得や、介護等体験は教職課程科目等履修生のみ認められる。在籍する研究科に課程のある専修免許状と同一の校種・教科に限り、その母体となる学部・学科で1種免許状の取得に係る学部・学科の科目を一部履修することができる。ただし、履修できない科目があるので注意すること。出願資格、受講料等については、「教職課程科目等履修生〔大学院在籍者〕募集要項」を参照し、詳細は学務課教職課程担当窓口にて確認すること。

7. 教職課程料の納付について

教職課程料の納付対象者は、「5-①」大学一括授与申請または教育職員免許状取得見込証明書の発行を希望する者のみ。申請年度に7,000円を、後期学費納付時期に納付する（後期授業開始後に、大学から本人に通知される）。なお、一旦納付された教職課程料は、いかなる理由があっても返還しない。

8. 教職課程に関する伝達方法

教員免許状及び各種資格に関する伝達は、学生ポータル及び教職課程掲示板（相模原キャンパス B 棟 1 階学生センター内）で行う。

9. 専修免許状取得に係る課程認定科目配置表 2023年度入学者適用

《理科》中学校専修免許状・高等学校専修免許状

本学で取得すべき科目		(免許状取得に必要な最低単位数 24単位)
データ解析特論	有機化学特論	微生物化学特論
一般相対論	無機化学特論	バイオテクノロジー特論
場の理論 A	天然物化学特論	生命科学研究法 A
場の理論 B	錯体の材料科学特論	生命科学研究法 B
量子力学特論	ナノ炭素材料の理論	生命科学特論 A
統計物理学特論 A	基礎固体電子特論 I	生命科学特論 B
統計物理学特論 B	基礎固体電子特論 II	微生物分子生物学
宇宙放射線特論	固体物理学特論 I	神経科学
宇宙物理特論 A	固体物理学特論 II	応用微生物学
宇宙物理特論 B	無機薄膜工学特論	バイオインフォマティクス特論
宇宙物理特論 C	結晶化学特論	ゲノム情報科学
物理科学特論 I	表面と表面計測	生命機能化学
物理科学特論 II	機能性物質の基礎と応用	生体機能分析
構造化学特論	最先端生命科学入門	生体分子イメージング
光化学特論	生化学・分子生物学概論	生体分子機械論
量子化学特論	細胞生物学	

《数学》中学校専修免許状・高等学校専修免許状

本学で取得すべき科目		(免許状取得に必要な最低単位数 24単位)
代数学特論	計算数学特論	非線形数理
幾何学特論	確率過程論	数理科学特論 I
解析学特論	離散数学	数理科学特論 II
応用数学特論	位相幾何学	数理科学特別輪講 A
表現論	力学系	数理科学特別輪講 B
リー群論	関数方程式論	数理科学特別輪講 C
組合せ論	スペクトル理論	数理科学特別輪講 D

《工業》高等学校専修免許状

本学で取得すべき科目		(免許状取得に必要な最低単位数 24単位)
プラズマ工学	デジタル回路特論	伝熱工学特論
フォトニック・デバイス特論	アナログデジタル回路特論	輸送現象特論
ナノサイエンス特論	情報工学特論	流体力学特論
物質科学特論	電子通信特論	機械制御特論
半導体工学特論	信号処理特論	機械力学特論
電子物性・材料特論Ⅰ	スイッチング回路特論	トライボロジーと先端設計技術
電子物性・材料特論Ⅱ	電子制御特論	宇宙構造材料工学特論
電子物性工学特論	インテリジェント制御システム	航空宇宙工学特論
生体電子工学特論	材料力学特論	エネルギーシステム特論
マイクロ波・ミリ波計測特論	超音波・レーザ計測特論	
環境電磁工学特論	材料工学特論	

《情報》高等学校専修免許状

本学で取得すべき科目		(免許状取得に必要な最低単位数 24単位)
ヒューマンインタフェース特論	知能ソフトウェア科学特論	統計的機械学習特論Ⅱ
バーチャルリアリティ特論	画像処理特論	協働システム特論Ⅰ
インターネット特論	マルチメディア工学特論	協働システム特論Ⅱ
無線通信システム特論	ワールドワイドウェブ特論	品質情報システム特論Ⅰ
先端コンピューティング特論	ソフトウェア科学特論	品質情報システム特論Ⅱ
情報セキュリティ特論	スマートメディア特論	カイゼンマネジメント特論Ⅰ
データサイエンス特論	ウェアラブルメディア特論	カイゼンマネジメント特論Ⅱ
発見科学特論	経営工学特論	経営管理システム特論Ⅰ
非線形制御	組合せ最適化特論Ⅰ	経営管理システム特論Ⅱ
ロボット工学特論	組合せ最適化特論Ⅱ	システム工学特論Ⅰ
生体運動学	意思決定特論Ⅰ	システム工学特論Ⅱ
身体性知能論	意思決定特論Ⅱ	
人工知能特論	統計的機械学習特論Ⅰ	

2023年度入学者適用

《理科》中学校専修免許状・高等学校専修免許状

本学で取得すべき科目		(免許状取得に必要な最低単位数 24単位)
データ解析特論	有機化学特論	タンパク質科学特論
一般相対論	無機化学特論	バイオテクノロジー特論
場の理論 A	天然物化学特論	生命科学研究法 A
場の理論 B	錯体の材料科学特論	生命科学研究法 B
量子力学特論	ナノ炭素材料の理論	生命科学特論 A
統計物理学特論 A	基礎固体電子特論 I	生命科学特論 B
統計物理学特論 B	基礎固体電子特論 II	微生物分子生物学
宇宙放射線特論	固体物理学特論 I	神経科学
宇宙物理特論 A	固体物理学特論 II	構造生化学
宇宙物理特論 B	無機薄膜工学特論	バイオインフォマティクス特論
宇宙物理特論 C	結晶化学特論	ゲノム情報科学
物理科学特論 I	表面と表面計測	生命機能化学
物理科学特論 II	機能性物質の基礎と応用	生体機能分析
構造化学特論	最先端生命科学入門	生体分子イメージング
光化学特論	生化学・分子生物学概論	生体分子機械論
量子化学特論	細胞生物学	

《数学》中学校専修免許状・高等学校専修免許状

本学で取得すべき科目		(免許状取得に必要な最低単位数 24単位)
代数学特論	計算数学特論	非線形数理
幾何学特論	確率過程論	数理科学特論 I
解析学特論	離散数学	数理科学特論 II
応用数学特論	位相幾何学	数理科学特別輪講 A
表現論	力学系	数理科学特別輪講 B
リー群論	関数方程式論	数理科学特別輪講 C
組合せ論	スペクトル理論	数理科学特別輪講 D

《工業》高等学校専修免許状

本学で取得すべき科目		(免許状取得に必要な最低単位数 24単位)
フォトニック・デバイス特論	電子回路特論	材料工学特論
ナノサイエンス特論	アナログデジタル回路特論	伝熱工学特論
物質科学特論	情報工学特論	輸送現象特論
半導体工学特論	電子通信特論	流体力学特論
電子物性・材料特論 I	信号処理特論	機械制御特論
電子物性・材料特論 II	スイッチング回路特論	機械力学特論
電子物性工学特論	電子制御特論	トライボロジーと先端設計技術
生体電子工学特論	インテリジェント制御システム	宇宙構造材料工学特論
マイクロ波・ミリ波計測特論	材料力学特論	航空宇宙工学特論
環境電磁工学特論	超音波・レーザ計測特論	エネルギーシステム特論

《情報》高等学校専修免許状

本学で取得すべき科目		(免許状取得に必要な最低単位数 24単位)
ヒューマンインタフェース特論	人工知能特論	意思決定特論Ⅱ
バーチャルリアリティ特論	知能ソフトウェア科学特論	統計的機械学習特論Ⅰ
インターネット特論	画像処理特論	統計的機械学習特論Ⅱ
無線通信システム特論	マルチメディア工学特論	協働システム特論Ⅰ
先端コンピューティング特論	ワールドワイドウェブ特論	品質情報システム特論Ⅰ
情報セキュリティ特論	ソフトウェア科学特論	品質情報システム特論Ⅱ
データサイエンス特論	スマートメディア特論	カイゼンマネジメント特論Ⅰ
発見科学特論	ウェアラブルメディア特論	カイゼンマネジメント特論Ⅱ
非線形制御	経営工学特論	経営管理システム特論Ⅰ
ロボット工学特論	組合せ最適化特論Ⅰ	経営管理システム特論Ⅱ
生体運動学	組合せ最適化特論Ⅱ	システム工学特論Ⅰ
身体性知能論	意思決定特論Ⅰ	システム工学特論Ⅱ

学生生活上の諸注意

学生生活上の諸注意

1. 大学からの通知・連絡について

円滑な学生生活を送る事ができるよう、必要に応じ各種通知・連絡を「学生ポータル」「掲示」により行います。内容によっては、知らなかったために不利益を被る事もあるので常に注意してください。

なお、間違いを生じやすいので、電話による問い合わせには応じません。

・学生ポータル

大学からの通知・連絡等を、スマートフォンやPCから確認できます。利用方法は「学生ポータル利用案内」を参照してください。

・掲示板（所属キャンパスの掲示板を確認してください）

<相模原キャンパス>

- ・授業、就職、公示等に関する事：B棟学生センター内
- ・キリスト教、健康、図書館等に関する事：各事務室付近
- ・課外活動、催事等に関する事：B棟1階、G棟1階、F棟1階

<青山キャンパス>

- ・授業、就職に関する事：17号館2階
- ・公示等に関する事：正門脇
- ・キリスト教に関する事：17号館1階
- ・健康、図書館等に関する事：各事務室付近
- ・課外活動、催事等に関する事：正門脇、1・7号館脇、2号館脇、17号館1階・3～6階

・公式アプリ「らいふいんあおやま」

課外活動など学生生活を充実させるための情報を扱います。授業、成績など学生の個別的な情報は取り扱いません。

2. 緊急時の伝達手段

災害（地震、台風、大雪）等により、各キャンパス周辺の交通機関が止まり、授業および定期試験等の実施に支障をきたす事態が発生した場合、大学ウェブサイトから緊急情報を発信します。緊急時は原則として「学生ポータル」による情報提供を行いません。

緊急時の情報発信（大学ウェブサイト）

<https://www.aoyama.ac.jp>

3. 学費について

学費は原則、口座振替方式（自動引き落とし）で納付していただきます。

納付は「年間一括」または「分割（前期・後期）」を選択できます。2024年度の学費の引き落としは、年間一括／前期学費（在学生のみのみ）は6月6日（木）、後期学費は11月25日（月）を予定しています。事前に振替口座の登録を行い、口座振替日前日までに所定学費を入金しておいてください。なお、別途教員免許・各種資格の取得申請をされた方は、当該課程料を後期学費に加算させていただきます。2025年度以降の学費の引き落としに関するスケジュールにつきましては、学生ポータル等で確認してください。

口座登録方法、納入期限については学生ポータル等で確認してください。やむを得ない事情で口座登録ができない場合は、庶務部経理課までご相談ください。

また、所定期日までに学費を納付できない場合は、所属キャンパスの学生生活課窓口に至急申し出てください。無断で学費を滞納された場合は、学則により定期試験の受験資格を失うばかりか、「除籍」となりますので注意してください。

4. 奨学金制度について

経済的に安定した学生生活を送るための制度です。貸与奨学金と給付奨学金の2種類があります。

<貸与奨学金>

貸与終了後は一定年限内に返還する義務がある奨学金として下記のものがあります。

- ・日本学生支援機構

<給付奨学金>

返還の義務がない奨学金として以下の奨学金があります。

- ・青山学院大学経済支援給付奨学金
- ・地方公共・民間育英団体奨学金

※地方公共・民間育英団体奨学金については一部貸与のものもあります。また、大学を通さずに募集するものもあるため、必要に応じて各自で直接財団まで問い合わせることも必要です。

いずれの奨学金についても募集・手続き・選考結果の発表等は原則学生ポータルにて行いますので、よく確認し、期日までに必要な手続きをとるようにしてください。

また、不明点は所属キャンパスの学費・奨学金窓口までお問い合わせください。

- ・青山キャンパス 学生生活部 学費・奨学金課
- ・相模原キャンパス 相模原事務部 学生生活課

5. 学生証について

本学の学生には、入学と同時に学生証が交付（貸与）されます。本証は本学の学生である事を証明する唯一の物です。学生生活を円滑に送るためにも常時携帯してください。また、教職員の要求があった時はこれを提示しなければなりません。

学生証がないと、各種証明書の発行、学割証の発行、図書館の利用、試験の受験、保健管理センターでの健康相談等は受けられません。なお、携行にあたっては大切に取り扱い、他人に貸与・譲渡してはなりません。

学生証の有効期限は標準修業年限です。

- ・紛失した場合

学外で紛失した場合は最寄りの警察署または交番へ、学内で紛失した場合は遺失物センターに申し出た上で、所属キャンパスの学生生活課にて再交付の手続きをしてください。（再交付料2,000円）

学生証が他人の手に渡ると学生ローン等に悪用される恐れがあるので保管には十分注意してください。

- ・学生番号

ひとつひとつの数字に意味があり、修了時まで変わりません。あらゆる手続きに必要となるので間違いなく覚えてください。

- ・学生証の返還

学生証は大学が学生に貸与している物です。修了・退学時には、直ちに返還してください。また、紛失等の為に再交付を受けた後に、旧学生証が見つかった場合は、直ちに旧学生証を返還してください。

6. 学割証について

JR利用において、片道101km以上の乗車券の運賃から2割引となります。学内証明書発行機で発行しています。発行日より3か月間有効です。

7. 各種届出について

- ・学生プロフィール

本学では、学生プロフィールシステムを導入し、学生の皆さんに充実した支援ができるよう、学生情報をデータ管理しています。このシステムは、学生本人による入力が必要です。学生ポータルから画面の指示に従い、①保護者等情報 ②家族構成 ③緊急時連絡先 ④通学経路 ⑤職歴の5項目に入力してください。

大学とご家族・保護者等がスムーズに連携できるよう、ご協力をお願いします。

- ・その他

在学中に改姓（名）、保護者等変更が生じた場合には、直ちに所属キャンパスの学生生活課まで届け出てください。

住所変更（本人・保護者等）は、学生ポータルを利用し、学生本人が変更手続きをしてください。なお、本人住所が変更された場合は、学生証裏面シールを貼りかえる必要があります。所属キャンパスの学生生活課でシールを受け取ってください。

届け出を怠ると、大学からの郵便物が届かなくなり、学生生活に支障をきたしますので注意してください。

8. 紛失物、拾得物、盗難の届け出について

大学構内で忘れ物・落し物をしたり、拾い物をした時は、遺失物センターに届け出てください。（相模原キャンパスN棟1階、青山キャンパス2号館1階）

また、構内での盗難が増えているので、貴重品類は短時間でも目を離さず、常に身に付けてください。もし盗難に遭った時は、速やかに警察と学生生活課に届け出てください。

9. 健康管理について

本学には保健管理センター（相模原キャンパスH棟1階、青山キャンパス7号館1階）が設置されています。充実した学生生活を送ることができるよう、皆さんの健康管理を支援しています。

・定期健康診断

病気の早期発見・予防のために、本学では毎年、全学生に受診を義務付けています（青山学院大学学生共通細則第9条）。必ず受診するよう心がけて下さい。受診場所は、ご自身の所属キャンパスになります。

日程や内容については、学生ポータルや大学ウェブサイトでご案内いたしますので、必ずご確認ください。

・救急処置

学内で怪我を負ったり急病になった場合は、すぐに保健管理センターへ来室または連絡してください（電話番号：042-759-6011（直通））。

怪我の状態や病状によっては、動かさない方が良い場合があります。また、一刻も早い医療が必要と思われる時は、先に救急車を呼んでください。

・健康相談

身体および心の悩みに対して、専門医による相談を実施しています。お気軽にご相談ください。

10. 「こころ」の健康相談について

学生相談センターでは大学院生の相談も受け付けています。

大学や日常生活において生じるさまざまな問題について、心理を専門とするカウンセラーが相談に応じ、問題解決の方向を共に見出していくところです。

相談内容やプライバシーの保護については十分に留意しながらお話を伺います。

また、心理的援助としての個人カウンセリングだけでなく、自分自身への理解を深めていただくための心理テストや、心理学に関する図書の貸し出しも行っています。

詳細については学生ポータルや大学ウェブサイトをご覧ください。

11. 障がいについての相談や大学での支援について

障がい学生支援センター（青山キャンパス9号館1階、相模原キャンパスH棟2階）は、障がいや長期にわたる病気・ケガなどで修学上の支援が必要な場合の相談窓口です。

支援の必要な学生が、障がいのない学生と同等の教育・研究の機会を得ることができるように、在籍する研究科や関係部署と連絡・調整を行います。支援が必要な場合は気軽にご相談ください。

詳細は、障がい学生支援センターウェブサイトをご覧ください。

https://www.aoyama.ac.jp/life/disabilities_supportcenter/

12. 各種証明書について

種 類	問い合わせ業務窓口		発行開始時期 (学部4年 修士2年)
	青山キャンパス	相模原キャンパス	
① 成績証明書	教務課 又は 専門職大学院教務課	学務課	(前期) 9月上旬・ (後期) 3月上旬
② 卒業(修了)見込証明書	専門職大学院教務課		4月2日～
③ 教育職員免許状取得見込証明書	教職課程課	学務課(教職課程担当)	学生ポータルを ご覧ください。
④ 健康診断証明書	保健管理センター		
⑤ 学割証(学校学生生徒旅客運賃割引証)	学生生活課		発行可能

- ・①、②、④の各種証明書は、オンライン申請サービス、郵送(交付願いによる)、窓口にて、③の証明書は、郵送(交付願いによる)、窓口にて、申請が可能です。
- ・⑤の学割証はオンライン申請サービスで申請し、学内証明書発行機で受け取る場合の発行料は無料です。ただし、郵送受け取りを希望する場合の送料は自己負担となります。
証明書により申請可能な方法が異なりますので、詳細については大学 Web サイトをご覧ください。
<https://www.aoyama.ac.jp/procedure/certitacafe/> (右記 QR コードよりアクセスすることができます。)
- ・提出先が定めた指定書式による証明書が必要な場合は、別途各所属キャンパスの問い合わせ事務窓口までお問い合わせください。
- ・証明書用封筒は学務部教務課・専門職大学院教務課(青山キャンパス)学務課(相模原キャンパス)又は、各キャンパスの保健管理センター窓口でお渡しします。また厳封が必要な場合はお問合せ事務窓口に申し出てください。
- ・大学院博士(後期)課程の修了見込証明書は郵便(交付願いによる)申請または窓口申請をご利用ください。申請後原則5営業日後発行となります。
- ・各種証明書 料金:発行手数料 500円/1通+システム管理料 150円/1申請(+印刷料60円/1枚 コンビニ受取のみ)(+郵送料 郵送受取のみ)
- ・④の発行開始時期は、学生定期健康診断および Web 健康調査終了後の4月末を予定していますので、詳細については上記大学 Web サイトをご覧ください。



学内証明書発行機について

学内証明書発行機で証明書を発行し受け取ることができます。(在学生かつオンライン申請サービスで申請可能な証明書のみ対象)

利用にあたっては必ず事前にオンライン上で申請し、学内印刷番号を取得後、学内証明書発行機に予約番号を入力し証明書等を受け取ってください。

■設置場所

青山 17号館2階廊下 相模原 B棟1階エスカレータ下

※日曜・祝日・その他大学が定める休業日は稼働していません。

※メンテナンス作業中は使用できません。各種証明書が必要な場合は、日にちに余裕をもって準備してください。

※交通系 IC カードによる支払いはカードタイプのみ対応しています。モバイルタイプは利用できません。

13. 就職支援について

就職活動においては主体的に方向性を定め、積極的に働きかける姿勢が重要です。

学生ポータルメニューの「進路・就職」、または大学ウェブサイトの「就職・キャリア」ページから「Web Ash (進路就職支援システム)」にログインすることにより、ウェブ上で本学宛の求人票、会社説明会案内、インターンシップ情報、入社試験情報、OBOG 情報の有無等を検索・確認することができます。

進路・就職センター(青山キャンパス)または進路・就職課(相模原キャンパス)は、大学院生の就職の個別相談にも応じています。希望者は、Web Ash で予約の上、利用してください。資料室・資料コーナーは自由に利用することができます。

14. 大学礼拝について

大学では、キリスト教活動の中心に礼拝を位置づけており、月曜日から金曜日まで毎日午前10時30分～11時に礼拝を行っています。加えて青山キャンパスでは火曜日の午後6時30分～7時に夕礼拝を行っています。大学礼拝はキリスト教の信仰を土台とする青山学院の精神を最も具体的に示す場であるとともに、学生のみなさんにキリスト教による人格教育を行う場でもあります。礼拝の説教者は主として宗教主任、宣教師、学内のクリスチャン教師があたるほか、教会の牧師や海外からの来訪者を招くこともあります。英語礼拝や特別礼拝（チャペル・ウィーク、クリスマスなど）もあり、大学院生も礼拝には積極的に参加してください。なお、詳細は「青山学院大学礼拝週報」をご覧ください。

(https://www.aoyamagakuin.jp/outline/christ/weekly_report/)

<図書館利用案内>

図書館 <https://www.agulin.aoyama.ac.jp/>

図書館は青山・相模原の両キャンパスにあり、どちらの図書館も利用できます。いずれも、利用には学生証が必要です。

開館時間（授業期間中）

	青山キャンパス	相模原キャンパス
月～金曜日	9：00～21：40	9：00～21：00*
土曜日	9：00～21：00	9：00～17：00
日曜日	12：00～19：00	休館

※ 開館時間の変更や休館日等は Web サイトや各キャンパスの「LIBRARY SCHEDULE」で確認してください。

* 一部のサービスについては20：00まで。

館外貸出冊数

	冊数	期間	延長
大学院生	20冊	2ヶ月	手続き日より2週間 5回まで

主なサービス

◇ 検 索

AURORA-OPAC（本学図書館蔵書等検索システム）を使って、両キャンパスの図書館蔵書や電子資料を検索することができます。また、図書館 Web サイトから、本学契約のデータベースや電子ジャーナルをまとめて検索する、ディスカバリーサービスも提供しています。

◇ 貸出・返却

貸出：資料を借りるときは、自動貸出機に学生証と資料を読み込ませてください。学生証を忘れた場合は、貸出はできません。スマートフォンのアプリを利用して、資料を借りることも可能です。

返却：期限日までにブックポストに返却してください。

※返却期限を厳守してください。貸出を希望する他の方が利用できません。

貸出・返却手続きは両館どちらでもできます。返却期限が過ぎた図書を返却しない場合は、新たな貸出や延長はできません。また、延滞日数分が貸出停止期間となりますので注意してください。紛失・汚損した場合は、弁償していただくこともあります。

◇ 予 約

借りたい図書が貸出中の場合は予約ができます。OPACで申し込みをしてください。

◇ 延 長

返却期限を延長することができます。予約が入っていない場合に限り、手続き日より2週間・5回まで可能です。返却期限日までに、図書館 Web サイトから手続きをしてください。

◇ 他キャンパス図書館の相互貸借利用

利用したい図書が他のキャンパスにある場合は、取り寄せることができます。OPACで申し込みをしてください。

◇ 図書の購入希望

利用したい図書が図書館に所蔵されていないときには、購入希望を出すことができます。図書館 Web サイトから申し込みをしてください。選書の上、購入の可否を決定します。

◇ レファレンス

- ・紹介状の発行
- ・文献複写、図書取り寄せ依頼（有料） ※他機関から取り寄せた図書は館内利用のみ（館外持ち出し不可）

◇ My Library

利用者 ID とパスワードでログインすると下記のサービスを利用できます。図書館 Web サイトまたは AOYAMA-portal のメニューにある ▶図書館→OPAC からご利用ください。

サービス内容

- ① 貸出延長手続き、貸出・予約状況照会
- ② 文献複写・現物貸借（図書の取り寄せ）の申し込み
- ③ 購入希望図書申し込み
- ④ SDI／アラートサービス（新着資料のお知らせメール）
- ⑤ メールアドレス登録・変更

◇ 図書館 Web サイト（利用者サービス）

- ① レファレンスサービス
 - ② オンライン施設予約
 - ③ データベース・電子ジャーナル・電子ブックの利用、図書館主催講習会申し込み など
- ※スマートフォンでも PC と同じサービスを利用できます。

◇ 他大学図書館との相互利用

本学図書館以外にも下記の大学図書館の利用ができます。利用方法等は大学により異なりますので、図書館 Web サイトまたはカウンターで確認してください。

- 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム加盟大学
（学習院大学、國學院大學、専修大学、東洋大学、法政大学、明治大学、明治学院大学、立教大学）
- 国際連合大学
- 日本赤十字看護大学
- 実践女子大学・実践女子大学短期大学部
- 聖心女子大学
- 神奈川県図書館協会大学図書館協力委員会が運営する共通閲覧証制度参加館（相模原キャンパス所属者のみ）

研究個室について（青山キャンパス）

青山キャンパスには、図書館 5 階に「研究個室」があり、施設予約から予約できます。利用可能時間は Web サイト等で確認してください。

アカデミックライティングセンター

アカデミックライティングに関する支援および教育を実施する機関として、青山キャンパス（18号館 2 階）、相模原キャンパス（万代記念図書館 2 階）に設置されています。本学学部生・大学院生を対象とし、学術的文章（論文、レポート、発表資料等）に関する 1 対 1 の個別支援を行います。支援は、学術的文章の書き方について専門性を有する大学院生チューターが担当します。45分単位のセッションは原則予約制で、Web サイトからの予約が可能です。開室時期やセッション時間割などの詳細は、Web サイト（<https://www.agulin.aoyama.ac.jp/writingcenter>）で確認してください。

<外国語ラボラトリー利用案内>

外国語ラボラトリー <https://www.agufl.aoyama.ac.jp/>

外国語ラボラトリー（Foreign Language Laboratory 略称 FLL）は、本学における外国語教育の向上を目的として 1961年に創設された教育施設です。CALL（Computer Assisted Language Learning）教室を青山・相模原キャンパスに擁し、外国語科目をはじめ、マルチメディア関連科目の授業で利用されています。

CALL 教室

フルデジタル方式の CALL システムを備えた CALL 教室が両キャンパスに設置されています。この CALL 教室の設置によって、CALL 機能に加えて、インターネットや各種のマルチメディア教材を用いた先進的な授業形態の実現が可能となり、さまざまな取り組みが行われています。

教室の使用は原則として授業を優先していますが、授業が行われていない空き教室を自習用として開放しています。利用可能教室や時間帯については、外国語ラボラトリーWebサイトまたは情報メディアセンターWebサイトで確認してください。

AV 資料（青山キャンパス）／AV コーナー（相模原キャンパス）の利用

本学の学生・教員が利用することができます。英語、フランス語を中心に、語学・文学・時事・各種資格教材などの各分野にわたる CD、映画等の DVD があり、これらを自習用ブース等で視聴することができます。この他、授業担当教員から指定された課題教材も視聴可能です。

- ・青山キャンパス 図書館2階他（新図書館棟マクレイ記念館 [18号館] 内）
- ・相模原キャンパス AV コーナー（B 棟3階 万代記念図書館内）

利用時間等は、外国語ラボラトリーWebサイトまたは図書館 Web サイトで確認してください。

<情報メディアセンター利用案内>

情報メディアセンター <https://www.aim.aoyama.ac.jp/>

情報メディアセンターでは、授業や研究、個人学習等に利用する学内の PC やインターネット利用環境の提供・整備および利用者へのサポートを行っています。

利用方法については、年度初頭、および情報メディアセンターサポートラウンジ（青山：18号館1階、相模原：B 棟4階）で配布している「大学のコンピュータシステムの利用について」や Web サイトを確認してください。

なお、各キャンパスの情報メディアセンターサポートラウンジでは、情報メディアセンターが提供するサービスの利用に関する問い合わせや、相談も受け付けています。

PC 教室一覧

キャンパス	場 所	教 室	席数 (PC 台数)	備 考
青山	18号館 1階※	18101	48(48)	
		18102	36(36)	
		18103	48(48)	
		18104	23(23)	
		18105	35(35)	
		18106	94(94)	
		18107	84(84)	

キャンパス	場 所	教 室	席数 (PC 台数)	備 考
相模原	B 棟 4階	B401	36(36)	
		B402	24(24)	
		B405	30(30)	
		B406	24(24)	
		B420a	42(42)	
		B420b	42(42)	
		B421	94(94)	公開 PC 室
		B422※	54(7)	ラーニングコモンズ
		B423	94(94)	
		B424	94(94)	
		B425	94(94)	
	N 棟 2階	N201	96(96)	
		N202	96(96)	
		N203	96(96)	
	N 棟 6階	N602a	120(120)	製図室
		N604b	140(140)	

※18号館1階、B422教室では、学生を対象としてノート PC の貸し出しサービスも行っています。

*青山キャンパスでは、18号館地下1階と1階の学習ラウンジ・ホールがラーニングコモンズの機能を果たし、学習スペースとして自由に利用可能です。

*教卓 PC は台数に含まれません。

*公開 PC 室、ラーニングコモンズ以外は、授業で利用していることがあります。PC 教室の利用状況および開室日、開室時間については、以下のページでご確認ください。

<https://www.aim.aoyama.ac.jp/pcroom-info/pcutilization/>

大学建物配置図

(相模原キャンパス)

相模原キャンパス 建物配置図



◎教室表示について

頭のアルファベットは「棟」を表し、次の数字は「階」を表します。

(例) F 2 0 1

F	2	0	1
↓	↓	↓	
棟	階	番号	

●窓口

スチューデントセンター…………… B棟 1階
学務課 (教務・国際交流・入学広報)
学生生活課
進路・就職課

PC サポートラウンジ…………… B棟 4階
(情報学習・語学学習)
ボランティアセンター…………… F棟 2階
チャットルーム…………… F棟 1階

保健管理センター…………… H棟 1階
学生相談センター…………… H棟 2階
障がい学生支援センター…………… H棟 2階

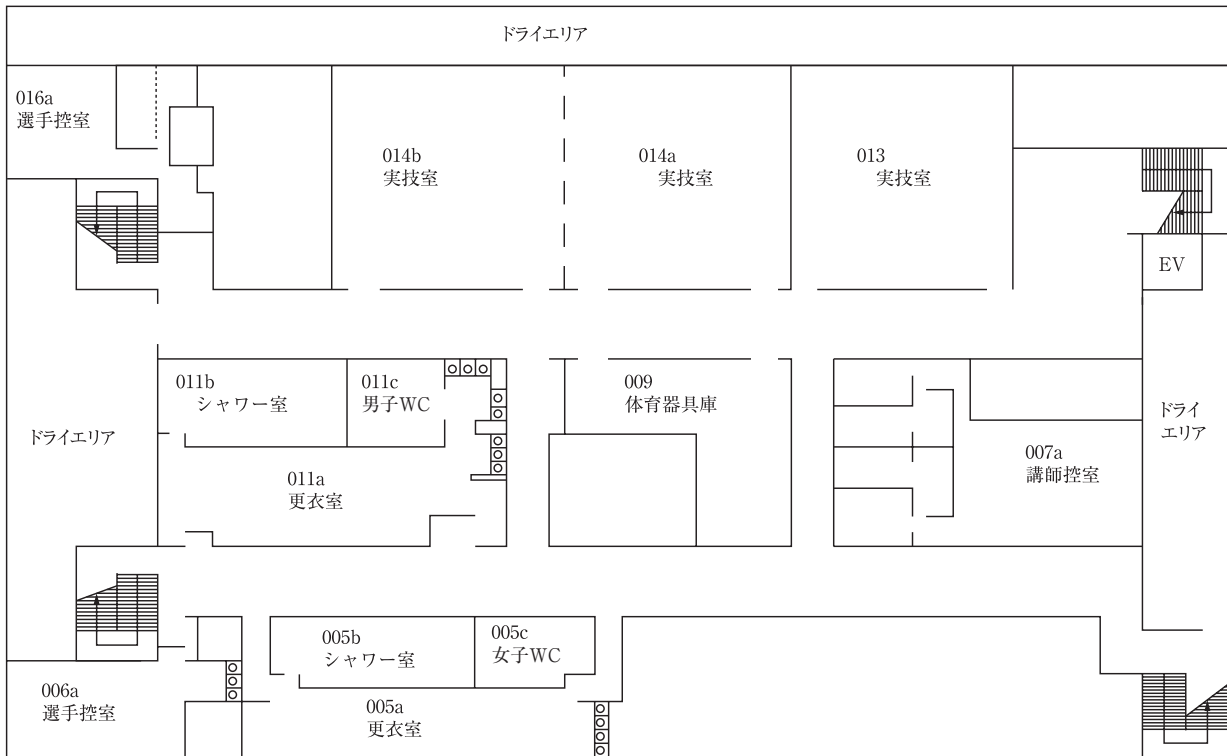
●講師控室

A棟…………… A棟地階
D棟…………… D棟 1階
F棟…………… F棟 1階

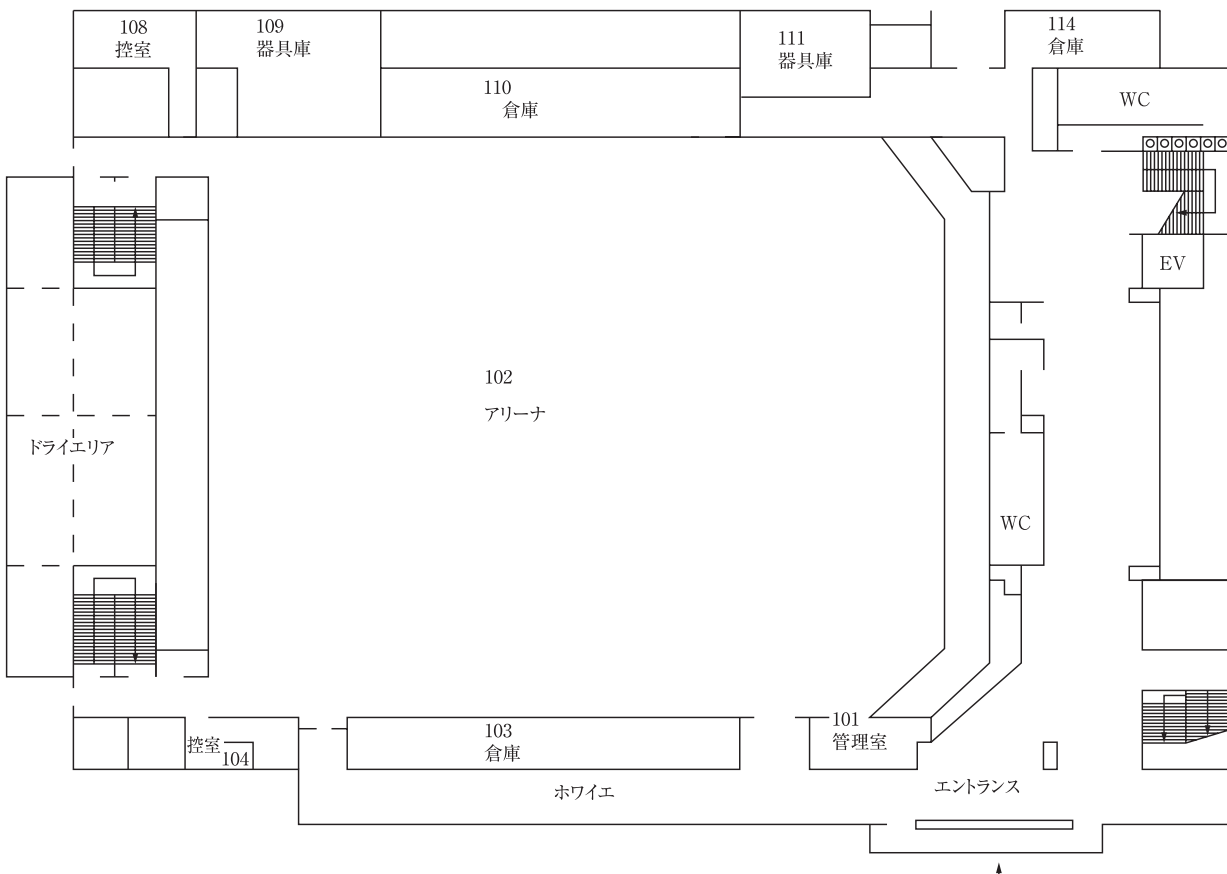
●合同研究室・講義準備室・学科受付

青山スタンダード教育機構室…………… F棟 2階
物理・数理学科受付…………… L棟 5, 6階
物理科学科受付…………… L棟 6階
数理サイエンス学科受付…………… L棟 5階
化学・生命科学科受付…………… J棟 5階
電気電子工学科受付…………… L棟 4階
機械創造工学科受付…………… J棟 2階
経営システム工学科受付…………… O棟 4階
情報テクノロジー学科受付…………… O棟 5階
社会情報学部合同研究室…………… B棟 6階
地球社会共生学部合同研究室…………… B棟 7階
コミュニティ人間科学部合同研究室… D棟 4階

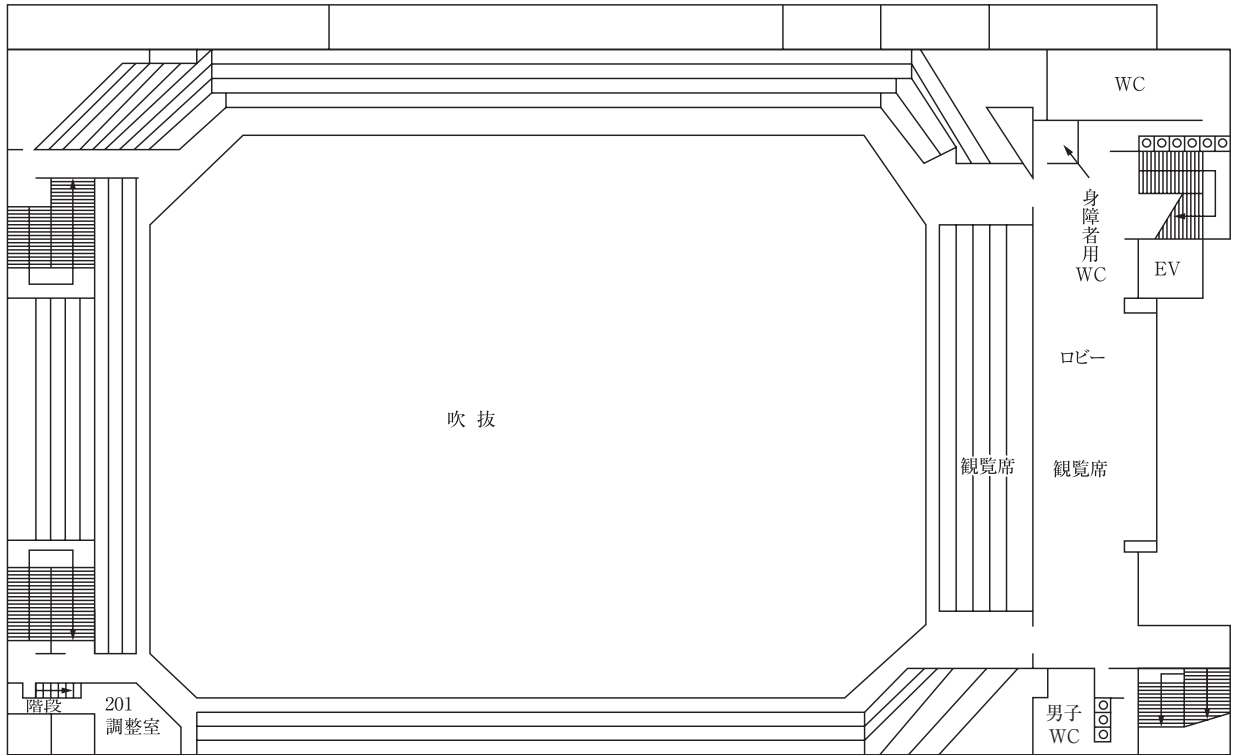
A 棟 地階



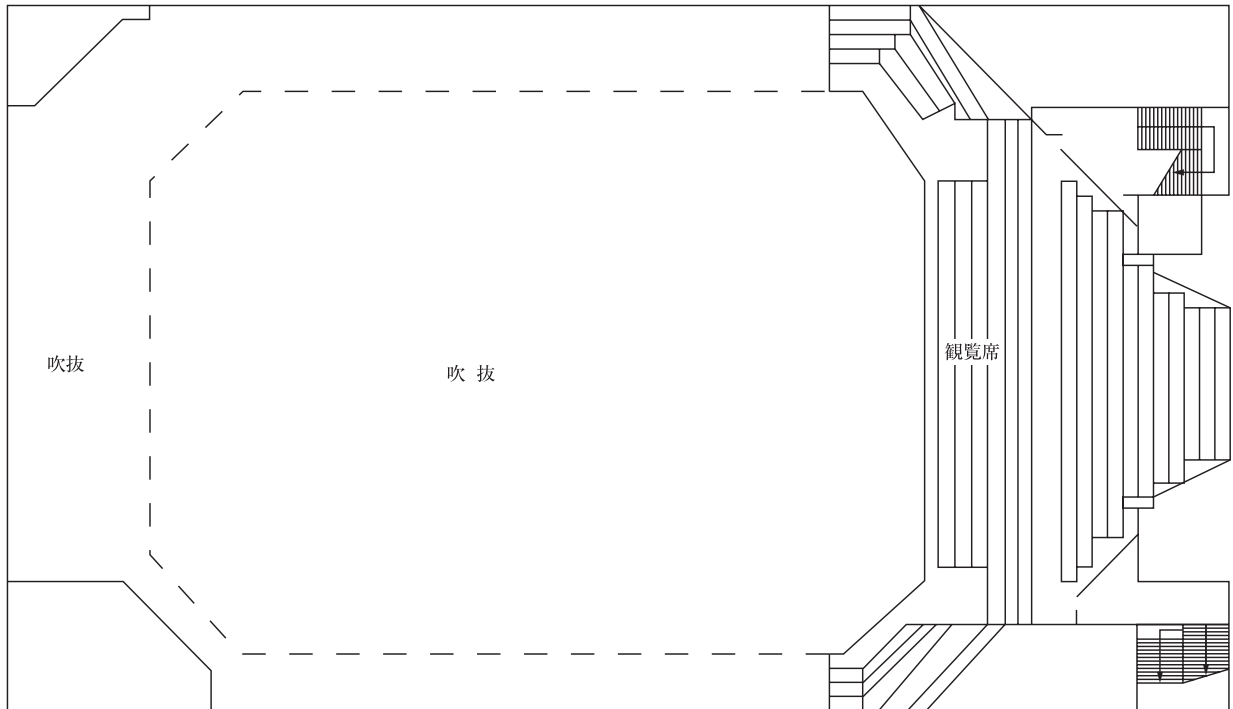
A 棟 1階



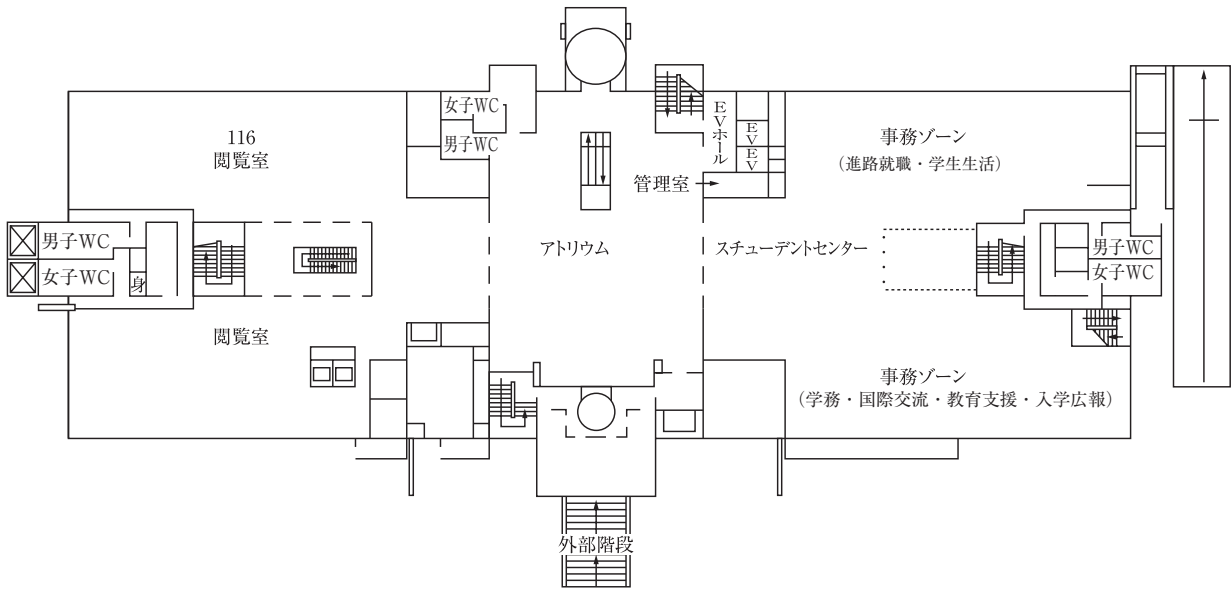
A棟 2階



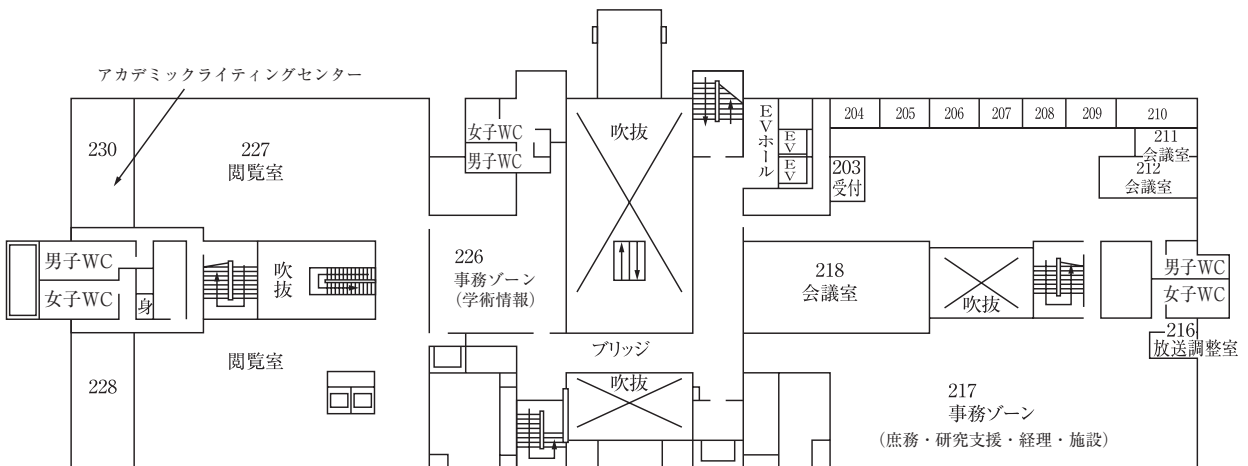
A棟 3階



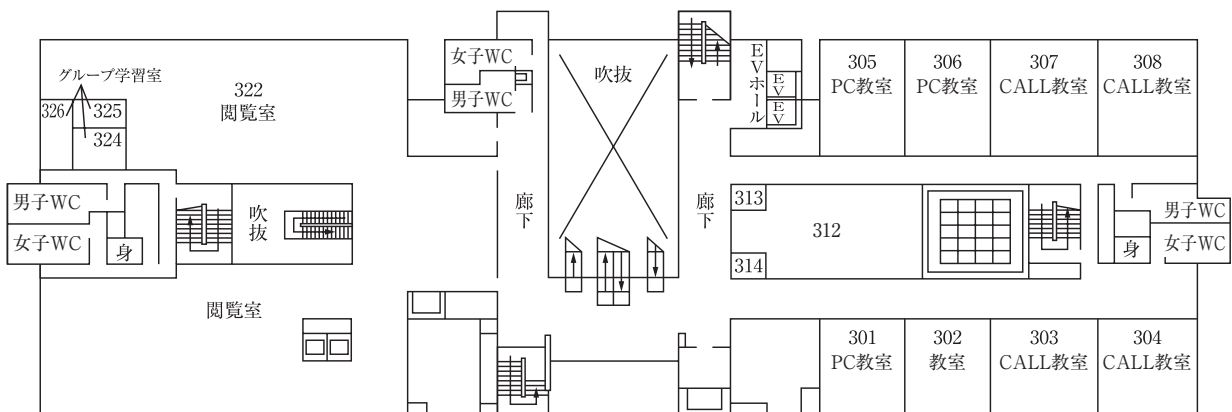
B棟 1階



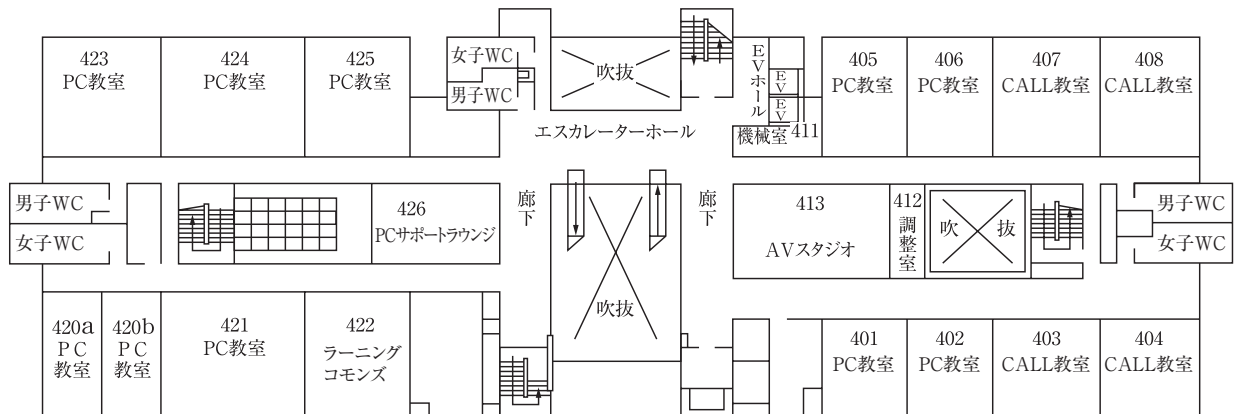
B棟 2階



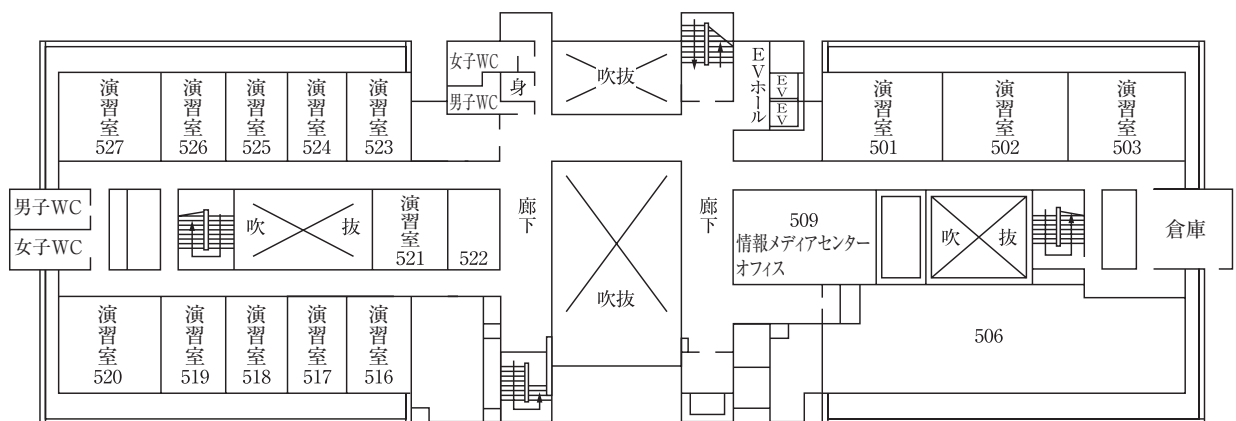
B棟 3階



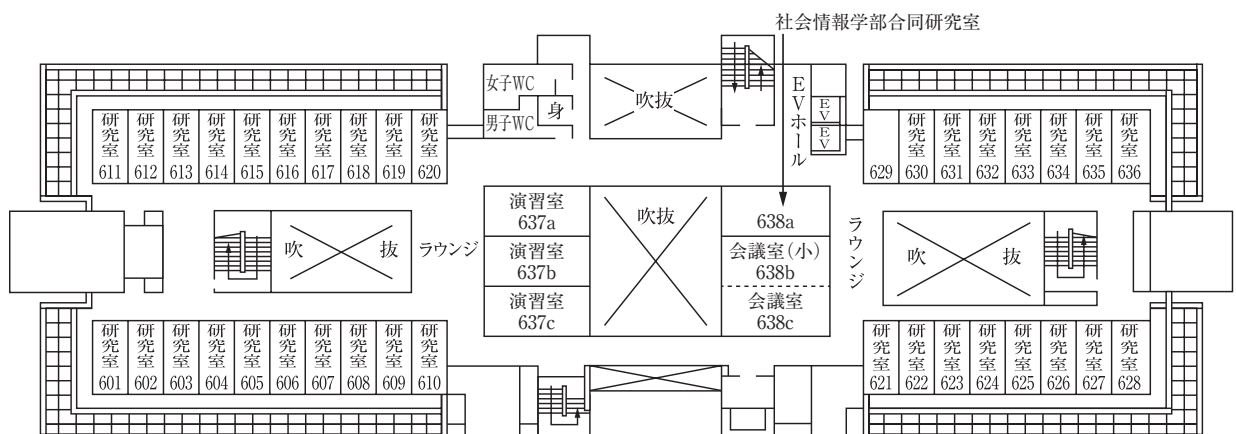
B棟 4階



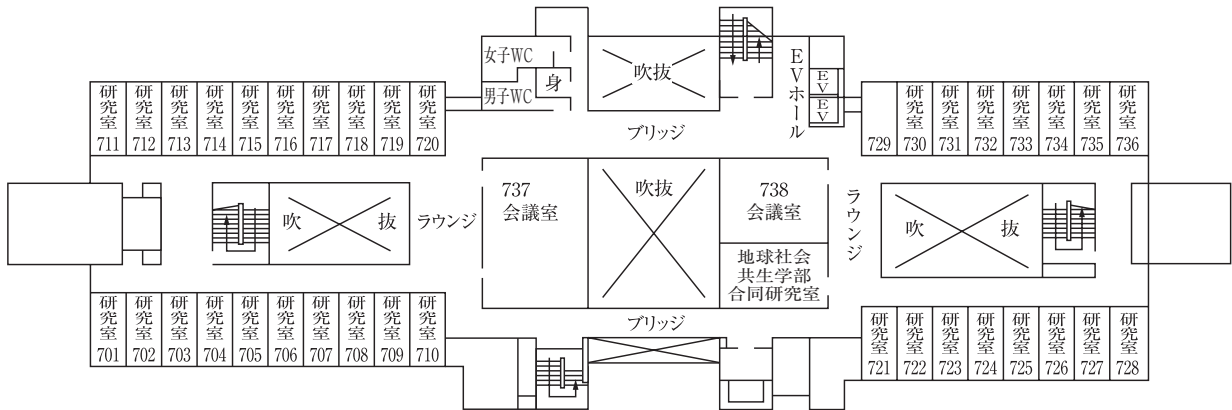
B棟 5階



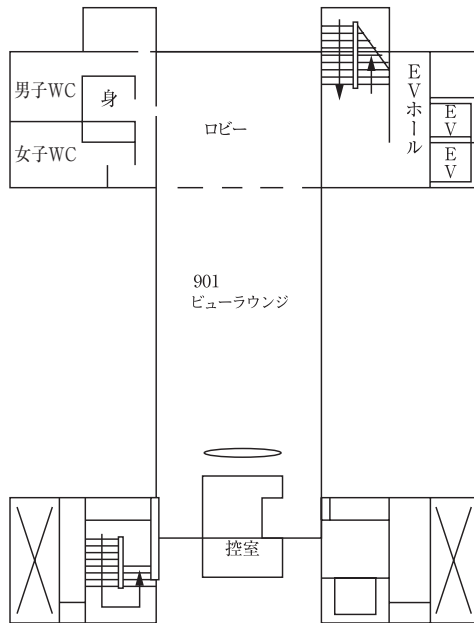
B棟 6階



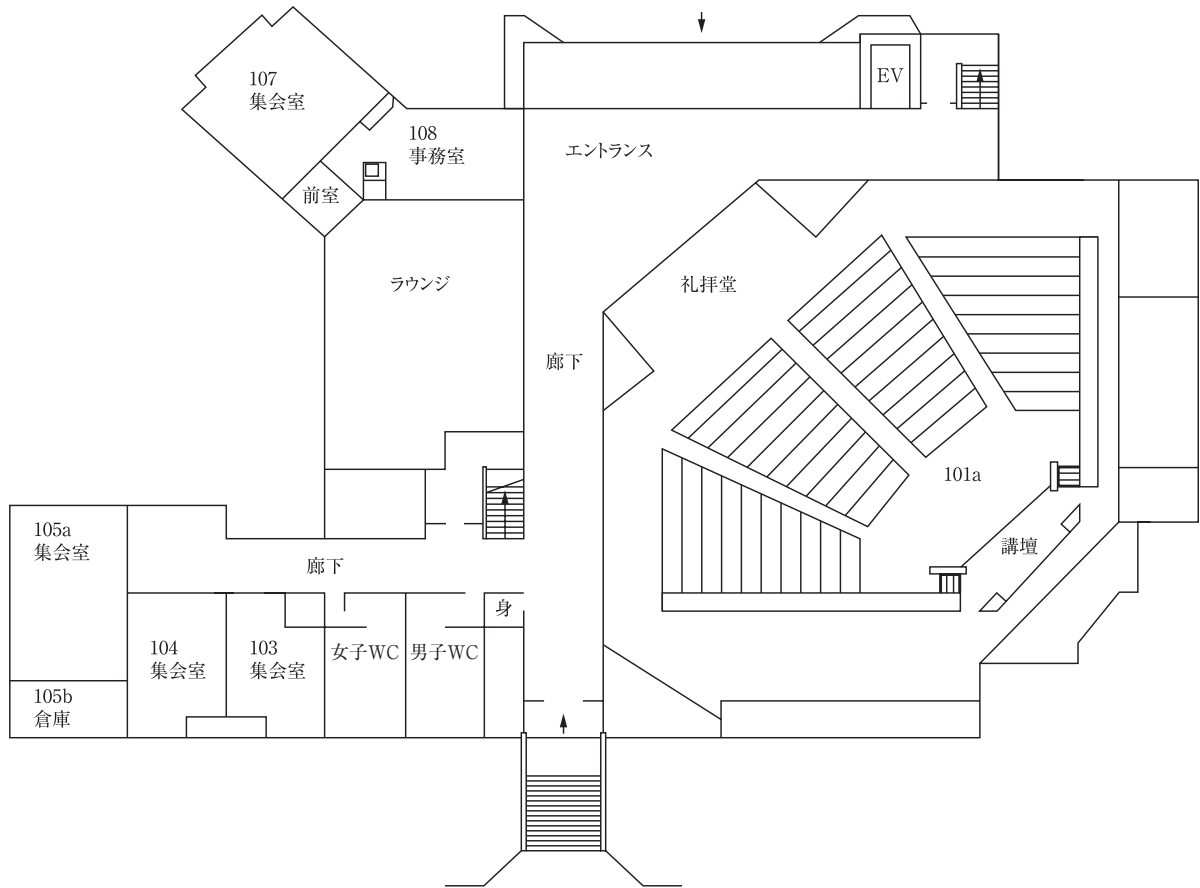
B棟 7階



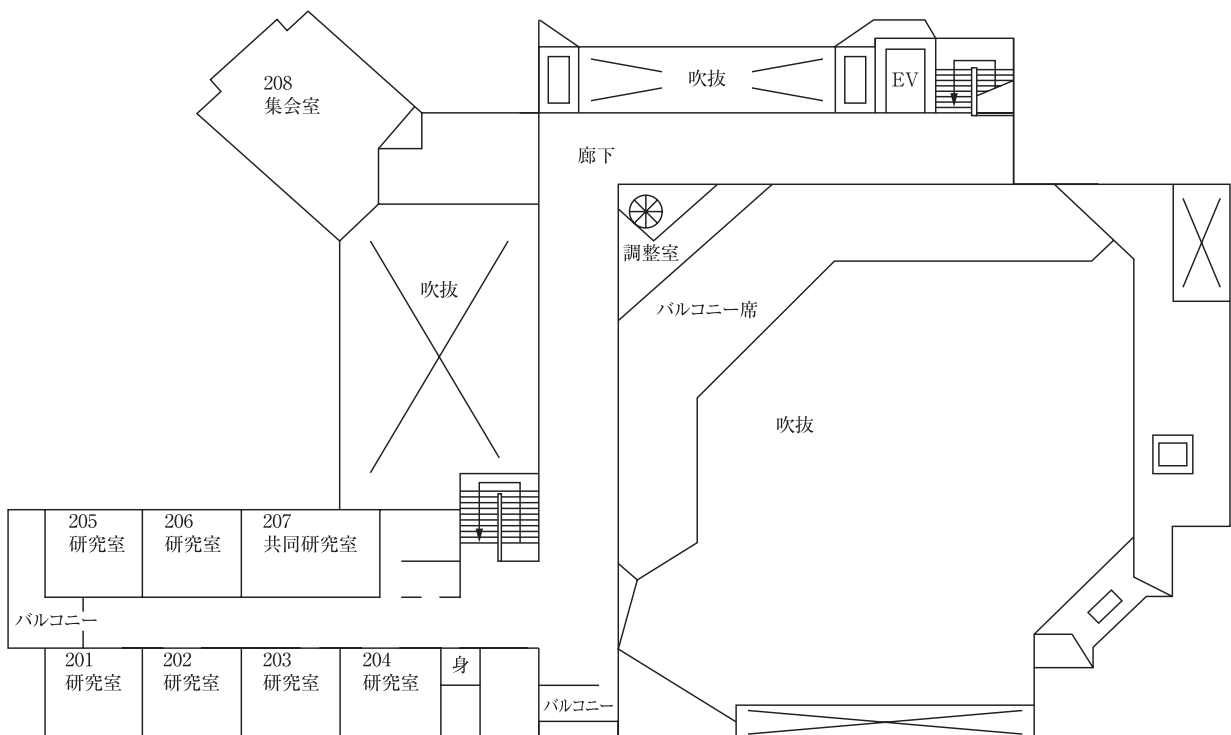
B棟 9階



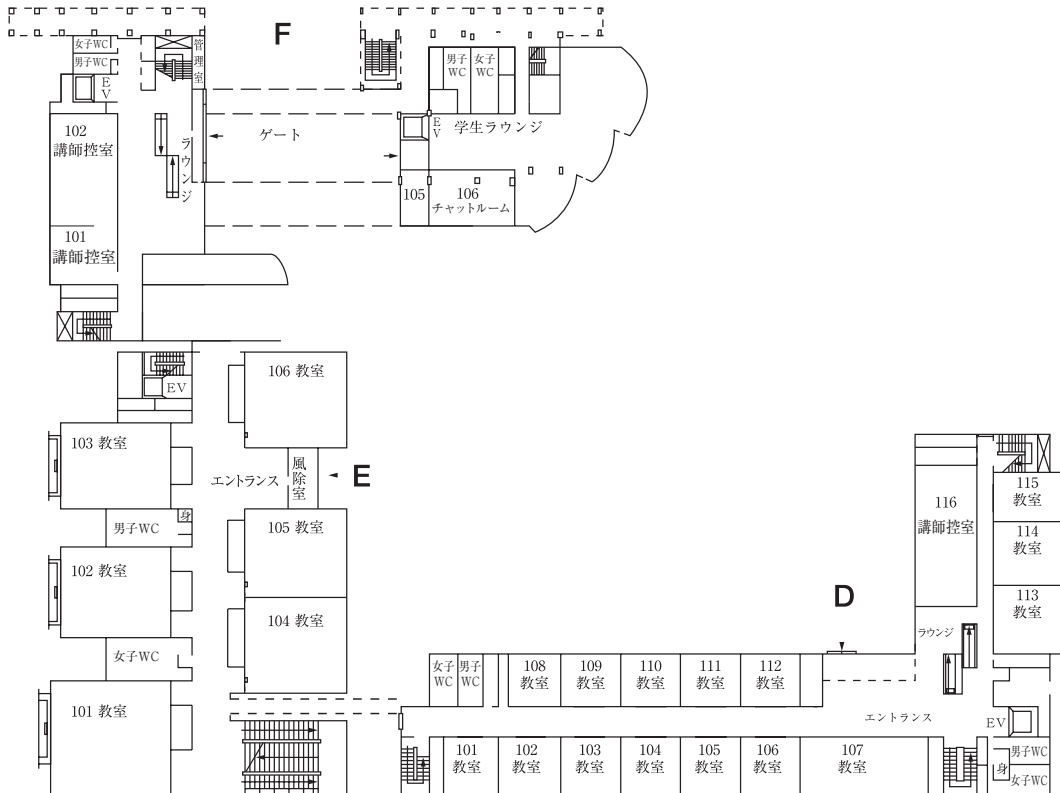
C棟 1階



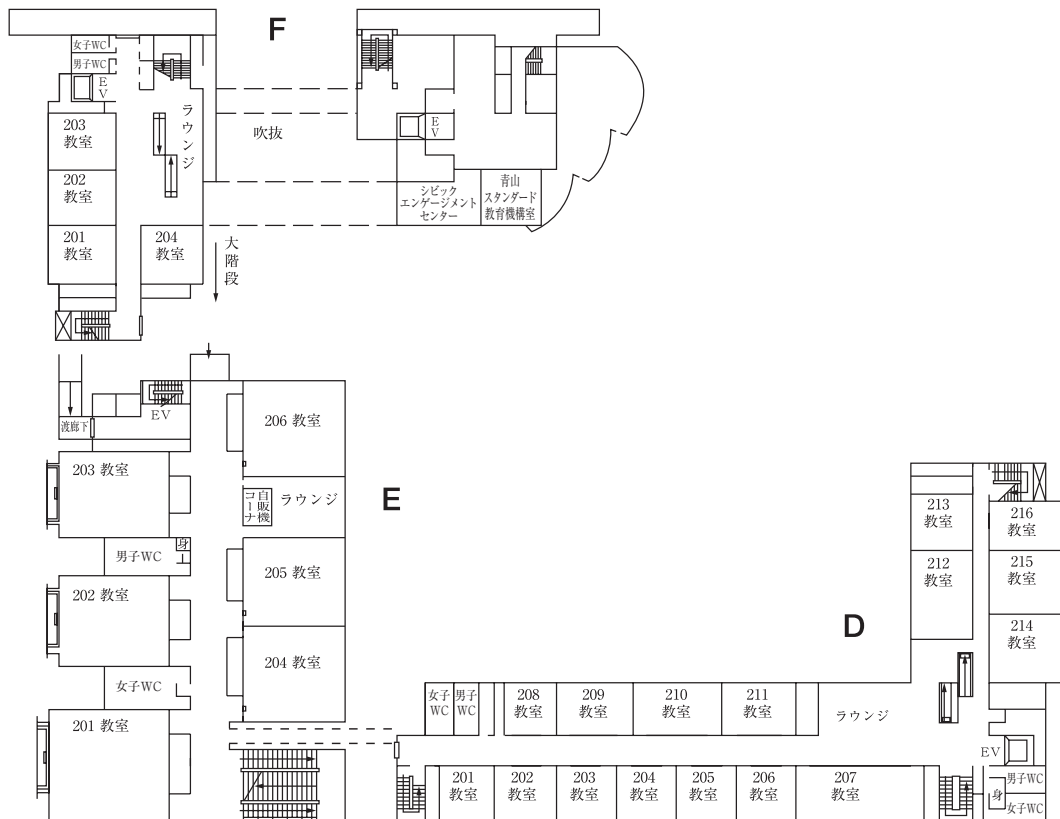
C棟 2階



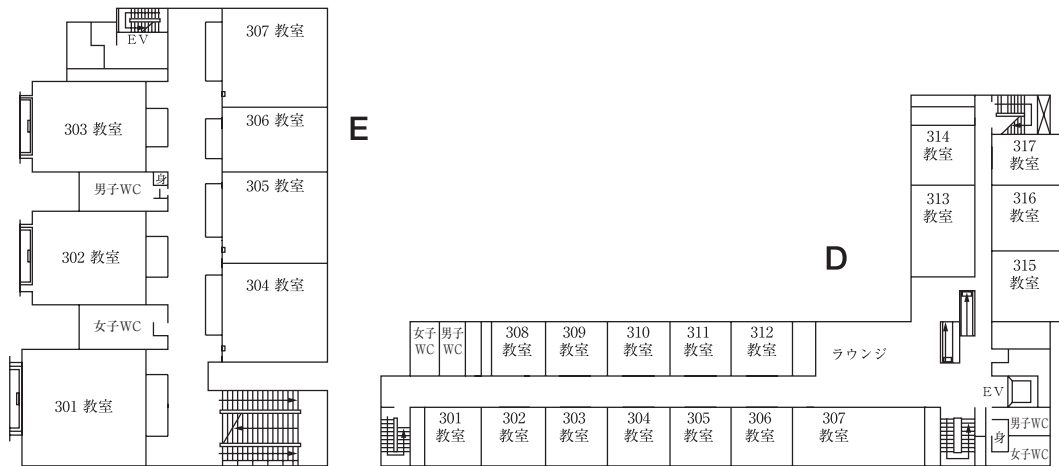
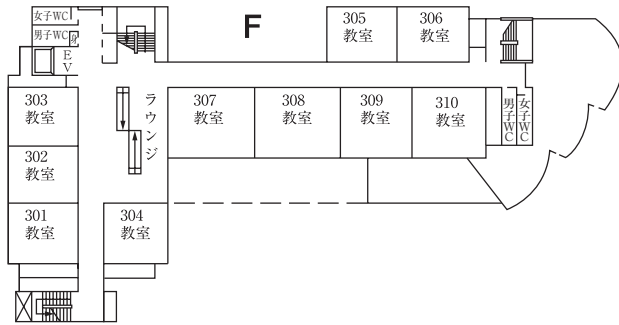
D・E・F 棟 1階



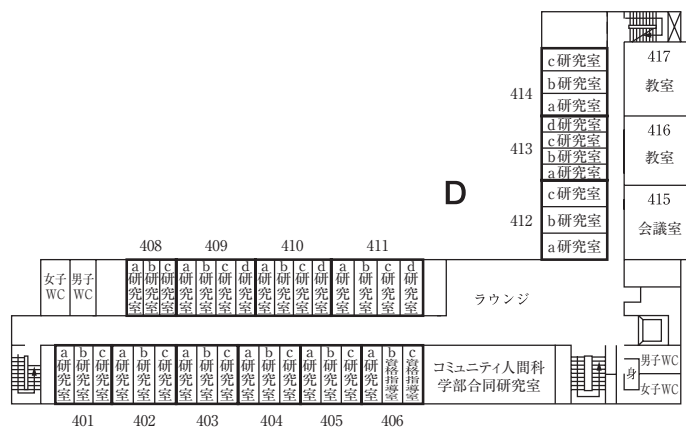
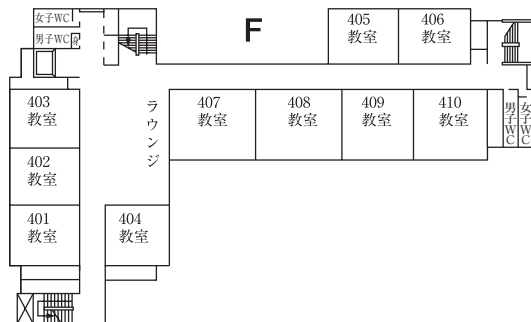
D・E・F 棟 2階



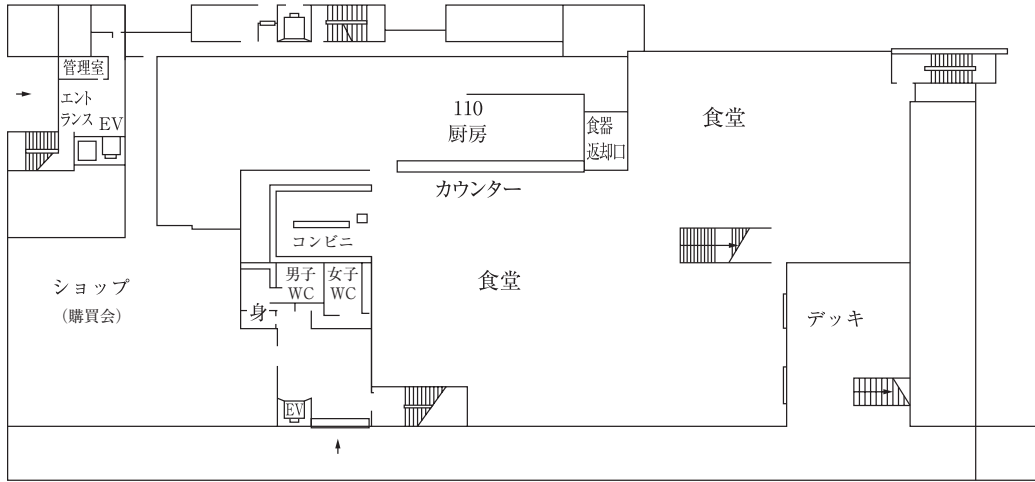
D・E・F 棟 3階



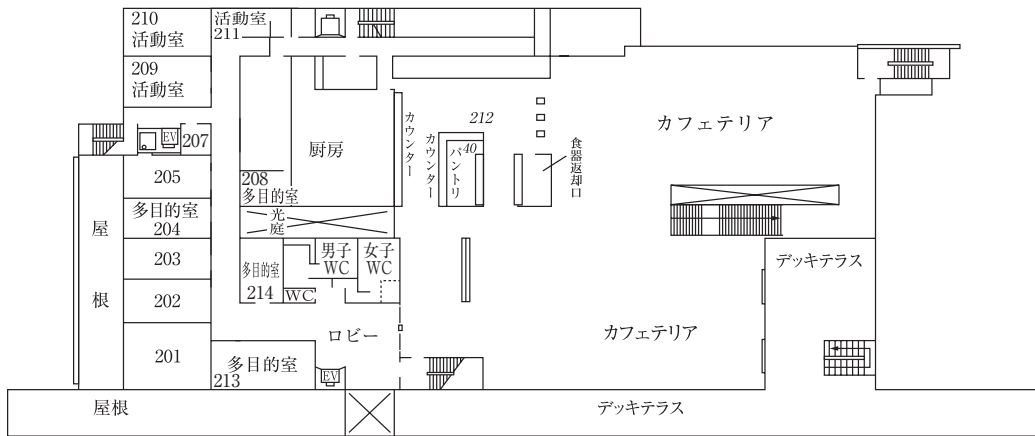
D・F 棟 4階



G棟 1階



G棟 2階



G棟 3階



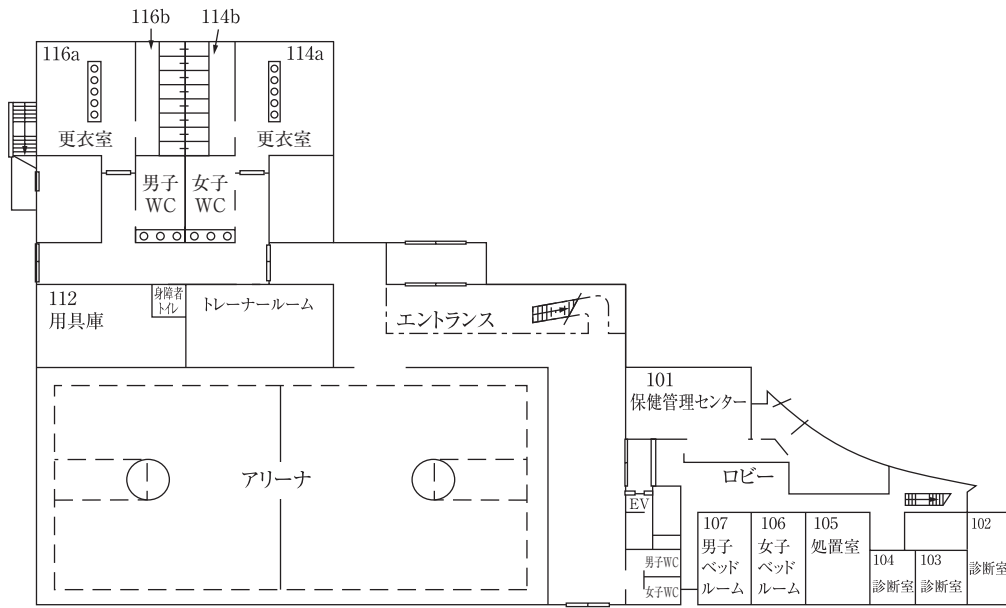
G棟 4階



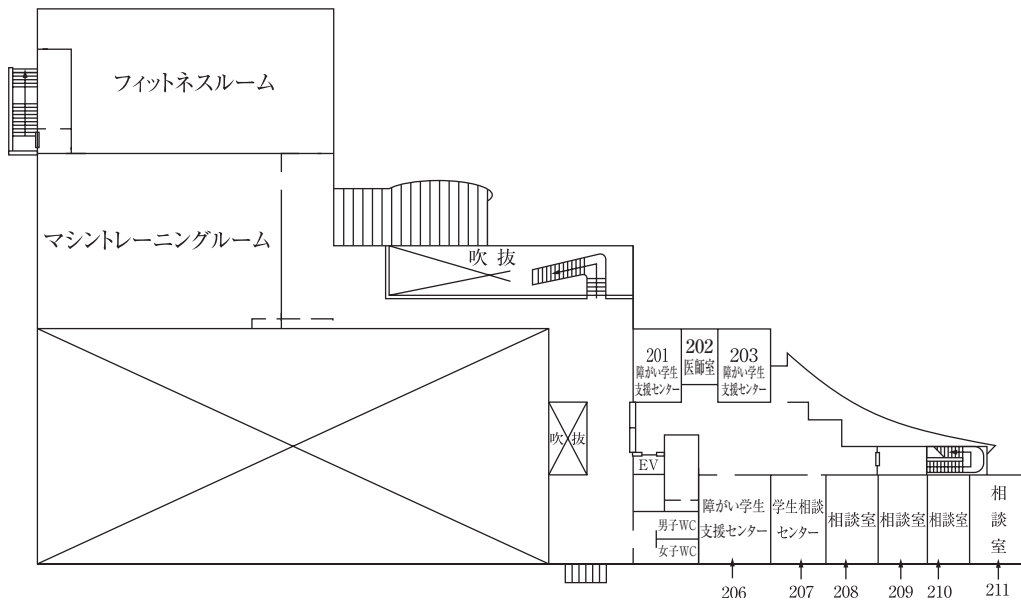
G棟 5階



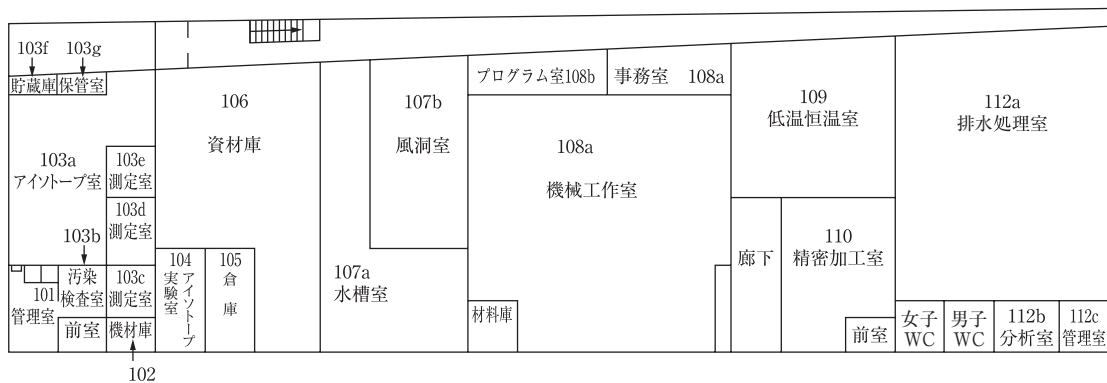
H棟 1階



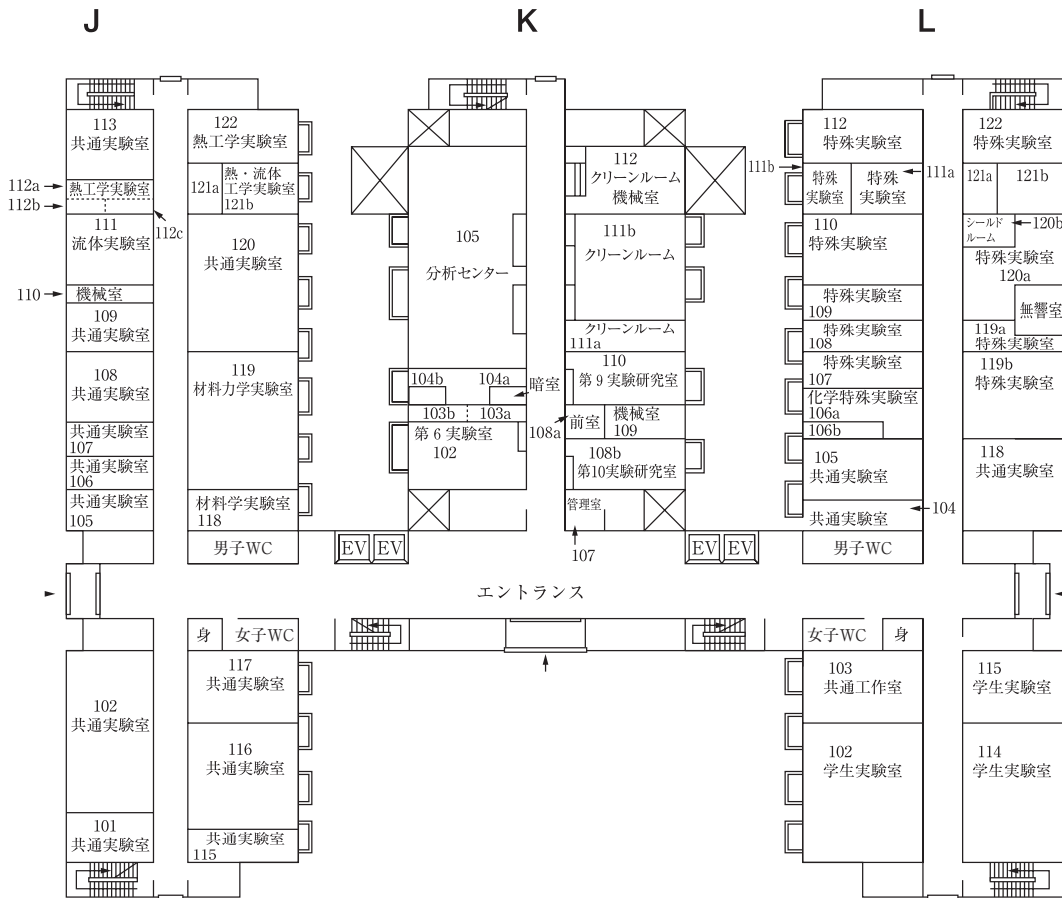
H棟 2階



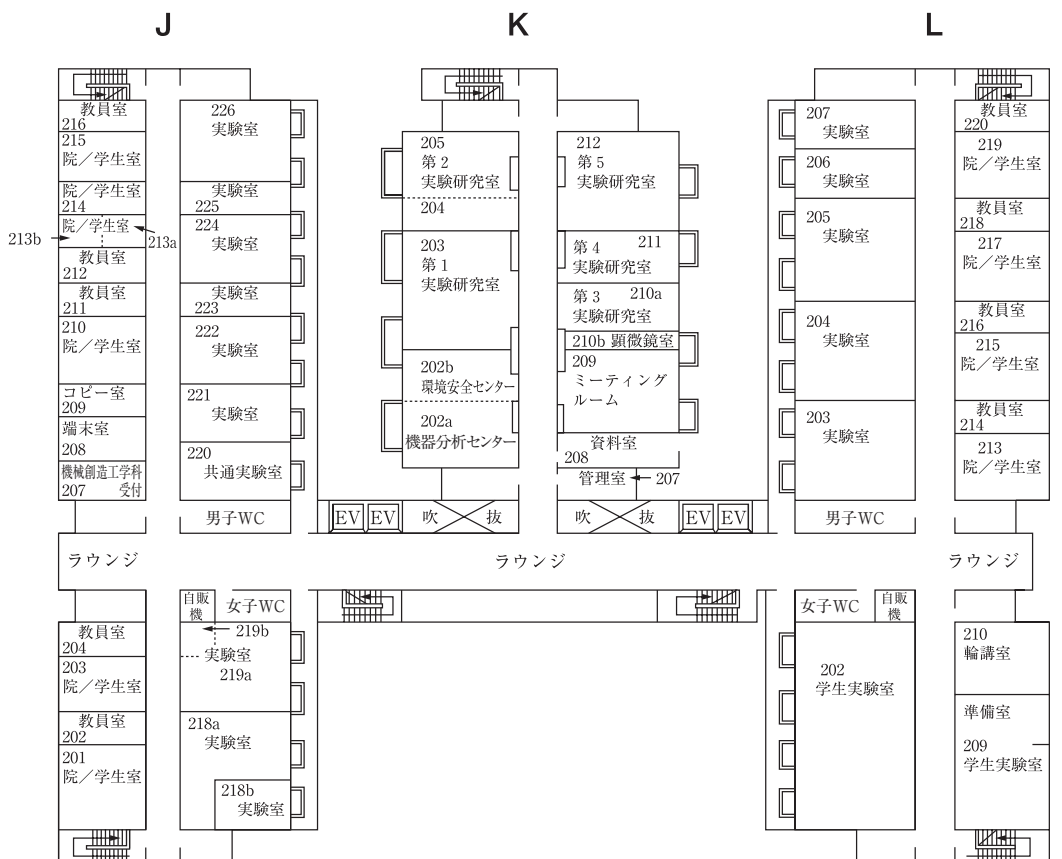
I棟



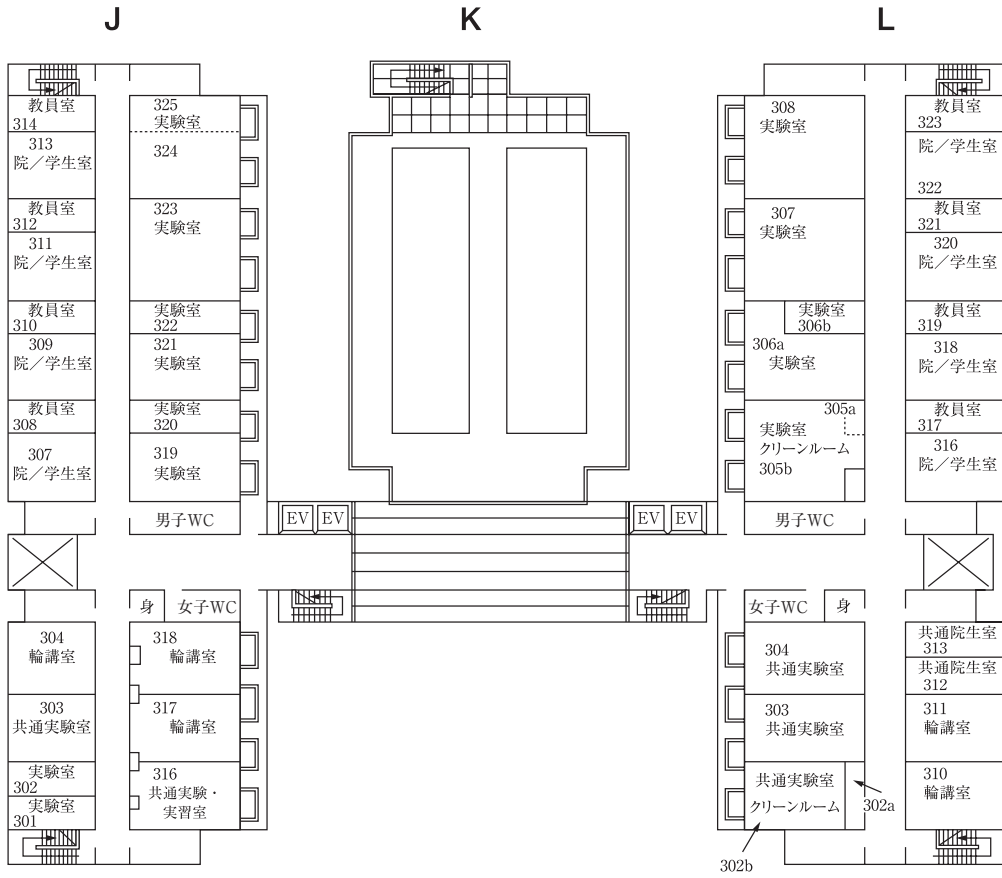
J・K・L 棟 1階



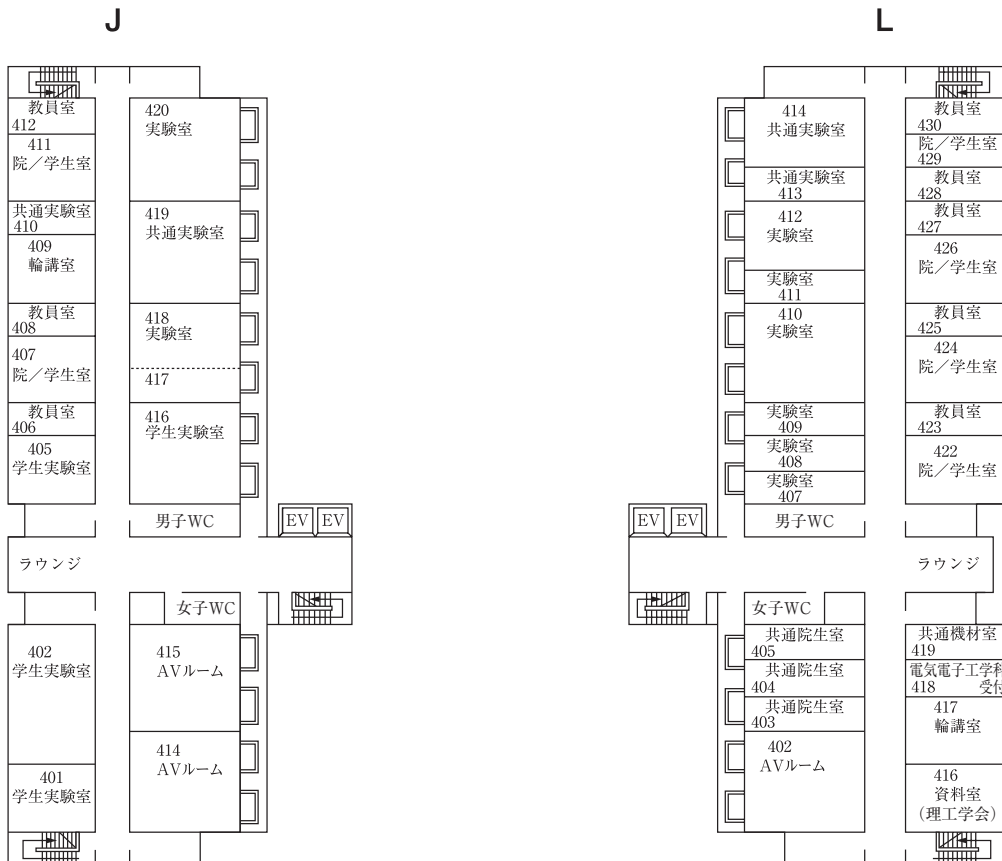
J・K・L 棟 2階



J・K・L 棟 3階

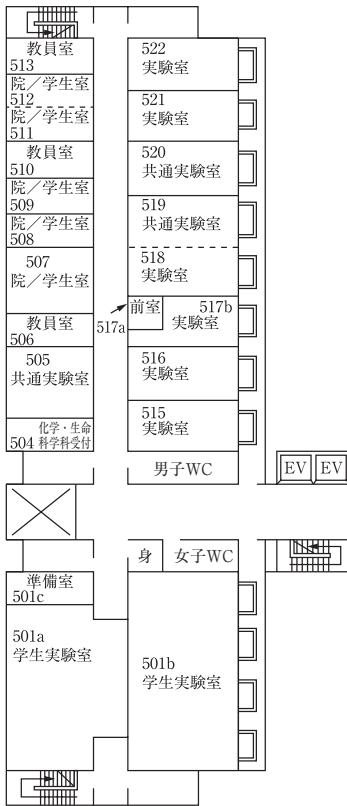


J・L 棟 4階

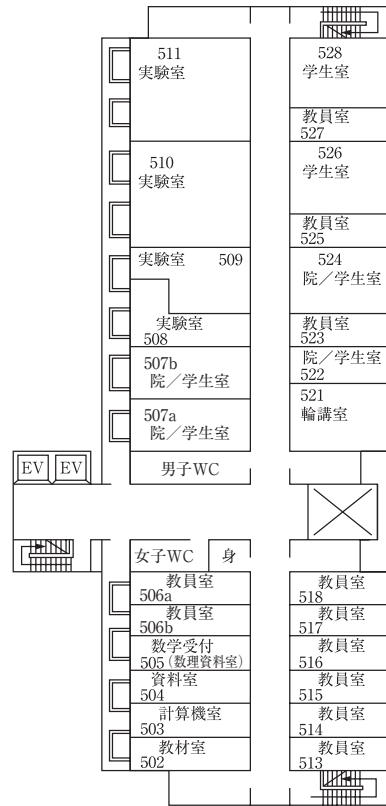


J・L棟 5階

J

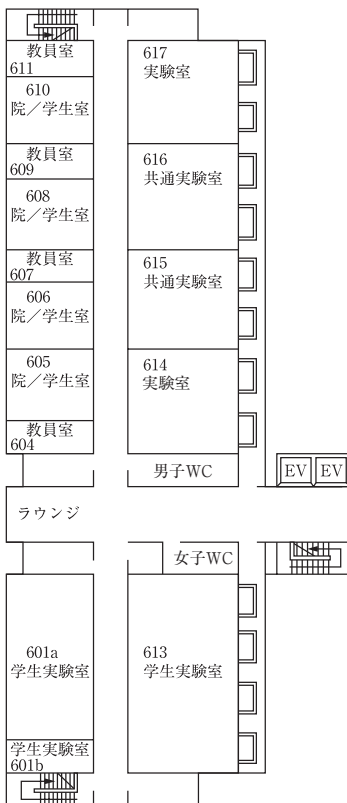


L



J・L棟 6階

J

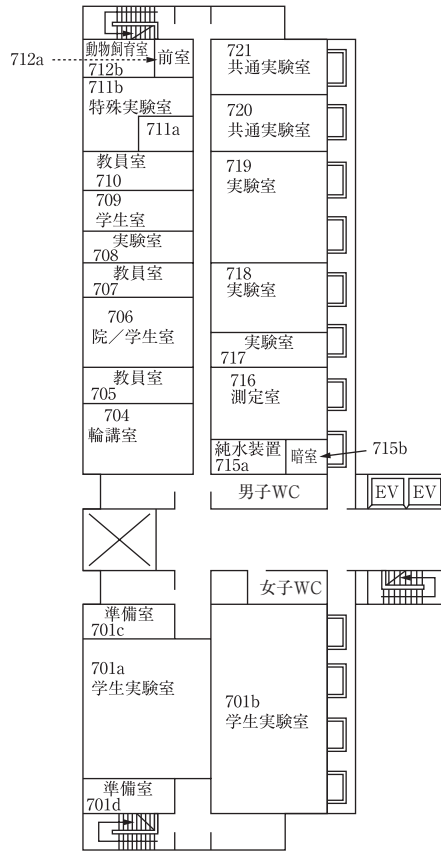


L

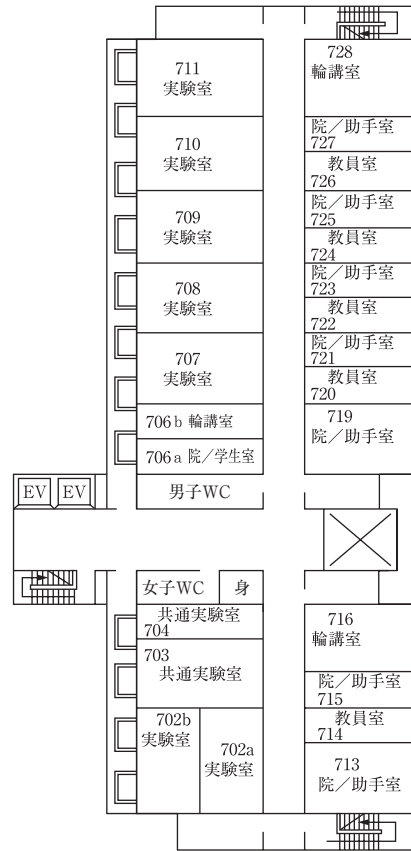


J・L 棟 7階

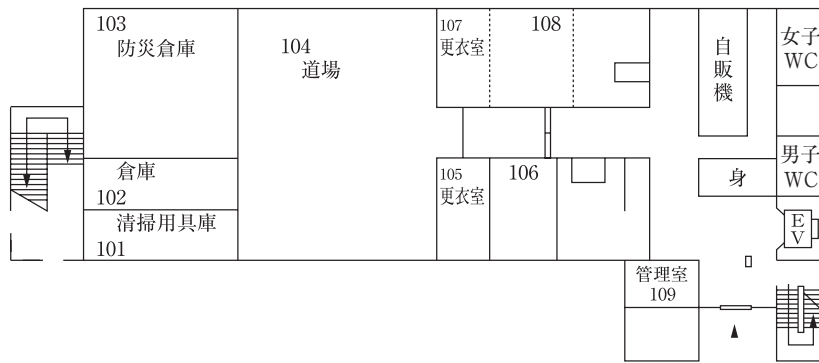
J



L



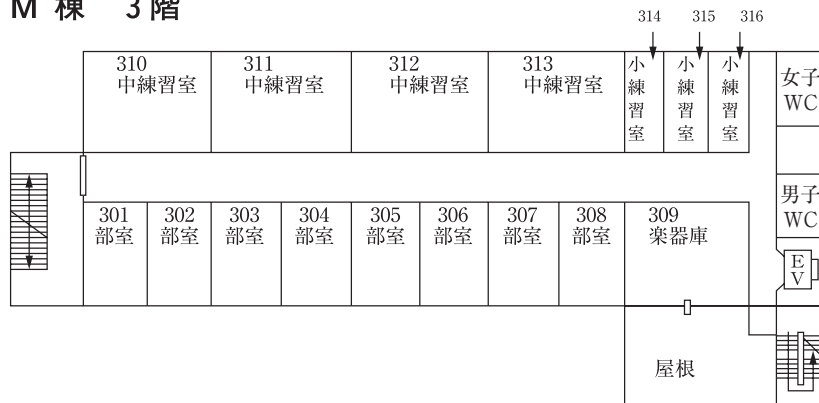
M棟 1階



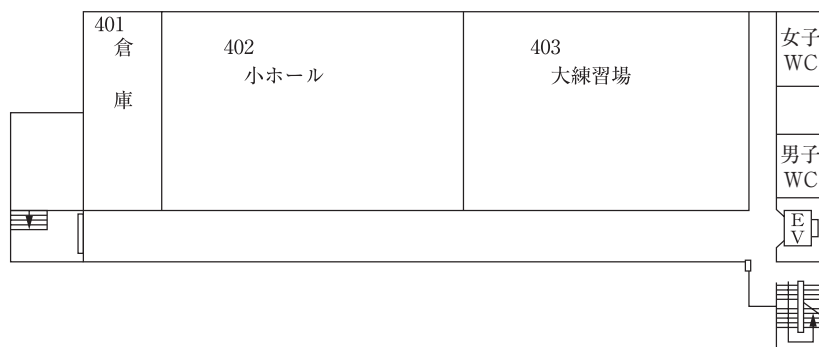
M棟 2階



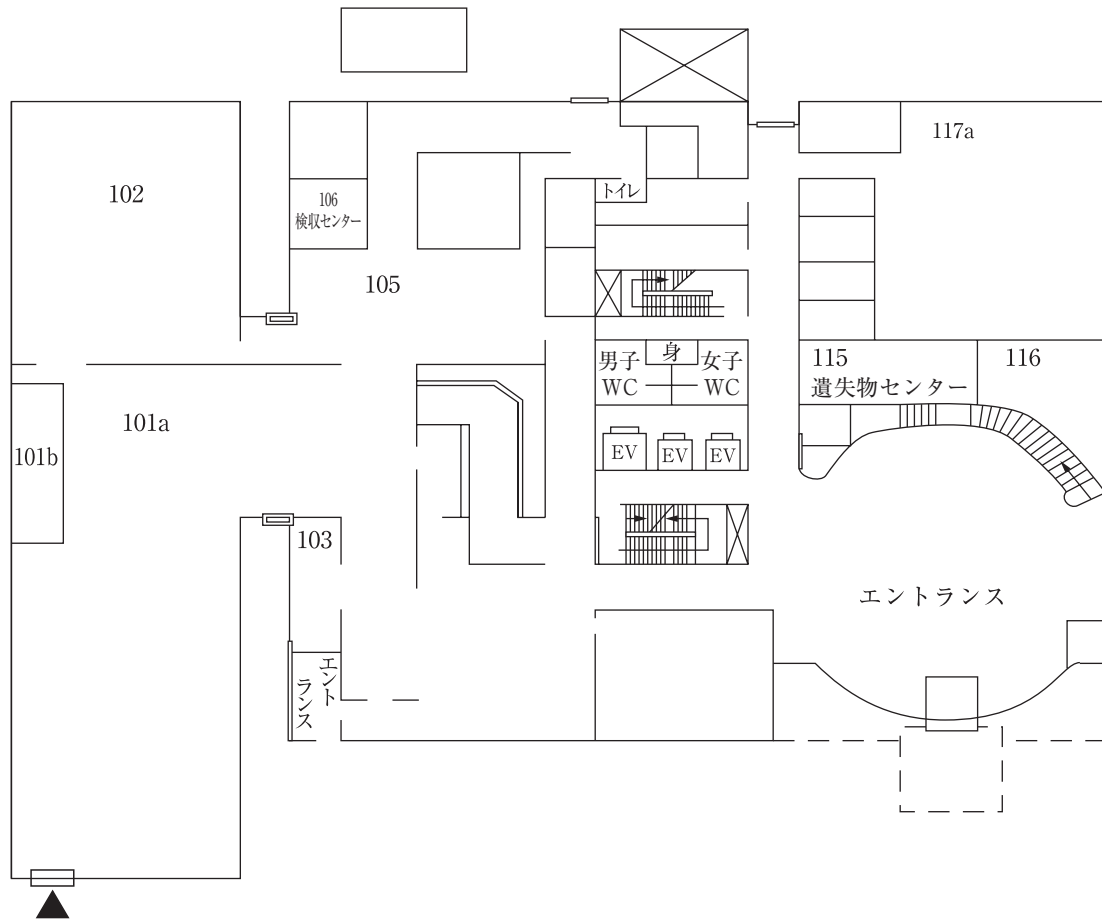
M棟 3階



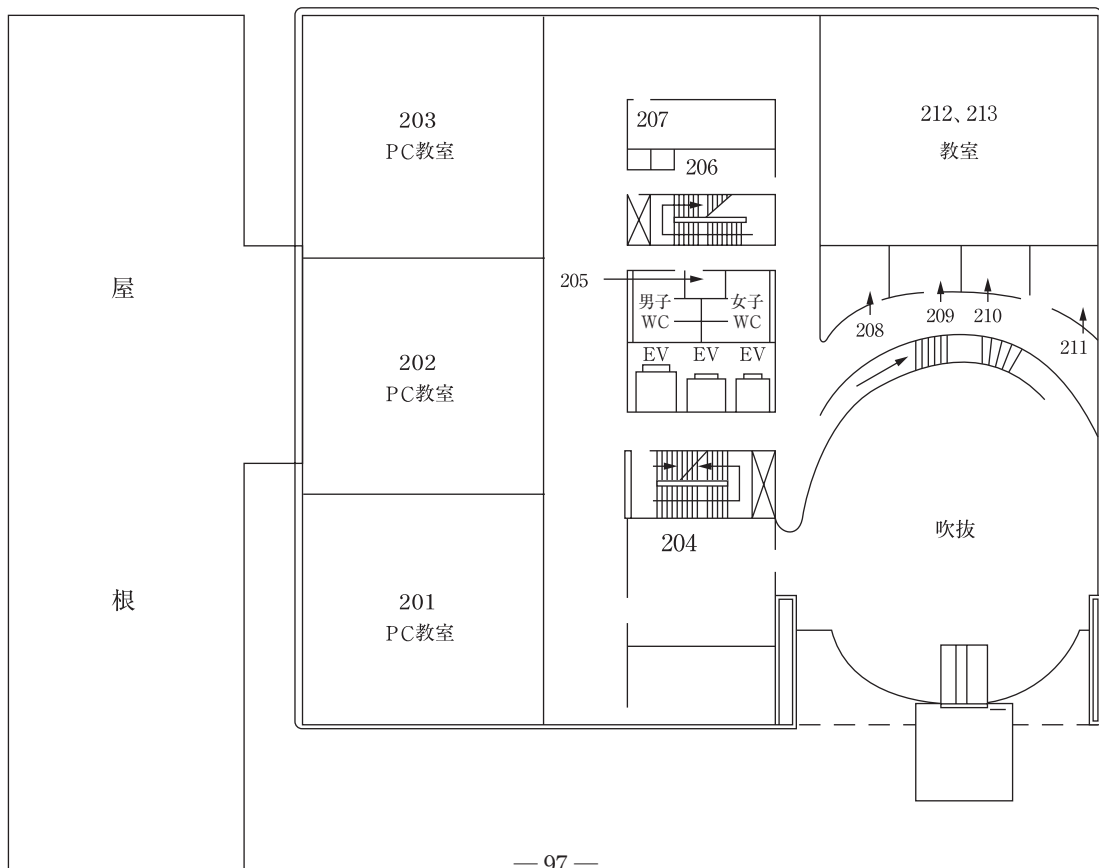
M棟 4階



N棟 1階

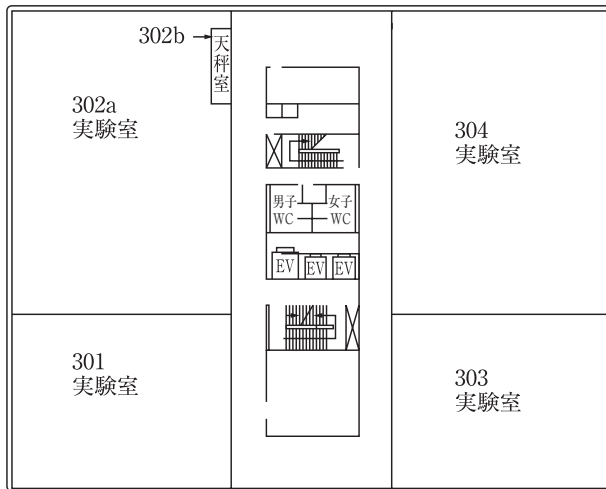


N棟 2階

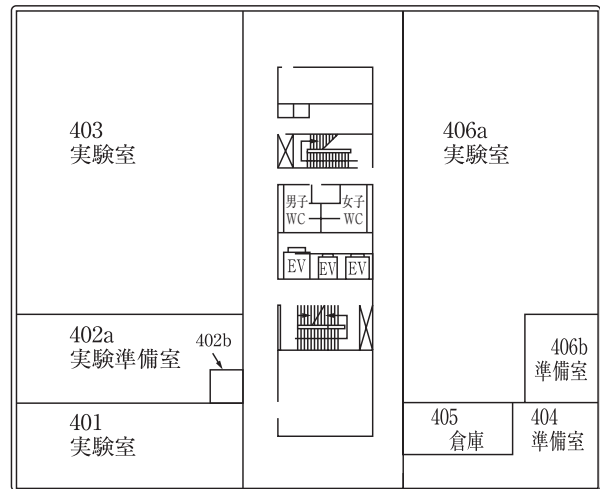


N 棟

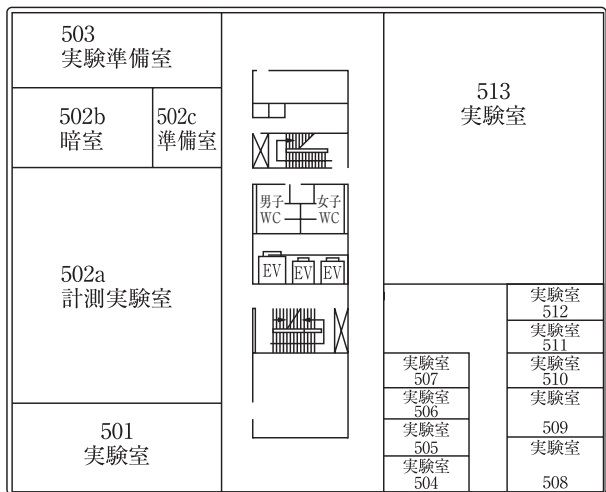
3 階



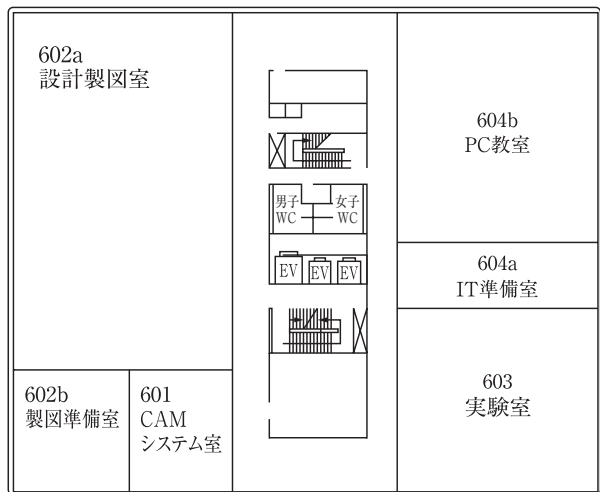
4 階



5 階

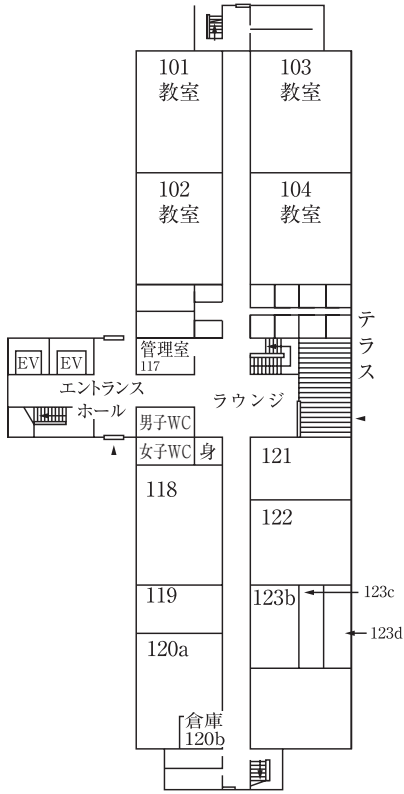


6 階

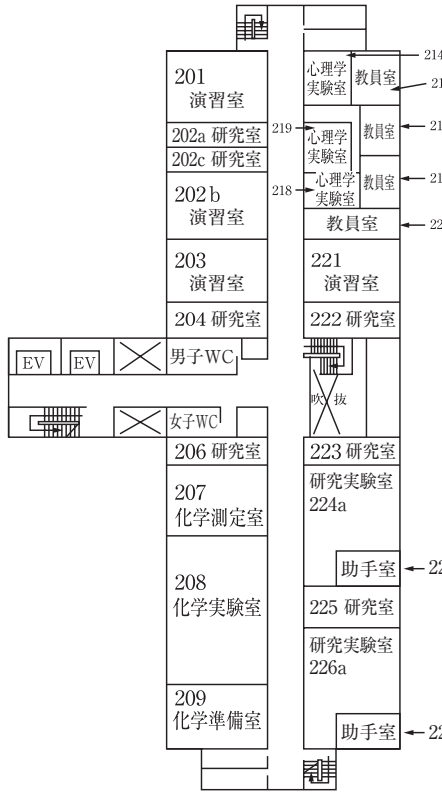


○棟

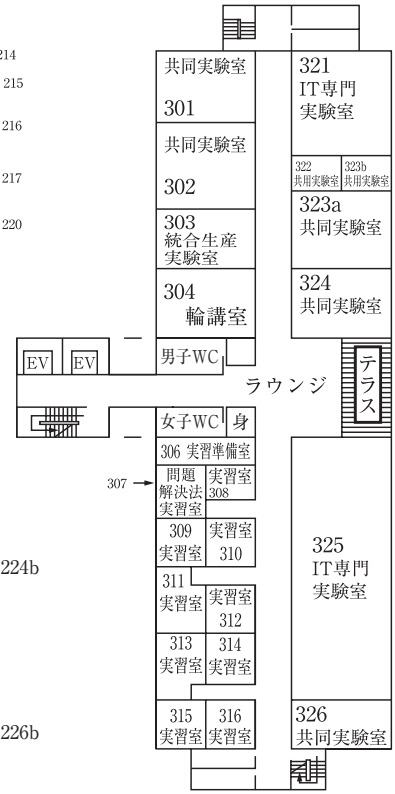
1階



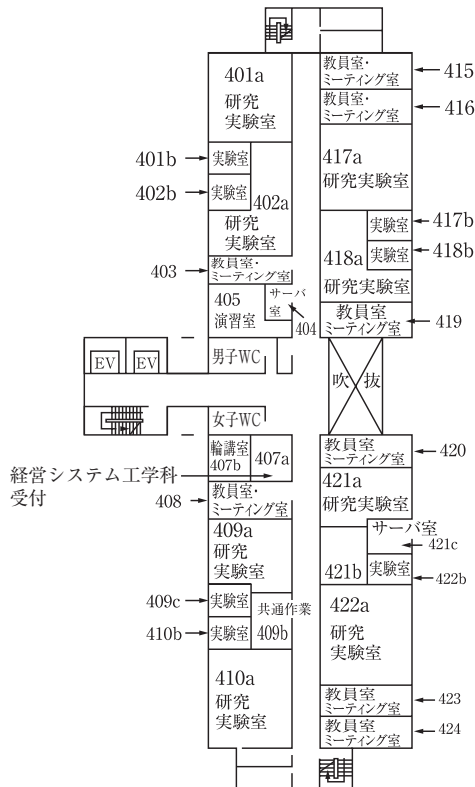
2階



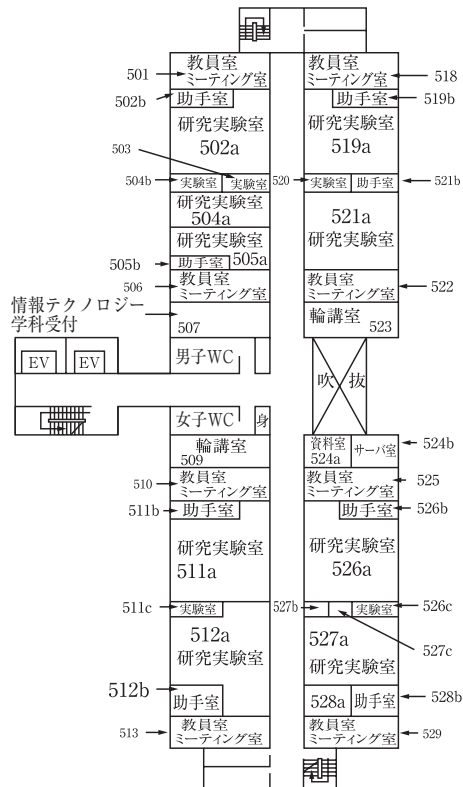
3階



4階



5階



カリキュラムポリシー

(教育課程編成・実施の方針)

ディプロマポリシー

(修了認定・学位授与の方針)

<基礎科学コース>

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

博士前期課程

物理学・数理科学の専門的な学問的基礎と先端的な研究結果、研究手法・技術などを学ぶことができる教育課程を編成する。

具体的には、物性物理学理論、固体物理学、超伝導、宇宙物理学理論、観測的宇宙物理学、原子・分子物理学、量子光学、レーザー物理学、放射線計測学、解析学、非線形数学、微分方程式論、代数学、幾何学、対称性理論、力学系、カオス理論、確率論、数理統計学など、基礎と応用物理学・応用数学的な問題に関する特論を学ぶ。さらに科学・技術と社会、福祉工学、環境科学、リスクベース安全工学、知的財産、科学技術倫理などの環境、安全、倫理的観点を学ぶ。これらによって独力で研究を進めるために必要な専門知識が得られる。また、科学技術英語を必修とすることで、国外で研究発表できる英語力も身につける。

専門分野に関する情報収集、研究計画の立案、試験装置や解析ソフトの開発とそれによる研究の遂行など、総合的な研究指導によって培われる思考力、判断力、洞察力に基づき、独力で研究を推進可能な能力が得られる。学内および国内外での研究発表の機会を数多く設け、表現力を身につける。

独力で研究を遂行できるように、専門以外にも環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

博士後期課程

幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させるための基礎となる豊かな学識を養い、博士の学位に値する研究業績をあげ、学術的な議論の能力が持てるように研究指導を行うことができる教育課程を編成する。

博士論文の作成指導では、物理学または数理科学分野の最先端の研究テーマと方法論を選定し、独創的な研究成果を創出する。また、国外での研究発表により英語力を向上させる。

将来、先端科学技術の発展に寄与できる技術者・研究者として、独り立ちできる能力が培われるように、最新の科学技術に関する情報収集が可能な国内外での学会活動や、産業界のニーズ理解に向けた社会活動などが積極的に行える研究環境を与え、思考力と判断力を向上させる。また、修士および学部の学生とともに研究を進める場を設け、協調性、表現力、指導力を向上させる。

独創的な研究を遂行できるように、専門以外に環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、国際レベルでの研究を推進することができる、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

ディプロマポリシー(修了認定・学位授与の方針)

博士前期課程

基礎科学コースは、以下の要件を満たす学生に対し、「修士(理学)」を授与する。

①知識・技能

- ・基礎・応用物理学の基礎研究、または、それらの応用技術の開発研究、基礎・応用数学の基礎研究、または、それらの幅広い種々の分野における応用(例えば保険数学・ファイナンス技術・数理統計学・数理生物学、非線形系制御技術など)等のいずれかの分野において、独力で研究を推進可能な専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表できる英語力を身につけている。
- ・高度な研究と応用に関する深い専門知識を有している。

②思考力・判断力・表現力

- ・専門知識に基づいて、生命現象を解釈する能力を備えている。加えて、対象の観察と問題把握、分析と解析の訓練、さらに問題解決能力の涵養によって得られる能力により、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者になれる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

- ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、修士の学位に値する高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

博士後期課程

基礎科学コースは、以下の要件を満たす博士後期課程学生あるいは社会人であって、博士論文を提出した者に対し、「博士（理学）」を授与する。

①知識・技能

- ・幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させる専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表し、情報交換のできる英語力を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

- ・高度な専門知識に自らの研究成果を融合させ、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者であると認められる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

- ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、博士の学位に値する人格および高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

<化学コース>

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

博士前期課程

物理化学、有機化学、無機化学の主要3領域、および科学・技術と社会、環境、福祉、リスクベースの安全の問題などを学ぶことができる教育課程を編成する。

具体的には、構造化学特論、量子化学特論、光化学特論、ナノ炭素材料の理論、天然物化学特論、有機化学特論、錯体の材料科学特論、無機化学特論、総合化学特論Ⅰ、総合化学特論Ⅱなど、化学の基礎と応用に関する特論を学ぶ。さらに科学・技術と社会、福祉工学、環境科学、リスクベース安全工学、知的財産、科学技術倫理などの環境、安全、倫理的観点を学ぶ。これらによって独力で研究を進めるために必要な専門知識が得られる。また、科学技術英語を必修とし、国外で研究発表できる英語力も身につける。

博士後期課程

幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させるための基礎となる豊かな学識を養い、博士の学位に値する研究業績をあげ、学術的な議論の能力が持てるように研究指導を行うことができる教育課程を編成する。

博士論文の作成指導では、化学分野の最先端の研究テーマと方法論を選定し、独創的な研究成果を創出する。また、国外での研究発表により英語力を向上させる。

将来、先端科学技術の発展に寄与できる技術者・研究者として、独り立ちできる能力が培われるように、最新の科学技術に関する情報収集が可能な国内外での学会活動や、産業界のニーズ理解に向けた社会活動などが積極的に行える研究環境を与え、思考力と判断力を向上させる。また、修士および学部の学生とともに研究を進める場を設け、協調性、表現力、指導力を向上させる。

独創的な研究を遂行できるように、専門以外に環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、国際レベルでの研究を推進することができ、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

ディプロマポリシー(修了認定・学位授与の方針)

博士前期課程

化学コースは、以下の要件を満たす学生に対し、「修士（理学）」を授与する。

- ・本コースに2年（4学期）以上在学し、専攻共通科目（必修および選択必修）、コース基幹選択必修科目（選択必修）、理工学特別実験・演習（必修）、科学技術英語Ⅰ（必修）を履修の上所定の単位を修得し、正規の研究により学位論文

を提出してその審査に合格しなければならない。ただし、外国語認定については、科学技術英語Ⅰの単位が取れていれば、その単位をもって認定するものとする。在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者については、1年（2学期）以上在学すれば足りるものとする。

- ・修士論文の審査および試験は、その研究において、学術的に新規性があること、独創的であること、社会に貢献できる応用性または応用の可能性を持っているかを見る。また、学位申請を行った学生がこれからの研究や開発などにおいて、その計画力、実施力、そして結果に対する説明責任の力を持っているかを判断する。

①知識・技能

- ・量子化学、物性化学、機能物質化学、物理化学、分子分光学、構造化学、レーザー光化学、理論化学、固体物性理論、ナノ炭素材料、天然物合成化学、生体機能分子の設計と合成、有機化学、有機合成化学、有機金属化学、錯体化学、ランタニド錯体の光化学等のいずれかの分野において、独力で研究を推進可能な専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表できる英語力を身につけている。
- ・高度な研究と応用に関する深い知識を有している。

②思考力・判断力・表現力

- ・専門知識に基づいて、自ら研究計画を立案してそれに取り組み、研究成果を学位論文としてまとめ、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者になれる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

- ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、修士の学位に値する高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

博士後期課程

化学コースは、以下の要件を満たす学生に対し、「博士（理学）」を授与する。

①知識・技能

- ・幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させる専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表し、情報交換のできる英語力を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

- ・高度な専門知識に自らの研究成果を融合させ、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者であると認められる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

- ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、博士の学位に値する人格および高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

<機能物質創成コース>

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

博士前期課程

理学的、工学的に幅広く関連する物質科学分野の研究テーマを主体的に推進していくことを可能とする学問体系を学ぶことができる教育課程を編成する。

具体的には、物性物理学、固体化学、結晶成長学、表面物理学、電子工学、薄膜工学等の領域をカバーする講義をベースとした先端的なカリキュラムなど、基礎と応用に関する特論を学ぶ。さらに科学・技術と社会、福祉工学、環境科学、リスクベース安全工学、知的財産、科学技術倫理などの環境、安全、倫理的観点を学ぶ。これらによって独力で研究を進めるために必要な専門知識が得られる。また、科学技術英語を必修とし、国外で研究発表できる英語力も身につける。

専門分野に関する情報収集、研究計画の立案、試験装置や解析ソフトの開発とそれによる研究の遂行など、総合的な研究指導によって培われる思考力、判断力、洞察力に基づき、独力で研究を推進可能な能力が得られる。学内および国内外での研究発表の機会を数多く設け、表現力を身につける。

独力で研究を遂行できるように、専門以外にも環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

博士後期課程

幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させるための基礎となる豊かな学識を養い、博士の学位に値する研究業績をあげ、学術的な議論の能力が持てるように研究指導を行うことができる教育課程を編成する。

博士論文の作成指導では、材料科学分野の最先端の研究テーマと方法論を選定し、独創的な研究成果を創出する。また、国外での研究発表により英語力を向上させる。

将来、先端科学技術の発展に寄与できる技術者・研究者として、独り立ちできる能力が培われるように、最新の科学技術に関する情報収集が可能な国内外での学会活動や、産業界のニーズ理解に向けた社会活動などが積極的に行える研究環境を与え、思考力と判断力を向上させる。また、修士および学部の学生とともに研究を進める場を設け、協調性、表現力、指導力を向上させる。

独創的な研究を遂行できるように、専門以外に環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、国際レベルでの研究を推進することができ、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

ディプロマポリシー (修了認定・学位授与の方針)

博士前期課程

機能物質創成コースは、以下の要件を満たす学生に対し「修士 (理学)」又は「修士 (工学)」を各々授与する。

①知識・技能

- ・物性物理学、固体化学、物質科学、薄膜工学、電気物性工学、表面科学等のいずれかの分野において、独力で研究を推進可能な専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表できる英語力を身につけている。
- ・高度な研究と応用に関する深い知識を有している。

②思考力・判断力・表現力

- ・専門知識に基づいて、物性物理学、固体化学、結晶成長学、表面物理学、電子工学、薄膜工学等の領域をベースとした先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者になれる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

- ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、修士の学位に値する高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

博士後期課程

機能物質創成コースは、以下の要件を満たす学生に対し、「博士 (理学)」又は「博士 (工学)」を授与する。

①知識・技能

- ・幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させる専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表し、情報交換のできる英語力を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

- ・高度な専門知識に自らの研究成果を融合させ、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者であると認められる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

- ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、博士の学位に値する人格および高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

<生命科学コース>

カリキュラムポリシー (教育課程編成・実施の方針)

博士前期課程

生物学、化学、物理学を母体とした生命科学を学ぶことができる教育課程を編成する。

具体的には、細胞生物学、タンパク質科学、微生物分子生物学、ゲノム情報科学、生体分子イメージング、神経科学、生体機能化学、生体機能分析、構造生化学、バイオインフォマティクス、バイオテクノロジー、生命科学研究法など、基

礎と応用科学的な問題に関する特論を学ぶ。さらに科学・技術と社会、福祉工学、環境科学、リスクベース安全工学、知的財産、科学技術倫理などの環境、安全、倫理的観点を学ぶ。これらによって独力で研究を進めるために必要な専門知識が得られる。また、科学技術英語を必修とし、英語による学術論文の執筆と国外で研究発表できる英語力を身につける。

専門分野に関する情報収集、研究計画の立案、試験装置や解析ソフトの開発とそれによる研究の遂行など、総合的な研究指導によって培われる思考力、判断力、洞察力に基づき、独力で研究を推進可能な能力が得られる。学内および国内外での研究発表の機会を数多く設け、表現力を身につける。

独力で研究を遂行できるように、専門以外にも環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出てから必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

博士後期課程

幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させるための基礎となる豊かな学識を養い、博士の学位に値する研究業績をあげ、学術的な議論の能力が持てるように研究指導を行うことができる教育課程を編成する。

博士論文の作成指導では、生命科学分野の最先端の研究テーマと方法論を選定し、独創的な研究成果を創出する。また、国外での研究発表により英語力を向上させる。

将来、先端科学技術の発展に寄与できる技術者・研究者として、独り立ちできる能力が培われるように、最新の科学技術に関する情報収集が可能な国内外の学会活動や、産業界のニーズ理解に向けた社会活動などが積極的に行える研究環境を与え、思考力と判断力を向上させる。また、修士および学部の学生とともに研究を進める場を設け、協調性、表現力、指導力を向上させる。

独創的な研究を遂行できるように、専門以外にも環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、国際レベルでの研究を推進することができ、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

ディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）

博士前期課程

生命科学コースは、以下の要件を満たす学生に対し、「修士（理学）」を授与する。

①知識・技能

- ・生物学、化学、物理学を母体とした生命科学における分子遺伝学、脳科学、微生物化学、生命情報科学、生体分析化学、生物物理学、ナノバイオ生物物理学等のいずれかの分野において、独力で研究を推進可能な専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表できる英語力を身につけている。
- ・高度な研究と応用に関する深い知識を、複合フロンティアプログラムでは科学技術の成果に対する社会活動面からの評価および科学・技術に対する社会経済活動からのニーズ等を評価できる幅広い専門知識を有している。

②思考力・判断力・表現力

- ・専門知識に基づいて、生命現象を解釈する能力を備えている。加えて、対象の観察と問題把握、分析と解析の訓練、さらに問題解決能力の涵養によって得られる能力により、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者になれる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

- ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、修士の学位に値する高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

博士後期課程

生命科学コースは、以下の要件を満たす学生に対し、「博士（理学）」を授与する。

①知識・技能

- ・幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させる専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表し、情報交換のできる英語力を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

- ・高度な専門知識に自らの研究成果を融合させ、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者であると認められる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

- ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、博士の学位に値する人格および高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

<電気電子工学コース>

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

博士前期課程

電気電子材料、情報処理通信、計測制御、電力変換、生体・電子応用等の5つの領域の講義と、学術論文を介した先端技術・知識などを学ぶことができる教育課程を編成する。

具体的には、電子物性・材料、半導体工学、電子物性工学・生体電子工学、マイクロ波・ミリ波計測、環境電磁工学、電子回路、アナログデジタル回路、情報工学、電子通信、信号処理、スイッチング回路、電子制御、インテリジェント制御システム、パワーエレクトロニクス、モータードライブなど、基礎と応用実践的な問題に関する特論を学ぶ。さらに科学・技術と社会、福祉工学、環境科学、リスクベース安全工学、知的財産、科学技術倫理などの環境、安全、倫理的観点を学ぶ。これらによって独力で研究を進めるために必要な専門知識が得られる。また、科学技術英語を必修とし、国外で研究発表できる英語力も身につける。

専門分野に関する情報収集、研究計画の立案、試験装置や解析ソフトの開発とそれによる研究の遂行など、総合的な研究指導によって培われる思考力、判断力、洞察力に基づき、独力で研究を推進可能な能力が得られる。学内および国内外での研究発表の機会を数多く設け、表現力を身につける。

独力で研究を遂行できるように、専門以外にも環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

博士後期課程

幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させるための基礎となる豊かな学識を養い、博士の学位に値する研究業績をあげ、学術的な議論の能力が持てるように研究指導を行うことができる教育課程を編成する。

博士論文の作成指導では、電気電子工学分野の最先端の研究テーマと方法論を選定し、独創的な研究成果を創出する。また、国外での研究発表により英語力を向上させる。

将来、先端科学技術の発展に寄与できる技術者・研究者として、独り立ちできる能力が培われるように、最新の科学技術に関する情報収集が可能な国内外での学会活動や、産業界のニーズ理解に向けた社会活動などが積極的に行える研究環境を与え、思考力と判断力を向上させる。また、修士および学部の学生とともに研究を進める場を設け、協調性、表現力、指導力を向上させる。

独創的な研究を遂行できるように、専門以外に環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、国際レベルでの研究を推進することができ、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

ディプロマポリシー(修了認定・学位授与の方針)

博士前期課程

電気電子工学コースは、以下の要件を満たす学生に対し「修士(工学)」を授与する。

①知識・技能

- ・電気電子工学関連の電気電子材料、情報処理通信、計測制御、電力変換、生体・電子応用等のいずれかの分野において、独力で研究を推進可能な専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表できる英語力を身につけている。

- ・高度な研究と応用に関する深い知識を有している。
- ②思考力・判断力・表現力
 - ・専門知識に基づいて、学術・教育への貢献ができ、高い倫理観を身につけ、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者になれる思考力・判断力・表現力を有している。
- ③意欲・関心・態度
 - ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、修士の学位に値する高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

博士後期課程

電気電子工学コースは、以下の要件を満たす学生に対し、「博士（工学）」を授与する。

- ①知識・技能
 - ・幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させる専門知識と研究遂行能力を有している。
 - ・国外で研究発表し、情報交換のできる英語力を身につけている。
- ②思考力・判断力・表現力
 - ・高度な専門知識に自らの研究成果を融合させ、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者であると認められる思考力・判断力・表現力を有している。
- ③意欲・関心・態度
 - ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、博士の学位に値する人格および高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

<機械創造コース>

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

博士前期課程

材料力学、熱力学、流体力学、機械力学の主要4領域、および科学・技術と社会、環境、福祉、安全・危険の問題などを学ぶことができる教育課程を編成する。

具体的には、機械力学、材料力学、超音波・レーザ計測、機械制御、工作機械、エネルギーシステム、輸送現象、伝熱工学、流体力学、航空宇宙工学、先端生産技術など、基礎と応用工学的な問題に関する特論を学ぶ。さらに科学・技術と社会、福祉工学、環境科学、安全工学、知的財産、科学技術倫理などの環境、安全、倫理的観点を学ぶ。これらによって独力で研究を進めるために必要な専門知識が得られる。また、科学技術英語を必修とし、国外で研究発表できる英語力も身につける。

専門分野に関する情報収集、研究計画の立案、試験装置や解析ソフトの開発とそれによる研究の遂行など、総合的な研究指導によって培われる思考力、判断力、洞察力に基づき、独力で研究を推進可能な能力が得られる。学内および国内外での研究発表の機会を数多く設け、表現力を身につける。

独力で研究を遂行できるように、専門以外にも環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

博士後期課程

幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させるための基礎となる豊かな学識を養い、博士の学位に値する研究業績をあげ、学術的な議論の能力が持てるように研究指導を行う学ぶことができる教育課程を編成する。

博士論文の作成指導では、機械工学分野の最先端の研究テーマと方法論を選定し、独創的な研究成果を創出する。また、国外での研究発表により英語力を向上させる。

将来、先端科学技術の発展に寄与できる技術者・研究者として、独り立ちできる能力が培われるように、最新の科学技術に関する情報収集が可能な国内外での学会活動や、産業界のニーズ理解に向けた社会活動などが積極的に行える研究環境を与え、思考力と判断力を向上させる。また、修士および学部の学生とともに研究を進める場を設け、協調性、表現力、指導

力を向上させる。

独創的な研究を遂行できるように、専門以外に環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、国際レベルでの研究を推進することができ、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

ディプロマポリシー (修了認定・学位授与の方針)

博士前期課程

機械創造コースは、以下の要件を満たす学生に対し、「修士 (工学)」を授与する。

1. 本コースに2年 (4学期) 以上在学し、専攻共通科目 (必修および選択必修)、コース基幹選択必修科目 (選択必修)、理工学特別実験・演習 (必修)、科学技術英語 I (必修) を履修の上、所定の単位を修得し、正規の研究により学位論文を提出してその審査に合格しなければならない。ただし、外国語認定については、科学技術英語 I の単位が取れていれば、その単位をもって認定するものとする。また、在学期間に関しては、優れた研究業績を挙げた者については、1年 (2学期) 以上在学すれば足りるものとする。
2. 修士論文の審査および試験は、その研究において、学術的に新規性があること、独創的であること、社会に貢献できる応用性または応用の可能性を持っているかを判定する。また、学位申請を行った学生がこれからの研究や開発などにおいて、その計画力、実施力、そして結果に対する説明責任の力を持っているかを判断する。

博士後期課程

機械創造コースは、以下の要件を満たす学生に対し、「博士 (工学)」を授与する。

①知識・技能

- ・幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させる専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表し、情報交換のできる英語力を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

- ・高度な専門知識に自らの研究成果を融合させ、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者であると認められる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

- ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、博士の学位に値する人格および高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

<知能情報コース>

カリキュラムポリシー (教育課程編成・実施の方針)

博士前期課程

ソフトウェアテクノロジー、メカトロニクステクノロジー、ヒューマンファクタテクノロジー、ネットワークテクノロジーの4分野および、科学・技術と社会、環境、福祉、リスクベースの安全の問題などを学ぶことができる教育課程を編成する。

具体的には、情報セキュリティ特論、情報基礎論、発見科学特論、設計情報工学特論、情報発信スキル特論、非線形制御、ロボット工学特論、生体運動学、身体性知能論、ワールドワイドウェブ特論、ソフトウェア科学特論、人工知能特論、知能ソフトウェア科学特論、ウェアラブルメディア特論、スマートメディア特論、システム工学特論、画像処理特論、音声処理特論など、基礎と応用工学的な問題に関する特論を学ぶ、さらに科学・技術と社会、福祉工学、環境科学、リスクベース安全工学、知的財産、科学技術倫理などの環境、安全、倫理的観点を学ぶ。これらによって独力で研究を進めるために必要な専門知識が得られる。また、科学技術英語を必修とし、国外で研究発表できる英語力も身につける。

専門分野に関する情報収集、研究計画の立案、試験装置や解析ソフトの開発とそれによる研究の遂行など、総合的な研究指導によって培われる思考力、判断力、洞察力に基づき、独力で研究を推進可能な能力が得られる。学内および国内外での研究発表の機会を数多く設け、表現力を身につける。

独力で研究を遂行できるように、専門以外にも環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態

度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

博士後期課程

幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させるための基礎となる豊かな学識を養い、博士の学位に値する研究業績をあげ、学術的な議論の能力が持てるように研究指導を行うことができる教育課程を編成する。

博士論文の作成指導では、情報テクノロジー分野の最先端の研究テーマと方法論を選定し、独創的な研究成果を創出する。また、国外での研究発表により英語力を向上させる。

将来、先端科学技術の発展に寄与できる技術者・研究者として、独り立ちできる能力が培われるように、最新の科学技術に関する情報収集が可能な国内外での学会活動や、産業界のニーズ理解に向けた社会活動などが積極的に行える研究環境を与え、思考力と判断力を向上させる。また、修士および学部の学生とともに研究を進める場を設け、協調性、表現力、指導力を向上させる。

独創的な研究を遂行できるように、専門以外に環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、国際レベルでの研究を推進することができ、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

ディプロマポリシー（修了認定・学位授与の方針）

博士前期課程

知能情報コースは、以下の要件を満たす学生に対し「修士（工学）」又は「修士（理学）」を授与する。

①知識・技能

- ・知能および情報テクノロジー全般の基礎知識を有するとともに、専門基礎知識として、グラフィックス、ソフトウェア科学、知識・言語・視覚などの人工知能、人間情報学、ロボティクス、ネットワーク、セキュリティなどのいずれかの分野において、独創的な研究を推進可能な専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表できる英語力を身につけている。
- ・高度な研究と応用に関する深い知識を有している。

②思考力・判断力・表現力

- ・専門知識に基づいて、セキュリティ事象や、インシデントに対する対応の判断・洞察能力、非言語情報や、膨大な情報空間の処理能力、および、可視化のためのプログラミング技術を身につけ、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者になれる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

- ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、修士の学位に値する高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

博士後期課程

知能情報コースは、以下の要件を満たす学生に対し、「博士（工学）」又は「博士（理学）」を授与する。

①知識・技能

- ・幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させる専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表し、情報交換のできる英語力を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

- ・高度な専門知識に自らの研究成果を融合させ、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者であると認められる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

- ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、博士の学位に値する人格および高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

<マネジメントテクノロジーコース>

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

博士前期課程

分析技術、モデル化技術、最適化技術などを学ぶことができる教育課程を編成する。

具体的には、統計的機械学習、数理計画、経営管理システム、意思決定特論、企業情報システム、カイゼンマネジメントなど、基礎と応用工学的な問題に関する特論を学ぶ。さらに科学・技術と社会、福祉工学、環境科学、リスクベース安全工学、知的財産、科学技術倫理などの環境、安全、倫理的観点を学ぶ。これらによって独力で研究を進めるために必要な専門知識が得られる。また、科学技術英語を必修とし、国外で研究発表できる英語力も身につける。

専門分野に関する情報収集、研究計画の立案、試験装置や解析ソフトの開発とそれによる研究の遂行など、総合的な研究指導によって培われる思考力、判断力、洞察力に基づき、独力で研究を推進可能な能力が得られる。学内および国内外での研究発表の機会を数多く設け、表現力を身につける。

独力で研究を遂行できるように、専門以外に環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

博士後期課程

幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させるための基礎となる豊かな学識を養い、博士の学位に値する研究業績をあげ、学術的な議論の能力が持てるように研究指導を行うことができる教育課程を編成する。

博士論文の作成指導では、マネジメントテクノロジー分野の最先端の研究テーマと方法論を選定し、独創的な研究成果を創出する。また、国外での研究発表により英語力を向上させる。

将来、先端科学技術の発展に寄与できる技術者・研究者として、独り立ちできる能力が培われるように、最新の科学技術に関する情報収集が可能な国内外の学会活動や、産業界のニーズ理解に向けた社会活動などが積極的に行える研究環境を与え、思考力と判断力を向上させる。また、修士および学部の学生とともに研究を進める場を設け、協調性、表現力、指導力を向上させる。

独創的な研究を遂行できるように、専門以外に環境、安全、倫理等の諸問題について、社会に出た時に必要な関心と態度を、研究活動を通じて養う。国内外でのインターンシップの機会を与えることで、グローバルな環境を体験し、国際レベルでの研究を推進することができ、社会人としてグローバルに活躍する意欲を養う。

ディプロマポリシー(修了認定・学位授与の方針)

博士前期課程

マネジメントテクノロジーコースは、以下の要件を満たす学生に対し「修士(工学)」を授与する。

①知識・技能

・高度な研究と応用に関する深い知識を有し、分析技術、モデル化技術、最適化技術のいずれかの分野において、独力で研究を推進可能な専門知識と研究遂行能力を有している。また成果を国外で発表ができる英語力を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

・専門知識に基づいて、独創的な課題設定を行い、専門領域の学術的水準に達している理論・実践の面から研究を進め、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者になれる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、修士(工学)の学位に値する高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。

博士後期課程

マネジメントテクノロジーコースは、以下の要件を満たす学生に対し、「博士(工学)」を授与する。

①知識・技能

- ・幅広い専門知識に独創的な自らの研究業績を融合させる専門知識と研究遂行能力を有している。
- ・国外で研究発表し、情報交換のできる英語力を身につけている。

②思考力・判断力・表現力

- ・高度な専門知識に自らの研究成果を融合させ、先端科学技術の発展に寄与できる広い視野を持つ技術者・研究者であると認められる思考力・判断力・表現力を有している。

③意欲・関心・態度

- ・社会人としてグローバルに活躍する意欲に加え、博士の学位に値する人格および高い倫理観と科学技術の発展に寄与できる人間性を身につけている。